

「『久高島方言辞典』 福治友邦・加治工真市 共著」 出版のために

加治工, 真市 / 福治, 友邦

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

30

(開始ページ / Start Page)

51

(終了ページ / End Page)

153

(発行年 / Year)

2006-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012539>

『久高島方言辞典』 福治友邦・加治工真市共著」出版のために

加治工真市
福治 友邦

基礎語彙 第2分野 動物

「アーガイ[「?a:gai] (名)

(動) 魚名。ブダイ科。和名、ひぶだい。成魚の体長は約60センチ。アガイ (糸満方言)。刺身にすると美味である。

「アーケージュ[「?a:ke:ɕu] (名)

(動) とんぼ (蜻蛉)。老人層の人達が使用していた。70歳代の人達からは「トンボ[「tombo] (トンボ) を使用するようになった。アーケー「ジューガ」 スウ「ルー」ン [「?ake:「ɕu:ga」 θu「ru:」ŋ] (トンボが飛んでいる)

「アイ[「?ai] (名)

(動) 蟻。「アイヌ」 グン[「?ainu」 guŋ] (蟻がいる)。「アマカイ アイヌ」
ホーティ 「アッキースイガ[「?amakai ?ainu」 pΦo:ti 「?akki:θiga] (あそこ
に蟻が這っているが)。アンチ 「アイヌ」 マン「ドゥー」ン ムノー[「?anɕi
「?ainu」 man「du:」m muno:] (なんとあんなに蟻が多いことよ)

「アイコー[「?aiko:] (名)

(動) あり(蟻)。「アイ[「?ai] (蟻)ともいう。「アイコーヌ」 グン[「?aiko:nu」 guŋ]
(蟻がいる)

「アカイチャ[「?akaiɕa] (名)

(動) あかいか (赤烏賊)。2、3日間浜で天日乾燥してスルメイカに製造した。戦前はイカ釣り漁が盛んであった。

「アカイラン[「?akairan] (名)

(動) 魚名、ヒメジ科。和名、りゅうきゅうあかひめじ。体長約40センチ。ユーアカジンバー (糸満方言)

アカ「シャー[「?aka「ɕa:] (名)

(動) 魚名、スズキ科。和名、あかはた。体長約25センチ。ハンゴミーバイ (糸満方言)

アカ「リン[「?aka「rin] (名)

(動) 魚名、スズキ科。和名、ゆかたはた。体長約30センチ。アカミーバイ (糸満

方言)

アサ「ヤー」[ʔasa ɾja:] (名)

(動) 魚名、イトウダイ科。和名、いっとうだいの仲間。体長約25センチ。アカユウ (糸満方言)

「アタビ」チ[ʔatabi ʧi] (名)

(動) かえる (蛙)。「ミヤーフグー」[mja: ʧugu:] (溜池) に棲息していた。

「アナヤグワー」[ʔanaja:gwa:] (名)

エラブウナギを獲る人達の休憩所。徳仁港の入り口の左岸にある。エラブウナギを漁獲する人達が仮眠をとる所。「穴屋小屋」の義。一晩中かけて漁獲するので休息する場所が必要であった。「アナヤグワーカイ」 ユク「タイ」 シュン[ʔanaja:gwa:kai ɾjuku ɾtai ɾʃun] (穴小屋の休憩所で休息したりする)。「アナヤグワーヤ」 ユクイ「ルクマ ヤル」[ʔanaja:gwa:ja ɾjukui ɾrukuma ɾjaru] (穴屋小屋は休み所<休憩所>である)

「アバ」[ʔapa] (名)

(動) 魚名、オニオコゼ科。和名、おにだるまおこぜ。体長約40センチ。イシアファー (糸満方言)。和名、ひめおにおこぜ。体長約20センチ。ドルアファー (糸満方言)

アバ「スァー」[ʔaba ɾra:] (名)

(動) 魚名、ハリセンボン科。和名、ねずみふぐ。体長約40センチ。イノーアバサー (糸満方言)

「アビー」ン[ʔabi: ɾŋ] (自動)

吼える。動物が吼えることをいう。久高島には、昔は犬、牛、馬などはいなかったという。ただ、カベールの森には神馬がいて、ソールイガナシが神馬に跨っておられ、それが「スァティマンヌ ワカグラ」[ɾratimannu wakagura] (鬣くたてがみ) の若駒) であるという口碑がある。鶏が鳴くのは、「スウイヌ ウテーン」[θuinu ʔute: ɾŋ] (鶏が鳴く) という。「スウイン」 ウタタイ 「ユーン」 「アキタイ」[θuinu ʔutatai ɾju: ɾŋ ʔakitai] (鶏も鳴いたので夜も明けた)

アピ「ラー」[ʔapi ɾra:] (名)

(動) あひる (家鴨)。アピ「ラー」 ティ「カナトゥー」ン トゥ「クマー グヤピラ」ンタン[ʔapi ɾra: ɾti ɾkanatu: ɾn tu ɾkuma: gujabirantaŋ] (家鴨を飼育しているところはありませんでした<おりませんでした>)

アブ「クヤー」[ʔabu ɾkuja:] (名)

(動) ハマグリ (蛤)。アブ「クヤーヌ ミー」ヤ ンマ「スァン」[ʔabu ɾkuja:nu mi: ɾja a ʔmma ɾraŋ] (蛤の実はおいしい)

「アファー」[「ʔaʔja:」] (名)

母豚。繁殖用母豚。アファー「ワー」[ʔaʔja:「wa:」] (繁殖用母豚) ともいう。久高島では繁殖用母豚はいなかった。子豚を購入してきて、それを肥育して売った。

ア「マン」[ʔa「man」] (名)

(動) ヤドカリ。爪を除去して魚釣りの餌に用いた。アマン「プッティ イユ クワーシーガ」イカ「ʔamam「putti ʔiju kwa:ʃi:ga」ʔika」(ヤドカリを拾って魚を釣りに行こう)。アマン「ムンダニツ」チ「イユ クワーシュン」[ʔamam「mundanit」ʃi「ʔiju kwa:ʃun」] (ヤドカリを餌にして魚をつる)

「アミキヤー」[「ʔamikja:」] (名)

(動) フグ (河豚)。アミ「キヤーカイ アタイン」[ʔami「kja:kai ʔatain」] (フグにあたる<フグ食中毒する>)

アミプイアン「ダー」[ʔamipuiʔan「da:」] (名)

(動) なめくじ。雨降りの後によく出た。アミ「プティン アトー」アミプイアン「ダー」ガ「ユウ コンギティ シューン」[ʔami「pʔutin ʔato:」ʔamipuiʔan「da:」ga「ju:」ʔngiti「ʃu:n」] (雨が降った後にはナメクジがよく出てくる)。マシュ「マキヤー」ヒースア「maʃu「maki:」ja「çi:ra」] (塩を撒いたら死ぬよ)

アラ「ケー」[ʔara「ke:」] (名)

しゃこ貝

アン「ダー」[ʔan「da:」] (名)

(動) 魚名、ウツボ科。和名、おながうつぼ。体長約1.5メートル。アカウナジャー (糸満方言)

「アンモーナザ」[「ʔammo:naʒa」] (名)

(動) 魚名、ベラ科。和名、せなすじべら。体長約20センチ。クサバー (糸満方言)

「イキグサー」[「ʔikigusa:」] (名)

(動) 魚名、キントキダイ科。きんときだいの仲間。体長約28センチ。マーヒチ (糸満方言)

イシ「バイ」[ʔiʃi「bai」] (名)

(動) 魚名、イスズ科。和名、かんもんはた。体長約20センチ。イシミーバイ (糸満方言)

イシャトー「メー」[ʔiʃato:「me:」] (名)

(動) かまきり (蟻螂)。イシャトー「メー」ティ「カラ」ン[ʔiʃato:「me:」ti「kara」n」] (かまきりを捕まえた)。ワラビン「シャヤー」イシャトー「メー」ティカリ「アシルータン」[warabi:n「ʃa:ja」ʔiʃato:「me:」tikari「ʔaʃiru:tan」] (子供た

ちは蟻螂を捕まえて遊んでいた)

イチ「ム」シ[ʔiʃi「mu」ʃi] (名)

(動) 獣。動物の総称。他人を罵るときにいう。イチ「ムシネー」ン「ムノ」[ʔiʃi「muʃine:」m「muno:」] (獣のような奴)。イチ「ムン」[ʔiʃi「mun」] (獣。動物全体。総称) ともいう。イチ「ムンヌ」グン[ʔiʃi「munnu」gun] (動物がいる)

イチ「ムン」[ʔiʃi「mun」] (名)

(動物) 動物。動物の総称。家畜。イチ「ムン」ティ「カナトゥーン」[ʔi「ʃimun」ti「kanatu:」] (家畜を飼育している)。イチ「ムン」ティ「カネーブシャン」[ʔi「ʃimun」ti「kane:bufaŋ」] (家畜を飼育したい)

「イチャ」[ʔiʃa] (名)

(動) いか(烏賊)。「イチャクワー」シュン[ʔiʃa kwa:ʃun] (烏賊を釣る)。「イチャクワーチャン」[ʔiʃa kwa:ʃaŋ] (烏賊を釣った)。「クワ」サ「ラン」[~kwa:sa「raŋ」] (~釣れない)

イチ「ヤ」ビラー[ʔiʃa「bira:」] (名)

(動) 魚名。スズメダイ科。和名、みすじりゅうきゅうすずめ。体長約10センチ。イシビキ(糸満方言)

イチ「ヤ」ユー[ʔiʃa「ju:」] (名)

餌木。烏賊を釣るのに用いる擬餌の木片。イチ「ヤ」ユー「シャー」マ「フブン」シミ「クワ」シュン[ʔiʃa「ju:ʃa:ma」ʔubun「ʃimi kwa:ʃu」ŋ] (餌木で甲烏賊を釣る)

「イビ」[ʔibi] (名)

(動) えび(海老)の総称。伊勢海老。「イビ」スウイ「ン」[ʔibi θui「ŋ」] (海老を獲る。伊勢海老を獲る)

「イビヤ」[ʔibja:] (名)

(動) 魚名。スズキ科。和名、おきなわめぎす。体長約18センチ。アカベ(糸満方言)

「イユ」[ʔiju] (名)

(動) 魚。魚の総称。「イユ」ヌ「グン」[ʔijunu「gun」] (魚がいる)。「イユクワ」シュン[ʔiju kwa:ʃun] (魚を釣る)。「ヤ」ネー「クワ」スアリーヌ「イユ」ン「グイヤヤ」[「ja:ne:」kwa:「ra:ri:nu ʔiju:」ŋ「guijaja:」] (君に釣られる魚もいるかなあ)。「イユ」ティキン[ʔiju tikiŋ] (魚を突く)。「イユ」ティキー「ガ」イカ[ʔiju tiki:「ga ʔika」] (魚を突きに行こう)

「イラ」チャ[ʔira「ʃa」] (名)

鱗。魚の鱗。「イラ」チャ「バ」ギン[ʔiraʃa「pʰagiŋ」] (鱗を剥ぐ)。「バ」ガン[「pʰagaŋ」] (剥がない。剥ぎ取らない)。「バ」ジャ「ン」[「pʰaʃa」ŋ] (剥いだ)。「イラ」チャ

「バハジャン」[ʔɪraʃa ʔɸaʃaŋ] (鱗を剥いだ)

イ「ラブ」[ʔi ʔrabu] (名)

(動) くらげ (水母)。刺胞に強い毒をもち、それに触れると刺される。秋ごろによく現れる。イ「ラブネー」 スア「スアッタ」ン[ʔi ʔrabune: ʔ ra ʔratta ŋ] (水母にさされた)

「イラブ」チ[ʔɪrabu ʔʃi] (名)

(動) 魚名、ブダイ科。和名、ぶだいの仲間。体長約30センチ。アカグチャー (糸満方言)

「イラ」ン[ʔɪra ŋ] (名)

(動) 魚名、ヒメジ科。和名、おうごんひめじ。体長約25センチ。ジンバー (糸満方言)

「イン」[ʔiŋ] (名)

(動) イヌ (犬)。太平洋戦争終了 (昭和20年) 前の久高島には犬は飼育されていなかった。戦後になって牛や犬が飼育されるようになった。牛は肉牛として飼育されており、農耕用牛としては飼育されていない。クダカ「ジマカヤー」 イノー 「グラント」ン[ʔkudaka ʃimakaja: ʔino: ʔgurantaŋ] (久高島には犬はいなかった)

「ウイ」[ʔui] (名)

(動) うい (海栗) の一種。食用にならないもの。畑の肥料にした。

「ウーティ」 イキン[ʔu:ti ʔikiŋ] (連)

追っていく。「ウヤ」 「ウーティ」 イキン[ʔuja ʔu:ti ʔikiŋ] (親の後を追っていく)。「ワラビ」 「ウーティ」 イキン[ʔwarabi ʔu:ti ʔikiŋ] (子供を追って行く)

「ウサギ」[ʔusagi] (名)

(動) うさぎ (兎)。標準語からの借用語か。久高島には兎は飼育されていなかった。

「ウシ」[ʔuʃi] (名)

(動) うし (牛)。久高島には牛は飼育されていなかった。明治30年生まれの久高島出身の人が沖縄本島のある初等学校の運動会で黒牛をみて驚愕し、アッ「ピ」ヌ 「ワー」[ʔap ʔpi nu ʔwa:] (あんなに大きな豚がいる) と言ったという伝承がある。久高島では牛を見る機会がなかったのである。戦後になって、肉牛を飼育する人が現れた。

「ウジ」[ʔuʃi] (名)

(動) うじ (蛆)。「ウジヌ」 「ワチューン」[ʔuʃinu ʔwaʃu:ŋ] (蛆が湧いている)。「ハー」 「ヒティリヨーツ」チン 「ヒティラン」クトウ 「ウジヌ」 「ワチューサー」[ʔha: ʃitirijo:t ʃiŋ ʃitiraŋ kutu ʔuʃinu ʔwaʃu:ra] (早く捨てなさい)

いと言っても捨てないから蛆が湧いているよ)

「ウルカヤー」[「?urukaja:」] (名)

(動) 魚名、カワハギ科。和名、ごまうまづら。体長約30センチ。「ウルカヤーは「珊瑚を喰らう奴」の義か。カーガー (糸満方言)

「エー」[「?e:」] (名)

(動) 魚名、アイゴ科。和名、はなあいご。体長約25センチ。オンレー (糸満方言)

「エーン」チュ「[「?e:n」]fu」 (名)

(動) ねずみ (鼠)。「フマカイ エーンチュヌ」 グン「[「Φumakai ?e:nʃunu」 g un] (ここに鼠がいる)。「ミャーヌ 「エーンチュ」 スウ「タ」ン「[「mja:nu 「?e:nʃu」 θu「ta」η] (猫が鼠を捕った)

オー「グー」[「?o:「gu:」] (名)

(動) やどかりの大きいもの。サザエ貝の殻の中に棲息する。「オーグーアマン」[「?o: gu:ʔamanη] (大やどかり) ともいう。

オー「ナジャー」[「?o:「naʃa:」] (名)

(動) あおだいしょう (青大将)。久高島ではあまり見かけない。オー「ナジャーヤ」アン「マリ」 ミチャン 「フトー」 ナーン「[「?o:「naʃa:ja」 ʔam「mari」 miʃan 「Φuto:」 na:η] (青大将はあまり見たことがない)

オーハマ「スアー」[「?o:hama「ra:」] (名)

(動) 魚名、カマス科。和名、おおめかます。体長約50センチ。アカバニーカマサー (糸満方言)

「オービキヤー」[「?o:bikja:」] (名)

(動) 魚名、スズメダイ科。和名、れもんすずめ。体長約8センチ。アカビー (糸満方言)

「オーベー」[「?o:be:」] (名)

(動) あおばえ (青蠅)。糞便や魚肉の腐敗したものに湧く。

「ガイ」[「gai」] (名)

(動) かに (蟹)。蟹の総称。「ガイヌ」 バハマ「カイ」 アナ 「フトゥー」ン「[「gai nu」 pΦama「kai」 ʔana 「pΦutu:」η] (蟹が浜に穴を掘っている)

「カイコ」[「kaiko」] (名)

かいこ (蚕)。標準語からの借用語。戦前には、津堅島あたりから久高島へ桑の葉を貰いに来た。ティキ「ノー」 カイコ ティカナ「トゥー」タクトゥ「 クワー」ギヌ 「プハー」 ギーガ「 シュー」タ「スアー」[「tiki「no:」 kaiko tikana「tu:takutu」 kw a:ginu 「pΦa: gi:ga」 ʃu:ta「ra:」] (津堅島では養蚕をしていたので、桑の葉を貰いに来ていたよ)

「ガジャー」[「gaʒa:」] (名)

(動) か (蚊)。ガジャー「ネー クワットタン」[gaʒa:「ne: kwa:ttan」] (蚊に咬まれた)。「ガジャーヌ」 「マンディ」 「ニンダランタン」[「gaʒa:nu」 「mandi」 「nintar antan」] (蚊が多くて眠れなかった)

「ガナーバチー」[「gana:bafji:」] (名)

(動) 魚名、ブダイ科。和名、なんようぶだい。体長約70センチ。オーバチャー (糸満方言)

「カブ」[「kabu」] (名)

撒き餌。「カブ マキン」[「kabu makin」] (撒き餌を撒く)。撒き餌は、スルルグラーなどの「ムンダニ」[「mundane」] (餌) を撒いた。

「カメブ」シ「kamebu」ji (名)

鯉節の名称の一つ。小判と呼ばれる小型のカツオ (約2～3kg) を三枚下ろしにして、左、右の両身を鯉節に製造したもの。

ガラ「スアー」[gara「ra:」] (名)

(動) からす (鳥)。久高島では、鳥は不吉な鳥といわれている。「ウン ヤーヌ ウイ」カ「イ ガラ「スアー」ガ ナ「キーヤ」 ヤン「メー チューヌ」 ッチュヌ 「ヒーガ」 シュラ 「ワカラン」[「ʔunja:nu ʔui kai gara「ra:」ga na「ki:ja」 jam「me: ʃu:nu」 tʃunu 「çi:ga」 ʃura 「wakaran」] (その家の上に鳥が鳴いたら、病気している人が死ぬかも知れない)

キシ「パー」[kiʃi「pa:」] (名)

(動) 魚名、スズメダイ科。和名、あまみすずめ。体長約14センチ。クルビラー (糸満方言)

「キラーハマン」[「kira:haman」] (名)

(動) 魚名、カマス科。和名、おおかます。体長約1.5メートル。ダイカマサー (糸満方言)

「グー」ブシ「gu:」buʃi (名)

鯉節の名。「雄節」のこと。カツオの背肉で製造した鯉節。高品質の鯉節とされている。

「グームン」[「gu:mun」] (名)

おす (雄)。「グーワー」[「gu:wa:」] (雄豚)。久高島では雄豚はいなかった。「スアニーワー」[「raniwa:」] (種豚) は飼育していなかった。ワッ「タ シマー グーワーヤ」ティカ「ナーナ」 ミー「ワー ビカー」ン ヤタル[wat「ta ʃima: gu:wa:ja」 tika「na:na」 mi:「wa: bika:」n jataru] (私達の島は雄豚は飼育しないで、雌豚ばかりであった)。「チーンチ」 ワー「グワー ホーイガ」 イ「キン」[「ʃi:nʃi」wa

- ：「gwa: ho:iga」 ?i「ki」η] (知念村へ子豚を買いに行く)
- 「グーラク」[「gu:raku」 (名)
- 雄蛸。
- クク「バー」[kuku「ba:」 (名)
- (動) 魚名、モンガラカワハギ科。和名、たすきもんがら。クク「バー」[kuku「ba:」の語源は「膨れているもの」の義という。体長約20センチ。イノーフクルビー (糸満方言)
- ク「スア」ビ[ku「ra」bi」 (名)
- (動) 魚名、ベラ科。和名、きぬべら。体長25センチ。クサバー (糸満方言)
- 「クスウ」[「kù θu」 (名)
- くそ(糞)。「スイヌ」 クスウ[「θuinu」 kù θu] (鳥の糞)。「ウシヌ」 クスウ[「?uʃinu」 kù θu] (牛の糞)
- 「クスウク」[「ku θ uku」 (名)
- (動) 魚名、ニザダイ科。和名、くろぐちにぎ。体長約20センチ。クスウ (糸満方言)
- ク「スウグイン」[ku「θuguiη」 (動)
- こそぐる。「ワチャ」 ク「スウグイン」[「waʃa ku「θuguiη」 (腋下をこそぐる)
- ク「タナ」ギ[ku「tana」gi」 (名)
- (動) 魚名、フエフキダイ科。和名、いそふえふき。体長約25センチ。クチナジ (糸満方言)。ク「タナ」ギ 「クワーシュ」η[ku「tana」gi 「kwa:ʃu」η] (鯛を釣る)。
ク「タナギヌ」 ク「ワースア」リ「η」η[ku「tanaginu」 kwa:ra「ri:」η] (鯛が釣れる)
- 「ク」ム[「kù」mu」 (名)
- (動) くも (蜘蛛)。「クムヌ」 「スイー」[「kùmunu 「θi:」 (蜘蛛の巣)。「クムヌ」 「スイー」 トウク「トゥーン」[「kùmunu θi: tuku「tu:η」 (蜘蛛が巣を作っている)
- クラー「グワー」[kura:「gwa:」 (名)
- (動) すずめ (雀)。「ヌチカイ」 クラー「グワーガ」 スイー トウク「トゥーシガヤ」[「nuʃikai」 kura:「gwa:ga」 θi: tuku「tu:ʃigaja:」 (軒に雀が巣を作っているよ)
- グル「マー」[guru「ma:」 (名)
- (動) 魚名。サバ科。和名、ぐるま。体長約30センチ。グルマー (糸満方言)
- ク「レー」[ku「re:」 (名)
- (動) 魚名、イサキ科。和名、ころだい。体長約50センチ。ジューグワークレー (糸

満方言)

「グンジャ」[「gunɕa】(名)

(動) くじら(鯨)。「グンジャ」ヌ ミー「タン」[「gunɕa」nu mi:「tan】(鯨が見えた)。「グンジャ」ヌ グン」[「gunɕanu」 gun】(鯨がいる)。「グンジャ」ヌ ウイ「ジュー」ン マー「チガヤー」[「gunɕanu」 ʔui「ɕu:」m ma:「ʃigaja:】(鯨が遊泳している。どこへ行くのかなあ)。「グンジャ」ヌ チャン「ジャチ イキスイ ミチャ」ン 「バーン」アスアー」[「gunɕanu」 ʃan「ɕaʃi ʔiki ʃi miʃa」m 「ba:ŋ」ʔaɾa:】(鯨が喜屋武岬の方へ行くのを見たこともあるよ)

「ゲー」[「ge:】(名)

(動) 魚名、ブダイ科。和名、ぶだいの仲間。クジラフツタイ(糸満方言)

「コーターイシバイ」[「ko:ta:ʔiʃibai】(名)

(動) 魚名、ゴンベイ科。和名、ほしごんべい。体長約20センチ。

「サシェ」ガスアー」[saʃe「gara:】(名)

(動) 魚名、スズキ科。和名、あおのめはた。体長約35センチ。ヤワラーミーバイ(糸満方言)

「サバ」[「saba】(名)

(動) 魚名、サバ科。和名、さば。体長約50センチ。久高島では漁獲されない。最近では輸入魚を馬天港辺りで仕入れ、神行事や祝儀用に利用している。

「サンシンケーケー」[「sanʃinke:ke:】(名)

(動) 魚名、カワハギ科。和名、そうしはぎ。体長約70センチ。センスルー(糸満方言)

「サンマ」[「samma】(名)

(動) 魚名、サンマ科。和名、さんま(秋刀魚)。体長約40センチ。久高島では漁獲されない。輸入魚を利用している。

「ジーワー」[「ɕi:wa:】(名)

(動) せみ(蟬)。小型の蟬。ジーワジーワと鳴くことから命名されたという。ジー「ワーヌ」ナチューン」[ɕi:「wa:nu」 naʃun】(蟬が鳴く)ジー「ワーヌ」ナキーヤ「ウシュヌ」ピーン」[ɕi:「wa:nu naki:ja」 ʔuʃunu 「pi:ŋ】(蟬が鳴くと潮がひく)

「シェーイラン」[「ʃe:ʔiran】(名)

(動) 魚名、ヒメジ科。和名、ごばんひめじ。体長約35センチ。ジンバー(糸満方言)

「シップルー」[「ʃippuru:】(名)

びしょ濡れ。ア「ミネー」ンディティ ムル シップルー」ナタン」[ʔa「mine:

nditi muru ʃippururu: ʔ natan] (雨に濡れてびしょ濡れになった)。ʔハスタン ムタン「タクトゥ ムル シップルー」 ナタン[ʔharam mutan ʔtakutu muru ʃippuuru: ʔ natan] (傘も持たなかったので全身びしょ濡れになった)
 「シ」ビ[ʔʃiʔbi] (名)

(動) 魚名、サバ科。和名、まぐろ(鮪)。大きいのは、体長約2~3メートル。ʔシビ 「クワーチャン[ʔʃibi ʔkwa:ʃan] (鮪を釣った)。ʔシビヤー 「クワースアラ」ン ムンヌ[ʔʃibja: ʔkwa:ʔaraʔm ʔmunnu] (鮪は釣れない)

「シャ」ギ[ʔʃaʔgi] (名)

しらが(白髪)。ティ「ブノー ム」ル 「シャギ 「ナ」ティ ナー」ン[tiʔbuno: muʔru ʔʃagi ʔnaʔti ʔna:ʔŋ] (頭はすっかり<全部>白髪になってしまった)

「ジャバニ」[ʔʃabani] (名)

(動) 魚名、アイゴ科。和名、ひめあいご。体長約25センチ。アケー(糸満方言)

「シャ」ミ[ʔʃaʔmi] (名)

(動) しらみ(虱)。ʔシャミ 「スウイン[ʔʃami ʔθui] (虱を取る)。ʔシャミヌ 「フガ[ʔʃaminu ʔʃuga] (虱の卵)

ジュリクク「バー」[ʔʃurikukuʔba:] (名)

(動) 魚名、モンガラカワハギ科。体長約30センチ。ウエカタノメーカーハジャー(糸満方言)

シル「アイ」[ʃiruʔʔai] (名)

(動) しらあり(白蟻)。ʔワッタ 「ヤーヌ」 ナカバシラー シル「アイネー」 クワートウー「スイガヤー」[ʔwatta: ʔja:nuʔ nakabaʃira: ʃiruʔʔaine:ʔ kwa:ʔttu:ʔθigaja:] (私の家の中柱(大黒柱)は白蟻に喰われてしまっているよ)

シル「イチャ」[ʃiruʔʔiʃa] (名)

(動) 魚名、しろいか(白鳥賊)。海岸や浜辺で餌木(疑似餌)を投げては手練りしながら釣る鳥賊。「ミリイチャ」[ʔmiriʔiʃa]ともいう。利尿薬としての効能もあり、昔から民間食事療法に採用され、重宝されている。赤鳥賊の3倍の値段で売られていた。

「ジンジン」[ʔʃinʃin] (名)

(動) ほたる(蛍)

「スアー」[ʔra:] (名)

(動) ばった(飛蝗)の総称。昆虫。「スアー」ヌ 「スウルー」ン[ʔra:ʔnu ʔθuru:ʔŋ] (飛蝗が飛んでいる)。シマ「カヤー」 スアーヤ チカ「グロー イキラスア」 ナトウーン[ʃimaʔkaja:ʔ ʔra:ja ʔikaʔguro: ʔikirara natu:ŋ] (島では、飛蝗は近頃少なくなっている)

スアー「ンナ」[ra:「nna」] (名)

(動) たにし (田螺)。久高島には棲息していない。

スアカン「フニー」[rakam「Phiuni:」] (名)

(動) 魚名、ヒメジ科。和名、みなみひめじ。体長約25センチ。イジヤンカタカシ(糸満方言)

「サク」[「raku」] (名)

(動) たこ (蛸) の総称。「サク スウ「タ」ン」[「raku θu「ta」ŋ」] (蛸を獲った)

「スアティー」[「rati:」] (名)

(動) 魚名、タチウオ科。和名、たちうお。体長約1メートル。タチヌイユ (糸満方言)

「スアティマンヌ ワカグラ」[「ratimannu wakagura:」] (名)

神名。「たてがみの若駒」の義か。久高島の「スオールイガナシ」[「θo:ruigana:fi」]神はカベールの森に鎮座ましますと信じられている神馬に跨ってミズノエ (壬) の日に島を巡回されるという口碑がある。

「スアマン」[「raman」] (名)

(動) 魚名、フエフキダイ科。和名、はまふえふき。体長約70センチ。タマン (糸満方言)

「スアル」[「raru:」] (名)

(動) さる (猿)。久高島には猿は棲息していない。スアン「ドウシ」[ran「du:fi」] (申年)

スアン「ネーラー」[ran「ne:ra:」] (名)

(動) 魚名。和名、ろくせんすずめだい。体長約16センチ。アヤビカー (糸満方言)

「スイ」[「θi:」] (名)

す (巣)。獣類、鳥類、虫類のすみか、巣。「スウイヌ」スイ「[「θuinu」 θi:] (鳥の巣)。「フムヌ スイ」[「Φumunu θi:] (蜘蛛の巣)。^ボホ「ターヌ スイ」[pΦo:「ta:nu θi:] (鳩の巣)。「フムヌ 「スイ」ヌ 「アヤーマ スウイ「パラタン」[「Φumunu 「θi:」nu 「?aja:ma θui「paratan」] (蜘蛛の巣があったので取り払った)。子供は蜘蛛の巣を竹の先端に巻き取り、それで蟬を捕らえて遊んだ。

スイ「トゥー」ン[θi:「tu:」ŋ] (動)

食物が饅えている。食物が腐っている。「スイター ナー「ンクトウ」ハー 「ケーバ」[「θi:ta: na:「ŋkutu」 ha:「ke:ba」] (饅えてはいないから早く食べなさい)。スイ「トゥーンシャコー」ヒ「ティリバ」[θi:「tu:ŋʃako:」 çj「tiriba」] (饅えているなら捨てなさいよ)

「スイ」トゥー[「θi」tu:] (名)

(動) 魚名、イスズ科。和名、てんじくいさぎ。体長約45センチ。ババシチュー (糸満方言)

「スイムル」[θimuru] (名)

すもり (巢守)。孵化しないで巢に残る卵。「フガヌ」 「スイムル」 ナティ「ナン」
[ʔʔuganu θimuru natiˈna:ŋ] (卵が孵化しなく<巢守に>なってしまった)
スイラ「シュン」[θiraʔʃuŋ] (動)

卵を孵化する。卵をかえす。スイラ「チャン」[θiraʔʃaŋ] (卵を孵化した)

スイン「スアラーマッターラ」[θinʔrara:mattara:] (名)

つばめ (燕)。スイン「スアラーマッターラ」ガ「ヌチカイ」 スイー トウク「トウ」
ーン[θinʔrara:mattara:ˈga ˈnuʃikai θi: tukuˈtu:ŋ] (燕が軒に巣を作っ
ている)

「スイ」[θui] (名)

にわとり (鶏)。「スイ」 ティ「カナトウ」[θui tiˈkanatu:ŋ] (鶏を飼育
している)。「スウヤー」 チャッ「ピ」 ティ「カナトウ」ガ[θuja:ˈʃapˈpi ti
iˈkanatu:ga] (鶏は何羽<いくら>飼育しているか)。「スイヌ」 ナキン[θuin
u nakiŋ] (鶏が鳴く)。イチバン「ルイス」 ナチャン[ʔiʃibanˈruinuˈnaʃaŋ]
(一番鶏が鳴いた)。ニバン「ルヤー」 ナマ ナカン[nibanˈruja: nama nakaŋ]
(二番鶏はまだ鳴かない)。ミー「ドゥイ」[mi:ˈdui] (めんどり)。「グードゥイ」[gu:
dui] (おんどり)

「スイバハットウ」[suiɸattu] (名)

鶏法度。「収穫時に鶏を野放しにするな」の意味。麦、豆、粟など穀物の収穫時には
鶏を放し飼いにしてはならないという村内の取り決めがあった。青年団がそれを取
り締まった。収穫時に放し飼いにしてある鶏は青年団が自由に処分できた。「ナマ
ー スuibハットウ ヤクトウ」 フカ「チャー」 ンギヤ「スェン」カンバ[ˈnam
a: θuiɸattu jakutu ɸukaˈʃa:ˈŋgiaˈraŋ kamba] (今は鶏法度だから鶏
を外へだすなよ)

「スイン」[θuin] (動)

取る。捕える。スウ「タン」[θuˈtaŋ] (捕えた)。「スウティ」 スウラ「スイバ」[θut
i θuraˈθiba] (取ってくれ<取ってとらせよ>)。スウラン「キバ」[θuraŋˈkiba]
(取るなよ)

「スウースイマーイラブ」チ[θu: θima:ʔirabuˈʃi] (名)

(動) 魚名、ブダイ科。和名、ぶだいの仲間。体長約60センチ。ボーラー (糸満方
言)

スウカ「キン」[θukaˈkiŋ] (名)

(動) 魚名、サバ科。和名、いそまぐろ。体長約90センチ。トカキン (糸満方言)
スウ「カジヤー」[θu「kaʃa:」] (名)

(動) 魚名、ニザダイ科。和名、かんらんはぎ。体長約30センチ。トカジヤー (糸満方言)

「スウビ」ン[「θubi」ŋ] (動)

飛ぶ。スウ「バン」[θu「baŋ」] (飛ばない)。「ナマ スウラ」ン[「nama θura」ŋ] (今飛んだ)。「スウビブシヤ」ン[「θubibuʃa」ŋ] (飛びたい)。「スウイヌ スウビ」ン[「θuinu θubi」ŋ] (鳥が飛ぶ)

「スウブー」[「θubu:」] (名)

(動) 魚名、トビウオ科。和名、とびうお (飛魚)。体長約30センチ。久高島ではスウブー (飛魚) は漁獲されない。「スウブー スウイン」[「θubu: θuiŋ」] (トビウオを漁獲する<獲る>)

「スウマトウー」ン[「θumatu:」ŋ] (動)

止まっている。「スウイヌ」 ヒー「カイ スウマトウー」ン[「θuinu ɕi:「kai θumatu:」ŋ] (鳥が木に止まっている)。「スウマラン」[「θumaran」] (止まらない)。「ナマ スウマタ」ン[「nama θumata」ŋ] (今止まった)

「スウラ」[「θura」] (名)

とら (虎)。「スウラヌ ギー」[「θuranu gi:」] (虎の絵)。フタ「ビヤー スウラドゥシ ヤイビール」[ʔuta「bja: suraduʃi jaibi:ru」] (今年は寅年です)

「スオージ」[「θo:ʃi」] (名)

(動) 魚名、アジ科。和名、よろいあじの仲間。体長約80センチ。ソージ (糸満方言)

スオーミ「ナー」[θo:mi「na:」] (名)

めじろ (目白)。籠の中に餌を入れておき、めじろを籠の中に誘い込んで入り口を閉めて捕獲した。スオーミ「ナーヤ ハグ」 トウクティ 「フ「ター アキティ」 ムンダ「ナー イッティ ウリ ケーガ」 ナ「カチ イーヤー」 「フ「ター チャーキ クーラリクトウ」 スオーミ「ナーヤ」 スウラ「リーン」[θo:mi「na:ja hagu」 tukuti ʔθu「ta: ʔakiti」 munda「na: ʔitti ʔuri ke:ga」 na「kaʃi ʔi:ja:」 ʔθu「ta: ʃa:ki ku:rarikutu」 θo:mi「na:ja」 θura「ri:ŋ」] (めじろは籠を作って蓋を開けて餌をいれ、それを食べるに中へ入ってきたら蓋はすぐ閉まるので、めじろは捕えられる)

ヤー¹ マン¹「ネン チロー¹ シェン¹「ネンツチューヌ¹ フトウ¹「バー¹ チ¹「チャ
ン フト¹ ア¹「スア¹」[ha¹「mja:¹ man¹「nen ʃi:ro:¹ ʃen¹「nentʃu:nu¹ ʃu
tu¹「ba:¹ ʃi¹「ʃaŋ ʃuto:¹ ʔa¹「ra:¹] (亀は万年鶴は千年という言葉聞いたこと
があるよ)

チンチ¹「ナー¹「[ʃinʃi¹「na:¹] (名)

(動) ひばり (雲雀)。チンチ¹「ナー¹ ティカリ¹ ア¹「スイラ¹ンバーン¹ アスア¹」[ʃ
inʃi¹「na:¹ tikari ʔa¹「θira¹ mba:ŋ¹ ア¹ʔara:¹] (雲雀を捕らえて遊んだこともあ
るよ)

-ティ¹[-ti] (接尾)

数詞に下接して数を表す語。「ティ¹」ティ¹「[ti:¹ ti] (一つ)。「ター¹」ティ¹「[ta:¹ ti] (二つ)。「ミー¹」ティ¹「[mi:¹ ti] (三つ)。「ユー¹」ティ¹「[ju:¹ ti] (四つ)。「イティ¹」ティ¹「[ʔititi] (五つ)。「ムー¹」ティ¹「[mu:¹ ti] (六つ)。「ナナ¹」ティ¹「[nana¹ ti] (七つ)。「ヤー¹」ティ¹「[ja:¹ ti] (八つ)。「フクン¹」ティ¹「[ʃu¹「kun¹ ti] (九つ)。「スウ¹」」[ʃu¹「:] (十)

ティカ¹「ネ¹」ン¹「[tika¹「ne:¹ ŋ] (動)

飼育する。飼う。養う。ティカ¹「ナトウ¹」ン¹「[tika¹「natu:¹ ŋ] (飼っている)。ティ
カ¹「ナタン¹」[tika¹「nataŋ] (飼った)。ティカ¹「ネーブシャ¹」ン¹「[tika¹「ne:buʃa¹ ŋ] (飼
いたい)。ティカ¹「ネーングワ¹」[tika¹「ne:ŋgwa] (実子以外の養育した子)。「ウ¹」シ
ティカ¹「ナトウ¹」ン¹「[ʔu¹ ʃi tika¹「natu:¹ ŋ] (牛を飼育している)。「ックワ¹」 テ
ィカ¹「ネ¹」ン¹「[kkwa¹ tikane:¹ ŋ] (子供を育てる)。「ワラビ¹」 ティカ¹「ネ¹」ン¹「[
warabi tika¹「ne:¹ ŋ] (子供を育てる)。「ウヌ¹」 ックワ¹」 ワーガ¹ ティカ¹「ナ
タン¹」[ʔunu kkwa:¹ wa:ga tika¹「nataŋ] (この子は私が育てたく養った>)

「ティビスウガヤー¹」[tibi θ ugaja:¹] (名)

(動) 貝の名。広瀬貝。高瀬貝。

ティ¹「マ¹」グ¹「[ti¹「ma¹ gu] (名)

ひづめ (蹄)。「ティマグシャ¹」マ¹ キー¹」ン¹「[timaguʃa:ma¹ ki:¹ ŋ] (蹄で蹴る)

「ティミ¹」[timi] (名)

つめ (爪)。「ティミ¹」 キー¹」ン¹「[timi ki:¹ ŋ] (爪を切る)。「ティミ¹」ヌ¹」 ナガ¹「ス
アン¹」[timi¹ nu naga¹「raŋ] (爪が長い)

ティラプカ¹イシ¹バイ¹「[tirapukkaʔiʃibai] (名)

(動) 魚名、ゴンベイ科。和名、いそごんべい。体長約20センチ。チンサー (糸満
方言)。「膨れ面イシバイ」の義か。

ティル¹「ビヤ¹」ラ¹ク¹「[tiru¹「bja:ra¹ ku] (名)

(動) 夫婦蛸。つがいの蛸。交尾している蛸。「つるび<交尾> (『日本靈異記中』)

- 蛸」の義か。「フマカイ」 テイル「ビャーラ」クヌ 「グスイガ」[「Φumakai」 tiru「
bja:ra」kunu 「gu θiga」] (ここに夫婦蛸くつがいの蛸>がいるよ)
- テイル「ビン」[tiru「biŋ」] (動)
つるむ。交尾する。テイル「ルー」ン[tiru「ru:」ŋ] (つるんでいる。交尾している)。
「インヌ」 テイル「ルー」ン[「?innu」 tiru「ru:」ŋ] (犬が交尾している)
- テイル「マン」[tiru「maŋ」] (名)
(動) 魚名、ニザダイ科。和名、てんぐはぎ。体長約70センチ。ツヌマン (糸満方言)
- ナガジュー「マティー」[nagaʒu:「mati:」] (名)
(動) 魚名、フエダイ科。和名、はまだい。体長約1メートル。アカマチ (糸満方言)
- 「ナキ」ン[「naki」ŋ] (動)
鳴く。「スウイヌ ナキ」ン[「θuinu naki」ŋ] (鳥が鳴く)。「ミャーヌ 「ナキ」ン
[「mjɑ:nu 「naki」ŋ] (猫が鳴く)。ジー「ワーヌ ナキ」ン[ʒi:「wa:nu naki」ŋ]
(蟬が鳴く)
- 「ナシュ」ン[「naʃu」ŋ] (動)
産む。「ックワ ナシュ」ン[「kkwa naʃu」ŋ] (子供を産む)。ナ「スアン」[na「raŋ」]
(産まない)。「ナチャン」[「naʃaŋ」] (産んだ)。ナスィ「ディ」キ[na θi「di」ki] (産み
月。臨月)。ナスィ「ブジャン」[na θi「buʃaŋ」] (産みたい)。ナスィ「ミー」ン[na θi「
mi:」ŋ] (産ませる)
- ニシ「バン」[niʃi「baŋ」] (名)
地名。久高島の西海岸に外間ノロがエラブ漁をするために与えられた場所の地名。
フカマ「ヌルネー」 スアボー「チューン」 ンナギ 「スウイン」 スウク「マー」
ニシ「バン」 ヤル[Φukama「nurune:」 rabo:「ʃu:n」 nnagi 「θuin」 θuku「
ma:」 niʃi「baŋ」 jaru」] (外間ノロに賜ったウナギくえらぶ>の漁場はニシバン
だ)
- 「ヌミ」[「numi」] (名)
(動) のみ (蚤)。戦後米軍のDDT散布により駆除され、現在はいない。ヌミ「ネー」
スア「スアッタン」[numi「ne:」 ra「raʒattan」] (蚤にさされた)。「ユビャーヌ 「ミ」ヌ
「マンディ」 「ニンダランタン」[「jubja: nu「mi」nu 「mandi」 nindarantan」]
(昨夜は蚤が多くて眠れなかった)。チカ「グロー」ヌー「ガラ」ヌミン グ「ラン
ナタン」[ʃika「guro:」 nu:「gara」 numiŋ gu「rannatan」] (近頃はなぜか蚤もい
なくなった)
- 「ハー」[「ha:」] (名)
かわ (皮)。「イキムシヌ 「ハー」[「?ikimuʃinu 「ha:」] (動物の皮)。「ハー 「ハギ

ン[¹ha: ²ɸagiŋ] (皮を剥ぐ)。「ウシヌ ハー[¹ʔuʃinu ha:] (牛の皮)。

「スアバナ ハー[¹ɾabanu ha:] (鮫の皮<鱧の皮>)

ハー「エー[ha: ¹je:] (名)

(動) 魚名、アイゴ科。和名、ごまあいご。体長約40センチ。カーエー (糸満方言)

ハー「ブヤー[ha: ¹buja:] (名)

(動) こうもり (蝙蝠)。

「ハーミ[¹ha:mi] (名)

(動) かめ (亀)。海亀。スアティ「バマ マングラー」ハー「ミヤー」フガ「ナシ
ー」ガ ユー「アガイタン[¹ɾati ¹bama maŋgura: ¹ ha: ¹mja: ¹ ɸuga ¹naʃi
:¹ga ju: ¹ʔagaitaŋ] (スアティ浜<島の東側にある浜>あたりは、亀は産卵に
よく上がってきていた)。ハー「ミノ」フガ「ナ」チ「グン[ha: ¹minu ¹ ɸuga
¹na ¹ʃi ¹gun] (亀が卵を産んでいる<現在産んでいる>)。「フガ「ナ」チューン
[¹ɸuga ¹na ¹ʃu:ŋ] (卵を産んだ<既に産んでいる>)

ハカ「リー」ン[haka ¹ri: ¹ŋ] (動)

かかれる (搔かれる)。ハカッ「タン[hakat ¹taŋ] (搔かれた)。ハ「カリ」ティ「ナ
ー」ン[ha ¹kari ¹ti na: ¹ŋ] (搔かれてしまった)。

「ハキン[¹hakiŋ] (動)

搔く。「フシヌ」ゴー「スアヌ」ハキ「バ[¹ɸuʃinu ¹ go: ¹ɾanu ¹ haki ¹ba] (背
中が痒くて、搔けよ)。「フシヌ」ゴー「スアヌ」ハキン[¹ɸuʃinu ¹ go: ¹ɾanu ¹
hakiŋ] (背中が痒いので搔く<搔いている>)

ハジ「ゲー[haʃi ¹ge:] (名)

豚舎から排出される肥料。豚舎で茅や草の葉を豚に踏ませたものを肥料に利用した。
ワー「ブンラ」ンギーヌ「ヘーヤ」ハジ「ゲー」ツ「チール[wa: ¹punra ¹ ʔŋgi:
nu ¹he:ja ¹ haʃi ¹ge:t ¹ʃi:ru] (豚舎から出る肥料はハジゲーという)

「ハスター[¹hara:] (名)

(動) 魚名、スズキ科。和名、しろぶちはた。体長約50センチ。ハヤーミーバイ (糸
満方言)

ハ「タ」チ[ha ¹ta ¹ʃi] (名)

(動) うに (海栗)。食用にならないものは「ウイ[¹ʔui] (食用にならないウニ) と
いう。うに (海栗) の卵巣を塩漬けにしたものは美味である。戦前は久高島の海に
ハ「タ」チがたくさん棲息していたが、最近は減少している。

「ハトゥー[¹hatu:] (名)

(動) 魚名、サバ科。和名、かつお。体長約90センチ(大判)になる。体長40~50セ
ンチのものは小判といわれていた。久高島の漁師は八重山や南洋諸島のパラウでカ

ツオ漁業を営み、鯉節を製造した。戦前の八重山では四人の久高島出身者が四箇所の鯉節工場を経営していた。

ハ「トゥー」ブシ[ha「tu:」buʃi] (名)

かつおぶし(鯉節)。単に「ブシ」[「puʃi] (節)ともいう。ミー「ブシ」[mi:「buʃi] (雌節)、「グー」ブシ[「gu:」buʃi] (雄節)、「カメブ」シ[「kamebu」ʃi] (亀節)がある。「カメブ」シは小判以下のカツオを三枚下ろしにして製造した鯉節で、品質の上からいうと、雄節、雌節より落ちる。雄節や雌節は四つ割りにして製造したものである。

ハ「トゥールイ」[ha「tu:rui] (名)

(動) ウミネコ(海猫)。「鯉鳥」の義。「スウイマキ」[「θuimaki] (鳥巻き。ウミネコの群れ)を見てカツオの魚群を追い続け、餌付けをして釣った。

「バハ」チ[「pʰa」tʃi] (名)

はち(蜂)。赤蜂のみにいう。「スアムン」 「スウイ」ガ イキヤーマ 「バハチネー」 スアスアッティ「 チャン」[「ramun」 「θui」ga ʔikja:ma 「pʰaʃine: ɾaratti」 ʃaŋ] (薪を取りに行つて蜂に刺されてきた<刺されてきている>)

「バハニ」[「pʰani] (名)

はね(羽)。翼。「スウイン」 「バハニ」[「θuim」 pʰani] (鳥の羽)。「バハニ」 ヌギン[「pʰani」 nuɡiŋ] (羽を抜く)。占い。ト占にも用いる。「バハニ」 アティン[「pʰani」 ʔatiŋ] (元祖を受け継ぐ日取りをとる<ト占で決める>)

「バハラ」イ[「pʰarai] (名)

カツオが一匹も釣れないこと。縁起が悪いこと。間がわるい。「シューヤ」 「ヌー」ン クワー「スアムン」 「バハラ」イヤル[「ʃu:ja」 「nu:」ŋ kwa:「ɾantam」 pʰara「ijaru] (今日は何も釣れなかった。縁起がわるい。パライだ)

ハビ「ラー」[habi「ra:」] (名)

(動)、ちょう(蝶)の総称。ハビ「ラーガ」 スウルー「ン」[habi「ra:ga」 θuru:」ŋ] (蝶が飛んでいる)

「バン」[「baŋ] (名)

「当番」の義か。昔久高島では、知念の番所からノロシ(烽火)の合図が出ると船を漕いで行く制度が出来ていた。その当番をバン「フギ」[baŋ「ʰugi]という。

「ハン」ジュ[「han」tʃu] (名)

とさか(鶏冠)。「ハンジュ」ヌ 「ミーティ」チヤン[「hanʃu」nu 「mi:ti」ʃaŋ] (鶏冠が生えてきた)。「アン」 スウイヌ 「ハンジョ」ー マギ「スアヌ」[「ʔan」 θuinu hanʃo: magi「ɾanu] (あの鶏の鶏冠は大きい)。マギ「ハンジュ」 ヤンミヤ「[magi「hanʃu」 jammja:] (大きな鶏冠だなあ)

「ヒー」[「çi:」] (名)

(動) 魚名、フエダイ科。和名、ろくせんふえだい。体長約25センチ。ピタロー (糸満方言)

「ピタロー[「bitaro:」] (名)

(動) 魚名、フエダイ科。和名、にせくろほしふえだい。体長約25センチ。ヤマトビー (糸満方言)

「ビヒーラー[「pʰi:ra:」] (名)

(動) ごきぶり。アANCH 「ビヒーラーヌ」 MAN「ドゥー」ン ムノー[「ʔanfʰi 「pʰi:ra:nu」 man「du:」m 「muno:」] (あんなにもゴキブリが多いことよ)

「ビヒギン[「pʰigi」ŋ] (動)

へぐ (剥)。削る。鯉節を削る。「ハトゥーブシ ビヒギン[「hatu:buʃi pʰigi」ŋ] (鯉節を削る)。「ビヒガン[「pʰiga」ŋ] (削らない)。「ビヒジャ」ン[「pʰiɕa」ŋ] (削った)。「ビヒジ スウラ」スィバ[「pʰiɕi θura「θiba」] (削ってくれ<取らせ>)

「ビヒジガスアー[「pʰiɕigara:」] (名)

鯉節の削り殻。鯉節を製品化する際に表面を削って出来る削り殻。「剥ぎ殻」の義か。

ピヤー「バハチー[pija:「pʰaʃi:」] (名)

(動) 魚名、ブダイ科。和名、いろぶだい。体長約80センチ。アーガチャー (糸満方言)

「ピュールカー[「pju:ruka:」] (名)

(動) 魚名、ヒメジ科。和名、もんつきあかひめじ。体長約30センチ。フルヤー (糸満方言)

「ピヨピヨグワー[「pijopijogwa:」] (名)

(動) ひよこ。雛鳥。ピヨピヨ「グワーガ スェーラカ」 ン「マッタン[pijopijo「gwa: ga θe:raka」 m「mattan」] (ひよこ<雛鳥>がたくさん生まれた)

「フー[「ʰu:」] (名)

こうら (甲羅)。ハー「ミヌ フー[ha:「minu ʰu:」] (亀の甲羅)

「フガ[「huga」] (名)

たまご (卵)。「スウイヌ フガ[「θuinu ʰuga」] (鶏の卵)。^ホホー「ターヌ フガ[pʰo:「ta:nu ʰuga」] (鳩の卵)。「アピ」ラーヌ フガ[ʔapi「ra:nu ʰuga」] (家鴨の卵)。「ハ」ブヌ フガ[ha「bunu ʰuga」] (蛇の卵)。「ンナ」ギヌ フガ[nna「ginu ʰuga」] (エラブウナギの卵)。「フガ」ナシュン[「ʰuga 「naʃu」ŋ] (卵を産む)

フ「クンナ[ʰu「kunna」] (名)

(動) さざえ。フ「クンナ フフリーン[ʰu「kunna pʰuri:」ŋ] (さざえ貝を拾う)

フフ「シイチャ[pʰu「ʃiʔiʃa」] (名)

干し烏賊。するめ。烏賊を開いて内臓を除去し天日に乾燥したもの。

「フミキ」[^ɸumi^ɿki] (名)

熱気。ほてり。「ほめく<熱く、火めく>」の義か。「フミキヌ」 チュー「スアン」[^ɸumikinu^ɿ ʃu:^ɿraŋ] (熱気が強い。夏の真っ盛りの暑さが厳しい)

「フルワーシュン」[^ɸuruwa:^ɿʃuŋ] (動)

育てる。成長させる。「フルワーチャン」[^ɸuruwa:^ɿʃaŋ] (育てた。成長させた)。
「フルワースアン」[^ɸuruwa:^ɿraŋ] (育てない。成長させない)。「フルワーチュー
ン」[^ɸuruwa:^ɿʃu:^ɿŋ] (育てている)。「ウン クウー ワー「ガル フフルワーチ
ュール」[^ʔuŋ kwa^ɿ: wa:^ɿgaru^ɿ ^ɸuruwa:^ɿʃu:^ɿru] (この子は私が育ててい
る)

フブン「シミー」[^ɸubuŋ^ɿʃimi:] (名)

(動) 魚名、コウイカ科。和名、こぶしめ。体長約50センチ。ク「ル」スメー (鳩間
方言)。フブン「シミー クワーシュン」[^ɸubuŋ^ɿʃimi:^ɿ kwa:^ɿʃuŋ] (コブシメを釣る)

「フルイ」[^ɸurui] (名)

稲光。「フルイヌ」 ピチャ「タン」[^ɸuruinu^ɿ piʃa^ɿtaŋ] (稲光が光った)。「フル
イヌ」 ピチャ「イヤー」 アミノ「プイン」[^ɸuruinu^ɿ piʃa^ɿija:^ɿ ^ʔaminu^ɿ
^ɿpuiŋ] (稲光が光ると雨が降る)

「フルシュン」[^ɸuruʃu^ɿŋ] (動)

ころす (殺す)。動物を殺す。「ヒヤシュン」[^ɸijaʃu^ɿŋ] は (人を殺す) 意。「フル
チャン」[^ɸuruʃa^ɿŋ] (殺した)。「フルスアン」キバ[^ɸuruʃaŋ^ɿkiba] (殺すな)。
「フルシブシャン」[^ɸuruʃibuʃa^ɿŋ] (殺したい)。「ワー 「フルシュン」[^ɿwa:^ɿ
^ɸuruʃuŋ] (豚を屠殺する<豚を殺す>)。ム「チー」[mu^ɿʃi:] (旧暦12月8日子供
たちに月桃の葉で包んだ餅を作って与える行事)の前後に門中を中心に、大体五家
族一組で正月用の豚 (ショーグワチ「ワー」[ʃogwaʃi^ɿwa:]) を屠った。子供たちは
豚の膀胱を膨らませて鞠の代用にして遊んだ

「べー」[^ɸe:] (名)

はえ (蠅)。「べーヌ」 スウルーン[^ɸe:nu^ɿ θuru:^ɿŋ] (蠅が飛んでいる)。「べ
ーヌ」 マンディ「ムヌン」ウカラン[^ɸe:nu^ɿ mandi^ɿ munuŋ^ɿ ^ʔukara
ŋ] (蠅が多くて食べ物も<物も>置いておけない)

べー「ムシャー」[^ɸe:^ɿmuʃa:] (名)

(動) ごきぶり。べー「ムシャーヌ」 マンディ ヒ「タナスアン」[^ɸe:^ɿmuʃa:nu^ɿ
mandi^ɿ ɕi^ɿtanaraŋ] (ゴキブリが沢山いて汚い)。「べー「ムシャー」 スウイン」[^ɸe:^ɿ
muʃa:^ɿ θuiŋ] (ゴキブリを捕る)。「ビナスアン」 トウ「クマカイル」 べー「ムシ
ャーヤ」 マン「ドローロ」[^ɸinaʃaŋ^ɿ tu^ɿkumakairu^ɿ ^ɸe:^ɿmuʃa:ja^ɿ man^ɿ
du:ro] (不潔なところにゴキブリはたくさんいるのだ)

「ホージャーイラン[^ho:ʧa:ʔiraŋ] (名)

(動) 魚名、ヒメジ科。和名、まるくちひめじ。体長約35センチ。ジンバー (糸満方言)

ボーフ「ジャー[bo:Φu「ʧa:] (名)

(動) ぼうふら。ミリ「ガーミカイ」 ボーフ「ジャーヌ」 ワ「チューン[^miri「ga:mi kai」 bo:Φu「ʧa:nu」 wa「ʃu:ŋ] (水瓶にぼうふらが湧いている)

^ホホー「ター[^pΦo:「ta:] (名)

(動) はと (鳩)。山鳩。 ^ホホー「ターガ」 フガ 「ナチャ」ン[^pΦo:「ta:ga」 Φuga 「naʃa」ŋ] (鳩が卵を産んだ)。ミカ「シャー」 ^ホホーター ウ「チャー」ガ シュータ「スアー[^mika「ʃa:」 ^pΦo:ta: ʔu「ʃa:」ga ʃu:ta「ra:] (昔は鳩撃ちが来ていたよ)

「マーマティー[「ma:mati:] (名)

(動) 魚名、フエダイ科。和名、おおひめ。体長約80センチ。マーマチ (糸満方言)

「マカ」ブ[「maka」bu] (名)

(動)、ベラ科。和名、くさびべら。体長約30センチ。イノーマクブ (糸満方言)

「マタブイン[「matabuin] (動)

じゃれる (戯れる)。「まつわる (纏)」の義。イン「グワーガ」 マタブイン[ʔiŋ「gwa:ga matabuin] (子犬がじゃれる)。イン「グワーガ」 マタブティ キャー」ン ナ「ラン[ʔiŋ「gwa:ga matabuti kja:」n na「raŋ] (子犬がじゃれてしょうがない)

「マテー[「mate:] (名)

(動) 魚名、アイゴ科。和名、じゃばあいご。体長約35センチ。オンレー (糸満方言)

マラ「ラー[mara「ra:] (名)

(動) 和名、アオマダラウミヘビ。エラブ漁では、「ブヤー[「buja:] (雄のエラブ)、フ「ガー[Φu「ga:] (雌のエラブ) の二種のエラブが漁獲される。漁期は旧暦 6月24日から12月31日まで。ンナギ 「スウイヌ」 ジ「キヤー」 ドウク「グワティ」 ニ「ジュ」ー 「ユッカラー」 スウスイン「ユルマリー」 ヤル[「nnagi 「θuinu」 ʧi「kja:」 duku「gwati」 ni「ʧu:」: 「jukkara:」 θu θiŋ「juru:mari:」 jaru] (エラブの漁期は旧暦 6月24日から大晦日<年の夜>までである)

「ミーバイ[「mi:bai] (名)

(動) 魚名、スズキ科。和名、まだらはた。体長約60センチ。ユダヤーミーバイ (糸満方言)

ミー「ブ」シ[mi:「bu」ʃi] (名)

めぶし (女節)。鯉節の一つで腹部を含む鯉節。

「ミームン[「mi:muŋ] (名)

めす(雌)。「女もの」の義。「ミーワー[「mi:wa:] (雌豚)。久高島では子豚(雌)を購入してきて肥育し、正月用に屠殺したり、換金用の肉豚として輸出版売したりした。

ミー「ラ」ク[「mi:「ra」ku] (名)

(動) 雌蛸。「女蛸」の義。

「ミヤー[「mja:] (名)

(動) ねこ(猫)。ミカ「シラ」 ミヤーヤ 「グヤビースア[mika「ʃira」 mja:ja 「gujabi:ra] (昔から猫はいますよ)。「ミヤーヌ 「ナキン[「mja:nu 「nakiŋ] (猫が鳴く)。「ミヤーヌ 「ナキスイガ」 スー「ガヤー[「mja:nu 「nakiθiga」 nu:「gaja:] (猫が鳴いているが何かあるのかなあ<何かなあ>)

「ミヤーリク」ク[「mja:riku」ku] (名)

(動) ふくろう(梟)。主に夜間に活動する。クラカ「ジマカヤー ミヤーリク」ク「グサー[kuraka「ʒimakaja: mja:rikukuŋ」 gura:] (久高島には梟もいるよ)

「ミリイチャ[「miriiʃa] (名)

(動) 魚名、いか(烏賊)の一種。みずいか(水烏賊)の義。シル「イチャ[ʃiru「ʔiʃa] (白烏賊)ともいう。

「ミンバ」ニ[「mimba」ni] (名)

(動) 魚名、ブダイ科。おおもんはげぶだい。体長約35センチ。

ミン「バ」ハー[mim「pʰa:] (名)

(動) 魚名、テンジクダイ科。和名、みなみふとすじいしもち。体長約8センチ。イシウフミー(糸満方言)

ミンブター「アカイユ[mimbuta:「ʔakaiju] (名)

(動) 魚名、イトウダイ科。和名、あかまつかさの仲間。体長約20センチ。ミンタマー(糸満方言)

「ムカリ[「mukari] (名)

(動) むかで(百足)。ムカ「リネー」 スア「スア」タン[muka「rine:」 ʀa「rattan] (百足にさされた)

「ムシ[「muʃi] (名)

(動) むし(虫)。「ヒーム」シ[「çi:mu」ʃi] (毛虫)。「ヒーム」シヌ「アン「スア」キアティ「マ」ティ 「グン[「çi:muʃinu」 ʔan「ʀa」ki ʔati「ma」ti 「guŋ] (毛虫が沢山集まっている)。「ムシネー」 スア「スアリ」ヤー「マ」ティラー 「プッキトウー」ン[「muʃine:」 ʀaʀari「ja:」ma 「tira: 「pukkitu:」ŋ] (虫に刺されて顔が膨れ<腫れ>ている)

「ムジョー」リ [「muɕo:ri」] (名)

(動) 魚名、フエダイ科。和名、ささむろ。体長約27センチ。ヒラーグルクン (糸満方言)

「ムシワー」 [「muɕiwa:」] (名)

(動) 寄生虫のいる豚。昔は人糞も与えて養豚したため、豚に寄生虫の発生することがあった。「ワースァー」 [「wa:ra:」] (屠殺業者) は豚の目と口を開けて寄生虫の有無を調べた。寄生虫のいる豚は半値以下にしか売れなかった。

「ム」チュー [「mu」ɕu:」] (名)

(動) 魚名、トラギス科。和名、ななめとらぎす。体長約20センチ。ムチュー (糸満方言)

「ムル」ー [「muru」:] (名)

(動) 魚名、フエフキダイ科。和名、ほおあかくちび。体長約30センチ。オームルー (糸満方言)

「ム」ン [「mu」ŋ」] (名)

餌。動物の飼料。「スウイヌ」 「ムン」 [「θuinu」 「muŋ」] (鳥の餌)。「ウシ」ヌ 「ムン」 [「ʔuɕi」nu 「muŋ」] (牛の飼料)。「ムン」 「ダニ」 [mun「dani」] (魚の餌)。「ワー」 「ムン」 [「wa:」 「muŋ」] (豚の餌、豚の飼料)

ムン「ダニ」 [mun「dani」] (名)

魚の餌。「アマ」ン [「ʔama」ŋ」] (やどかり)、スアク「ヌ」 スィー [raku「nu」 θi:] (蛸の手)などを魚の餌にして魚釣りをした。ムン「ダニ」ヌ プスクッチ「ヘー」 「ティール」 チャル [mun「daninu」 pusukutɕi」 he:「tiru」 ɕaru」] (魚の餌が不足して、帰ってきた)。「ムン」 「ダナー」 「アマン」 「ヤタル」 [mun「dana:」 ʔamaŋ 「jataru」] (餌はヤドカリであった)。ヤドカリの爪の部分は潰して撒き餌にした。

ヤー「ルー」 [ja:「ru:」] (名)

(動) やもり (守宮)。「ティン」 「ジョーカイ」 ヤー「ルー」ヌ 「グン」 [tin「ɕo:kai」 ja:「ru:」nu 「guŋ」] (天井に守宮がいる)。「ヤー」 「ルー」ヤ ナティナイヤー「ンギ」 ティ シュー「スァー」 [ja:「ru:ja」 natinaija:」 ŋiti ɕu:「ra:」] (守宮は夏になると出てくるよ)

「ヤキ」ー [「jaki」:] (名)

(動) 魚名、フエフキダイ科。和名、あまみふえふき。体長約70センチ。ヤキ (糸満方言)

ヤマ「ギャー」 [jama「gja:」] (名)

(動) 魚名、ベラ科。和名、みつばもちのうお。体長約35センチ。イノーヒロサ (糸満方言)

ヤマハブ「ヤー[jamahabu「ja:]」(名)

(動) いもり(井守)。ヤマハブ「ヤーガ グ」ン[jamahabu「ja:ga gu」η] (井守がいる)。ヤマハブ「ヤーヤ」 アン「マリ」 ミチャン フ「トー」 ナーン[jamahabu「ja:ja」 ?am「mari」 miʃaŋ Φu「to:」 na:η] (井守はあまり見たことはない)
ユーシ「バーアカイ」ユ[ju:ʃi「ba:ʔakai」ju] (名)

(動) 魚名、イトウダイ科。和名、うけぐちいっとうだいの仲間。体長約25センチ。ナガーアカユー(糸満方言)

「ルー」[「ru」:] (名)

尾。「ルー」ヌ ナガ「スアン」[「ru:」nu naga「raŋ] (尾が長い)。ナガ「ルー」[naga「ru:」] (長い尾。長尾)。「ワーヌ」 「ルー」[「wa:nu 「ru:」] (豚の尾)。「イユヌ ルー」[「?ijunu ru:」] (魚の尾)。

「ワーギン」[「wa:giŋ] (動)

追っ払う。「スウイ ワーギーン」[「θui wa:gi:ŋ] (鳥を追っ払う)。「ワーギランキバ」[「wa:giraŋkiba] (追っ払うな)。「ワーギリバ」[「wa:giriba] (追っ払いなさいよ)

「ワタ」[「wata] (名)

はらわた(腸)。「ワーヌ」 「ワタムン」[「wa:nu 「watamuŋ] (豚の臓物。豚の腸)。「ワーヌ」 「ワタムンシャーマ スィームン」 トウ「クイン」[「wa:nu 「watamuŋʃa:ma θi:mun」 tu「kuiŋ] (豚の臓物<腸>で中身の吸い物を作る)

「ワタブター」[「watabuta:] (名)

(動) おたまじゃくし。「ミヤーフブ」[「mja:Φubu] (地名)の池に沢山生息していたので「ミヤーフブヌ ワタブター」[「mja:Φubunu watabuta:] (学校の前にあるため池のおたまじゃくし) といった。

「ワチャ」[「waʃa] (名)

わきのした(腋の下)。腋。「ワチャ」 ク「スウグイン」[「waʃa ku「θ ugiŋ] (腋の下をこそぐる)

「ンナ」[「nna] (名)

貝の総称。「にな(蝸螺)」の転訛したものか。「ティビスウガヤー」[「tibi θugaja:] (高瀬貝、広瀬貝)。「クンナ」[Φu「kunna] (さざえ)などが棲息している。

「ンナギ」[「nnagi] (名)

(動) 和名、えらぶうみへび。「エラブウナギ」の総称。「ショーンナギ」[「ʃo:nnagi] (正真のエラブウナギ)、または「ショームン」[「ʃo:mun] (正真のもの) という。「グー」ムン[「gu:」mun] (雄エラブウナギ)、「ウサー」[「?uʃa:] (雄)ともいう。雌は、「ミーンナギ」[「mi:nnagi] (雌エラブウナギ) という。ンナ「ギヌ イース」

アナ[nna ʔginu ʔi:nu ʔana] (エラブウナギが入る穴。巢)。「アナチ」ンナギ「スウイ」ガ「イキン」[ʔanaʔi ʔnnagi ʔθui ʔga ʔʔikiŋ] (穴へエラブウナギを捕りに行く)

「ンマ」[ʔmma] (名)

(動) 馬。ワツ「ター」シマー「ンマン」ウシ「ン」グラン[wat ʔta: ʔima: ʔmmaŋ ʔʔuʔi ʔŋ ʔguraŋ] (私達の島は馬も牛もない)。ミ「カシャー」イヌン「グラントスィガ」ナマー「グスアー」[mi ʔkaʃa: ʔʔinuŋ ʔguranta ʔiga nama: ʔ ʔgura:] (昔は犬もいなかったが、今はいるよ)。「ミーンマ」[ʔmi:ʔmma] (雌馬)。「グーンマ」[ʔgu:ʔmma] (雄馬)

基礎語彙 第3分野 植物

「アーミシー[ʔa:miʃi:] (名)

ブランコ (秋千)。アミ「シー[ʔamiʃi:] (ブランコ) ともいう。木の枝に縄を結んでブランコを作り、それを漕いで遊ぶ。主に女の子のする遊びであった。アーミ「シー フギン[ʔa:miʃi: ʔugiŋ] (ブランコを漕ぐ)。ユナ「グヌ アスイビ[junaʔgunu ʔaθibi] (女の子の遊び)。旧暦6月24日のハシャ「キー[haʃaʔki:]の時には女の子たちがブランコをして遊んだ。

アカー「クロー[ʔaka:ʔkuro:] (名)

たそがれ時。夕方の明るさと暗さが交錯している時間帯。アカー「クローヌ ジブン「ハマー「ローエーヌ「ウグワ「ノー「ツチャスアー[ʔaka:ʔkuro:nu ʔɕibuŋʔ hama:ʔro:je:nuʔ ʔugwaʔno:ʔ tʃara:] (黄昏の時刻<時分>にハマーローエーの神事はしたよ)

「アカガー[ʔakaga:] (名)

芋の一種。「赤皮」の義。皮の赤い芋。

「アカデーク「ン[ʔakade:kuʔŋ] (名)

にんじん (人参)。「赤大根」の義。人参は戦前から久高島で作付けされてきた。アカデーク「ノー ナマン「トウク「トゥー「ン[ʔakade:kuʔno: namanʔ tukuʔtu:ʔŋ] (人参は今も作っている)。ミカシ「ヨーカー ナマ「ル ウプ「スアー「トウク「トゥール[mikaʃiʔjo:ka: namaʔru ʔupuʔʔa:ʔ tukuʔtu:ru] (昔より今が多く作っている)。今は人参を島外に出荷している。

アカトウキ「ガー[ʔakatukiʔga:] (名)

早朝に井戸へ水汲みに行くこと。「暁井戸」の義。「ビヒヤーイ「ン バー「イヤー「ユナ「カラ「ン 「ウキティ 「バン 「マツチル「ミラー クミタスアー[ʔɕja:iʔm ba:ʔja:ʔ junaʔkaraʔŋʔ ʔukitiʔ bamʔmatʃiruʔ mira: kumitara:] (早の時は夜中から起きて順番を待って水を汲んでいた)

アカマー「ミー[ʔakama:ʔmi:] (名)

あずき (小豆)。アカマー「ミー ウイン[ʔakama:ʔmi: ʔuin] (小豆を植える)。アカマー「ミー「トゥ「クイン[ʔakama:ʔmi:ʔ tuʔkuiŋ] (小豆を作る)。アカマー「ミー「シャーマ アカメー「トウク「イ「ル[ʔakama:ʔmi:ʃa:ma ʔakame:ʔtukuʔiʔru] (小豆で赤飯を作る)。アカマー「ミーヤ アン ナ「チ アン「ムチャー「トウクイ「タン[ʔakama:ʔmi:ja ʔan naʔʃi ʔamʔmuʃa:ʔ tukuiʔtaŋ] (小豆は餡にして餡餅を作った)

ア「スアンハ「リ[ʔaʔraŋhaʔri] (連)

各家。家々。「家の数」の義か。ヤー「ヤー[ja: ja:] (家々)と同じ意味。「アムトゥカラ」アスアン「ハリ」[ʔamutukara ʔaraŋhari] (三アムトゥから各家庭に至るまで)

ア「チョールー」[ʔaʔo:ru:] (名)

商人。戦前、烏賊釣り漁の時期に知念村辺りからやって来た漁師の仲買人。この人たちが知念より「ハン」メー「ham me:」(「食料、飯米」の義で、芋のこと)を持参し、帰りには久高島の烏賊を買って知念に帰り、それを売りさばく商売をした。

「アラカ」[ʔaraka] (名)

(植)和名、ナガミボチョウジ。「あざか」(『おもろさうし』)。クボー御嶽で「アラカ」[ʔaraka] (あざか)を採り、外間殿に供えたマ「ブツ」チ[maʔbutʔji] (米飯の供物)の上をそのアラカの葉で祓い清める。「ヤグルガー」[ʔjaguruga:] (井戸)から汲んできた聖水は「ティブルガーキー」[ʔtiburuga:ki:] (瓢箪)に入れて、ノロの祈願が済んだ後に「ウンシヤク」[ʔuŋʃaku] (ノロに神酒を捧げる役職の巫女)がノロに聖水を捧げてマブッチの上を祓い清める。

アラ「ケー」[ʔaraʔke:] (名)

(動)シヤコ貝。シヤコガイ科ヒレジャコは珊瑚礁の中に埋没しない。水深3～4メートルの砂の上または枝珊瑚の間に棲息している。ヒメジャコは珊瑚礁の中に埋没して成長する。「ピシ」[ʔpiʃi] (干瀬)で沢山とれる。

アラ「ナ」シ[ʔaraʔnaʔʃi] (名)

(植)アダンの気根。この繊維でサバニのアンカーロープを編んだり、ワラ「グ」ティ[waraʔguʔti] (草鞋)を編んだりした。ワラ「グ」ティは潮干狩りに行く時に履いた。スアバ「ニヌ アンカーディナー」アラ「ナシ ノーティル」トウク「イタル」[ʔrabaʔninu ʔaŋka:dina:ʔ ʔaraʔnaʃi no:tiruʔ tukuʔitaru] (サバニのアンカー綱はアダンの繊維を編って作った)

ア「リンナー」[ʔaʔrinna:] (名)

(植)アザミ (薊)。チ「バナ」ン「ギ」[ʃiʔbanaŋʔgi]ともいう。浜辺に自生していた。昔は食用に供されていた。

「アワ」[ʔawa] (名)

(植)アワ (粟)。「アワヌ」スアニ「マキン」[ʔawanu ʔraniʔmakin] (粟の種を蒔く)。「アワ」ウイトゥーン[ʔawaʔuitu:ŋ] (粟を植えてある)。「アヌ」バハノー「アワ」ウイトゥーン[ʔanuʔʔano:ʔ ʔawaʔuitu:ŋ] (あの畑は粟を植えてある)。「グン」グワティマティー[gunʔgwatimati:] (五月祭り)は「粟の穂祭り」であり、「ルク」グワティマティー[rokuʔgwatimati:] (六月祭り)は「粟の収穫祭」である。

「イチュビ」[ʔiʃubi] (名)

(植) 野いちご。畑仕事の帰りに母親達が採って、それを束ねて子供の土産に持ち帰った。美味しかった。実は小さくて真っ赤に熟れた「イチュビは3～4月頃に採れた。「イチュビヌ べハナヌ」 スァ「チューン」[ʔiʃubinu ʔʰananu ɾaʃu:] (野苺の花が咲いている)

「イラキニンジャナ」[ʔirakininʒana] (名)

麦焦がしと煮芋を混ぜて捏ねた食品。

「イリクミー」[ʔirikumi:] (名)

通いの使用人。本島では住み込みの使用人。豪農や篤農家に住み込みで働く人。

「イン」ドー」[ʔin do:] (名)

(植) エンドウ (豌豆)。「インドーヌ べハナヌ」 スァ「チューン」[ʔindo:nu ʔʰan anu ɾaʃu:] (豌豆の花が咲いている)。豌豆の花は冬に咲いた。「インドーマミ」[ʔindo:mami] (豌豆豆)。「インドーマミ イッティ メー スァキ」[ʔindo:mami ʔitti me: ɾaki] (豌豆豆を入れて米を炊く)

「インドーマーミ」[ʔindo:ma:mi:] (名)

(植) エンドウマメ (豌豆豆)。「インドーマーミャー メーチ イッ」タイ 「シンチ イッ」タイ 「ツチ」ル 「ケー」タル」[ʔindo:ma:mja: me:ʃi ʔit tai ʃin ʃi ʔit tai ʧi ru ke:taru] (豌豆豆はご飯に入れたりお汁に入れたりして食べた)

「ウイ」[ʔui] (名)

うり (瓜)。「ウヤー」 ジー「ウイ ヤタル タナ トウクター ウイランタン」[ʔuja: ʒi:ʔui jataru tana tukuta: ʔuirantaŋ] (瓜は露地栽培であった。棚を作っては植えなかった)

ウイ「グワー」[ʔui gwa:] (名)

うり (瓜)。きゅうり (胡瓜)。「モーウイ」[mo:ʔui] (路地栽培の瓜) のこと。ウイグワー「ドゥネーヤ」 ハク「トー マンキーヤ」 デー「ジナ」 ンマスァ「タン」[ʔuigwa: ʔdune:ja ʰaku to: maŋki:ja de:ʒina ʔmmaɾa taŋ] (瓜の和え物は白糖を混ぜると大変美味しかった)。ウイ「グワーヤ」 ジー「ウイ」 ヤクトウ べハタキ「カイル ウイタル」[ʔui gwa:ja ʒi:ʔui jakutu ʔʰataki ka iru ʔuitaru] (胡瓜は露地栽培だから畑に植えた)

「ウイ」[ʔui] (動)

植える。「ハンダ」 「ウイ」[ʰanda ʔui] (芋蔓を植える)。「ウイラ」[ʔuirara] (植えない)。「ウイタン」[ʔuitaŋ] (植えた)。「ウイブシヤン」[ʔuibuʃaŋ] (植えたい)。「ウイ」ンバー「イ」[ʔui mba:i] (植えるとき)。「ウイリバ」[ʔuiriba] (植

えなさい)。ㇰヤシエー 「ウイン[^ㇰjaʃe: ^ㇰuiŋ] (野菜を植える)。ㇰヒー
「ウイン[^ㇰçi: ^ㇰuiŋ] (木を植える)

ウスィ[^ㇰu^ㇰθi] (名)

うす(臼)。碾き臼。搗き臼。ウスィ「シャーマ」 ムジ ピ「キ」ン[^ㇰu^ㇰθi^ㇰʃa:ma^ㇰ
muʃi pi^ㇰki^ㇰŋ] (石臼で麦を挽く)。ウスィ「シャーマ」 ティ「キ」ン[^ㇰu^ㇰθi^ㇰʃa:ma^ㇰ
a^ㇰ ti^ㇰki^ㇰŋ] (臼で搗く)

「ウティー」ン[^ㇰuti:^ㇰŋ] (動)

落ちる。ウティ「タン」[^ㇰuti^ㇰtaŋ] (落ちた)。ウティ「ラン」[^ㇰuti^ㇰraŋ] (落ちない)。
ウティ「ランタン」[^ㇰuti^ㇰrantaŋ] (落ちなかった)。ウ「ティーヤ」[^ㇰu^ㇰti:ja] (落ちたら)。
ㇰクンプヌ 「ナイ」ヌ ウティ「タン」[^ㇰkumbunu ^ㇰnai^ㇰnu ^ㇰuti^ㇰtaŋ] (九
年母の実が落ちた)

「ウブン」[^ㇰubuŋ] (名)

ご飯と煮魚を供物としたもの。

ウブン「ナー」[^ㇰupun^ㇰna:] (名)

なのはな(菜の花)。「ウブンナーヌ」 スァチュー」ン[^ㇰupunna:nu ^ㇰraʃu:^ㇰŋ]
(菜の花が咲いている)

オー「バ」ハー[^ㇰo:^ㇰʔa:] (名)

野菜の総称。葉野菜。「青葉」の義か。「ヤシエー」[^ㇰjaʃe:]ともいう。オー「バ」ハーヌ
ハリラン」チ 「シュ」ンバー「イヤ」 ハンナーリ」 ミリ」 ハキ「ランバ」 アン「
サンニーヤ」 ハ「リー」ン」 ロー[^ㇰo:^ㇰʔa:nu ^ㇰhariran^ㇰʃi ^ㇰʃu^ㇰmba:^ㇰija ^ㇰhann
a:ri ^ㇰmiri^ㇰ ^ㇰhaki^ㇰra^ㇰmba^ㇰ ^ㇰʔan^ㇰsanni:ja^ㇰ ^ㇰha^ㇰri:^ㇰn^ㇰro:] (野菜が萎びれかか
る<萎びれようとする>時は必ず水を遣らないと<水をかけないと>いけないよ。
そうしないと枯れるよ)。「オー「バ」ハー」 ハラー 「イキラ」スァタン[^ㇰo:^ㇰʔa:^ㇰ ^ㇰhar
a:^ㇰ ^ㇰʔikira^ㇰrataŋ] (野菜<菜っ葉>は種類<数>は少なかった)

オーマー「ミー」[^ㇰo:ma:^ㇰmi:] (名)

緑豆。やえなり。モヤシ(萌やし)の原料にした。「青豆」の義。オーマー「ミー」
シャーマ」 マ」マミナ トウ「クイン」[^ㇰo:ma:^ㇰmi: ^ㇰʃa:^ㇰma ^ㇰmamina tu^ㇰkuiŋ]
(緑豆でモヤシを作る)

ガ「ギナー」[ga^ㇰgina:] (名)

(植)野菜の一種。

「カブ」[^ㇰkabu] (名)

切り株。木の切り株。キリ「カブ」[kiri^ㇰkabu] (切り株)ともいう。ㇰヒーヌ キリ「
カブ」[^ㇰçi:nu ^ㇰkiri^ㇰkabu] (木の切り株)。

「グジ」[^ㇰguʃi] (名)

砂糖きび。「をぎ(萩)」の義。シティ「グワティーヤ」 グリー「ジンカヤー」 グジ
トウ スイクワ トウ「クイン トウクマー」 スイ「クワ」ン 「ウシャギタスアー
[ʃiti ʔgwati:ja ɡuri: ʔɕiŋkaja: ɡuʃitu ʔsuikwa tu ʔkuin tukuma: ʔ
sui ʔkwa ʔŋ ʔuʃagitara:] (七月のお盆には砂糖きびと、西瓜を作っているところ
は西瓜もお供えしたよ)。アラリン「クワー ウシャギン トウクマン」 アタン
パリ 「ヤシガ ミチャン クトー」 ナーン「タン[ʔarariŋ ʔkwa: ʔuʃagin tu
kumaŋ ʔatampari ʔjaʃiga miʃaŋ kuto: ʔna:n ʔtaŋ] (アダンの実を供え
るところもあったはずだが見たことはなかった)

グシ「キ[guʃi ʔki] (名)

(植) ススキ(薄)。シ「キダムトウ[ʃi ʔkidamutu] (祭りに参加する巫女が座ると
きに敷いて用いるもの。直径約五寸ほどにススキの茎を束ねたもの。蓆の代用品)
に用いた。グシキで作ったサンは旧暦八月のハ「ティグワティマティー[ʔɕa ʔtigw
atimati:] (八月祭り)のときに各家の四隅の軒に桑の葉と一緒に差して悪霊祓いを
するのに用いた。ノロと根神のシキダムトウは特製のシキダムトウでススキの束を
二、三箇所て結わえたものを用いた。

「グジナグ」ジ[ʔguʃinaɡu ʔɕi] (名)

お盆に供える砂糖きび。霊前に供えた供物をあの世へ担いで行くのに用いると信じ
られている。「グジナ[ʔguʃina]は「杖」の意。「杖に用いる砂糖きび」のこと。グ
ジナ「グジャー スイキラットウーヌ」 クワッチー 「ハタミティ イキ」ン バー
「イヌ グジ ヤタロ[ʔguʃina ʔguʃa: ʔikirattu:nu ʔkwatʃi: ʔhatamiti ʔi
ki ʔm ba: ʔinu ʔguʃi jataro] (グジナグジは供えてあるところのご馳走を担いで
行くときの杖<棒>だそう)

ク「スア[ku ʔra] (名)

(植) くさ(草)。ク「スアヌ ミー「トウ」ン[ʔkuraŋu mi: ʔtu: ʔŋ] (草が生え
ている)。ク「スア 「ハリバ[ʔkura ʔhariba] (草を刈りなさい)。ク「スア 「ヤキ
ン[ʔkura ʔjakiŋ] (草を焼く)

ク「スア「リーン[kura ʔri: ʔŋ] (動)

くされる(腐れる)。ク「スアッ「トウ」ン[kuraʔ ʔtu: ʔŋ] (腐れている)。ク「スア「リ
ラン[kura ʔriran] (腐れない)。「キヤー」チ ッ「チ」ン ク「スア「リラン[ʔkja: ʔʃi
t ʔʃi ʔŋ kura ʔriran] (どんなにしても腐れない)。ク「スア「リ「トウ」ン シャコー
カーラランクトウ」 ヒ「ティリバ[kuraʔ ʔri: ʔŋ ʃako: ka: raranʔkutu ʔɕi ʔtiri
ba] (腐れていたら食べられないから捨てなさい)

「クン」ブ[ʔkum ʔbu] (名)

蜜柑。九年母。久高島で蜜柑を栽培している家は少なかった。「クン」ブ「ン アン

「トウクマー」　　メー「ニシミグワー」　　チュ「キネ」ー　　「ヤタル　　アン「シユクトウ」
 ウンドー「クワイヤー」　　ウプ「シマーラ」ル　　「ホーティ」　　シュー「タル」[「kumbu」
 ŋ ʔan「tukuma:」　　me:「niʃimigwa:」　　ʃu「kine」:　　「jataru ʔaŋ ʃukutu」
 ʔundo:「kwaija:」　　ʔupu「ʃima:ra」ru　　「ho:ti」　　ʃu:「taru」(蜜柑のある家は前
 西銘小一軒だけであった。それで運動会には沖縄本島<大島>から買ってきた)。ク
 ン「ブ」ヌ　　「ナトゥーン」[kum「bu」nu　　「natu:ŋ」(蜜柑<九年母>が生っている)。
 「クンプヌ　　ナイ」[「kumbunu　　nai」(蜜柑の実)

グン「ボー」[gum「bo:」(名)

ごぼう(牛蒡)。グン「ボーヤ」　　トウク「ランタン」　　ホーティル」　　シュー「タル」[g
 um「bo:ja」　　tuku「rantaŋ　　ho:tiru」　　ʃu:taru」(牛蒡は作らなかつた。買ってきた)。
 シティ「グワティ」　　ウシャギー「ン　　バー「イル　　ホーティ」　　シュー「タル」[ʃi
 ti「gwati ʔuʃagi:」m　　ba:「iru　　ho:ti」　　ʃu:「taru」(七月のお盆にお供えする
 ときに買ってきた)。マル「フィージーヤ　　カーンタン」[maru「ʔi:ʔi:ja　　ka:ntaŋ」(常
 日頃は食べなかつた)。日用雑貨は与那原で購入した。与那原から中頭までは軌道馬
 車が走っていた。与那原には馬車が多く、馬天港には山原からチャーターで薪を運
 ぶマーラン船が碇泊していた。

「サキガ」ク[「sakiga」ku」(名)

アルコール中毒。酒を飲みすぎて中毒症状を発症した人。アルコール分が欠如する
 と手が震える症状をしめした。

「サクラ」[「sakura」(名)

緋寒桜。桜。もともと久高島には桜の木は自生してなかつたが、浜福治家に一本の
 山桜が生えていた。その後、「ナーデーラ」[「na:de:ra」(宮平家)の周太郎氏が本
 部町の教員をしていたときに、本部から宮平家に移植したものがある。戦後は各家
 に植えたところもある。パハマ「フクジグワーカイ」　　ヤマザク「ラヌ」　　チュキー
 アタ「スアー」　　ナーレー「ラヌ」　　シュータロー「サンガ」　　シェンジェン　　「ムトゥ
 「ブヌ　　シンシー　　チュータ」ン　　「バーイ　　ムトゥ「ブラ　　ムツ」チッチー　　ナー「レ
 ーラーカイ　　ウイトゥースィ」ヌ　　「ナマ」　　アスアー[ʔPama「ʔukuʃigwa:kai」
 jamaʔaku「ranu」　　ʃuki: ʔata「ra:」　　na:re:「ranu」　　ʃu:taro:「sanga ʃenʃe
 m」　　mutu「bunu ʃiŋʃi: ʃu:ta」m　　「ba:i　　mutu「bura　　mut」ʃitʃi:　　na:「re
 :ra:kai ʔuitu: ʃi」nu　　「nama」　　ʔara:」(浜福治小に山桜が一本あったよ。宮平
 の周太郎さんが戦前本部町の先生していたときに本部から持ってきて宮平家に植
 えたのが今まであるよ)

「ザクロ」[「ʔakuro」(名)

(植) ざくろ(石榴)。標準語からの借用語。「シェンジェノー　　ザクロー」　　ナーン

「タン ナマン」 ナーン「パハリ」[ʃenɕeno: ɬakuro:ʔ na:nʔtan namanʔ
na:mʔpɕari] (戦前には、石榴はなかった。今もないはずです)

サン「グワティマティ」[saŋʔgwatimati:] (名)

三月祭り。三月中旬に行われる麦の収穫祭。月の中の「ミンニー」[ʔminni:] (干支の
ミズノエ、ミズノトの日) に執り行われる。

ジー「マミ」[ɕi:ʔmami] (名)

落花生。「地豆」の義。地下に繭形のきょうか(莢果)を結ぶことから命名されたもの。
ジー「マミヤ」 ミカシャ」 トウク「ヤビランタン」[ɕi:ʔmamja: mikaʃa:ʔ
tukuʔjabirantanʔ] (落花生は昔は作りませんでした)。トウク「ランタン」[tukuʔran
tanʔ] (作らなかった)

シカチ「ギー」[ʃikaɕiʔgi:] (名)

(植) シャリンバイ。果実が生り、食用となる。おやつ(お八つ)として食された。
ワラビ「チューイヤ」ヌーン」 ナーンクトウ」シカチヌ」ミ」スウイガ」ユー
「イキタン」[warabiʔɕu:ija nu:nʔ na:nɕkutu ʔʃikaɕinu ʔmi: θuigaʔ ju:
ʔʔikitanʔ] (子供の頃は何も無かったのでシカチの実を採りによく行ったものだ)

シ「キダム」トウ」[ʃiʔkidamuʔtu] (名)

ススキの茎を束ねて、祭祀の場で座る際に用いる敷物。ノロのシキダムトウはウヤ
ウンシャクが作り、その他は各自で作った。ウンシャクに当たった人が島外在住の場合
は、身寄りの神女に頼んで代役を務めてもらった。ムラガシラも同様に依頼して
努めてもらった。スオールイガナシはムラガシラを経験した人のみ就任することが
出来たからである。

シ「ビラー」[ʃiʔbira:] (名)

カツオ(鰹)の背びれ。鰹節製造工場ではシビラーを捨てたが、これを集めて畑に
入れると肥料となった。

「シブ」イ」[ʃibuʔi] (名)

冬瓜。久高島ではそんなに多くは作っていなかった。シブ「ヤー」シェンジェノー」
アン「マリ」 トウク「ター」 ナーン「タン」[ʃibuʔja: ʃenɕeno:ʔ ʔamʔmariʔ
tukuʔta:ʔ na:nʔtanʔ] (冬瓜は、戦前はあまり作っていなかった)。「シブヤー」
シマー」トウク「ランタン」パハリ「ロー」ウ」フシ「マーラル」ホーティ」シェ
ー「タル」[ʃibuja:ʔ ʃima: tukuʔrantamʔ pɕariʔro:ʔ ʔupɕuʃiʔma:raru h
o:tiʔ ʃu:ʔtaru] (冬瓜は島では作らなかったはずだ。本島から買ってきていた)。
「シブヤー」シンチ」イッティル」ケータル」[ʃibuja: ʃinɕi ʔittiru ke:taru]
(冬瓜はお汁に入れて食べた)。「シブイ」ンブシーヤ」カタンフトー」 ナーン「
タン」[ʔʃibui ʔmbuʃi:ja katanʔɕuto:ʔ na:nʔtanʔ] (冬瓜の煮つけは食べたこと

はなかつた)

「シブリーン[「fiburi:ŋ] (動)

しばむ(萎む)。「シブマン[「fibuman] (萎まない)。「シブリトゥーン[「fiburitu:ŋ] (萎んでいる)。「シブルーン[「fiburu:ŋ] (萎んでいる)。「シブリーイキン[「fiburiʔikiŋ] (萎んでいく)。「シブミン^ㄱパハナ[「fibumim^ㄱ pʰana] (萎む花)。「シブミヤ^ㄱ[「fibumija:] (萎んだら)。「^ㄱパハナヌ^ㄱ「シブリー^ㄱナー^ㄱン^ㄱ スァキスィル^ㄱ マツ^ㄱ「チュータスィガ^ㄱ ミ^ㄱパハン^ㄱチ^ㄱ ナ^ㄱン^ㄱ[「pʰananu^ㄱ 「fiburi^ㄱ na:^ㄱ 「n^ㄱ rakiθiru^ㄱ mat^ㄱ「fu:taθiga^ㄱ mi:pʰan^ㄱʔi^ㄱ 「na:ŋ] (花が萎んでしまった。咲くのを待っていたが見損なってしまった<見はずしてしまった>)

「ジャガイモ[「ʧagaimo] (名)

ジャガイモ。標準語からの借用語。戦前は栽培しなかった。戦後になって栽培するようになった。

シューキ^ㄱギー[ʃu:ki^ㄱgi:] (名)

(植) モンパの木。久高島の東海岸のシューキ^ㄱギー[ʃu:ki^ㄱgi:]の群落は沖縄県指定の文化財となっている。昔は、この木の幹を削って加工し、ガラスを嵌めて水中眼鏡を作った。シューキ^ㄱギー シャ^ㄱマル^ㄱ ミ^ㄱハガ^ㄱノ^ㄱ ト^ㄱク^ㄱイタル[ʃu:ki^ㄱgi: ʃa:maru^ㄱ mi:haga^ㄱno:^ㄱ tuku^ㄱitaru] (モンパの木で水中眼鏡は作った)

「ショーガー[「ʃo:ga:] (名)

(植) しょうが(生姜)。生姜は久高島では昔から栽培していない。本島の与那原あたりから買ってきた。

「スァキン[「raki^ㄱŋ] (動)

咲く。「^ㄱパハナヌ^ㄱ「スァキン[「pʰananu^ㄱ rakiŋ] (花が咲く)。「^ㄱパハナー^ㄱ「スァカン[「pʰana:^ㄱ rakan] (花は咲かない)。「^ㄱナー^ㄱ「スァチャン[「na:^ㄱ rʌʃan] (もう咲いた)。「スァチ^ㄱン^ㄱ「ハリー^ㄱン^ㄱ[「raʃi^ㄱŋ^ㄱ hari:^ㄱŋ] (咲いても枯れる)。「^ㄱパハナヌ^ㄱ「スァチュー^ㄱン^ㄱ[「pʰananu^ㄱ rʌʃu:^ㄱŋ] (花が咲いている)。

「スァニ[「ra^ㄱni] (名)

たね(種)。「ヤシェ^ㄱヌ^ㄱ スァニ[「jaʃe:nu^ㄱ rani] (野菜の種)。「スァニ^ㄱ「マキン^ㄱ[「rani^ㄱ makiŋ] (種を蒔く)

「スァムトゥ[「ramutu] (名)

六十歳以上の神女で神事に関するすべての労役を免除された人。この人たちは、ノロやニーガン(根神)のお供をする。「スァムトゥミヤ^ㄱ[「ramutumja:]で「ウンジャク[「ʔuŋʃaku]からノロの後に神酒を頂いた。ウヤウンジャクの神酒注ぎはニブ^ㄱ「スウイ[nibu^ㄱθui]が行い、ウンジャクに対してはムラハッシャ(村頭)が神酒

を注ぐのが仕来りであった。神酒は各組（畑の組のウヤ）から順番に供出された。

スイークワー「スアー」[θi:kwa:「ra:」] (名)

(植) ヒラミレモン。芭蕉布を洗濯する際にヒラミレモンの汁を使って漂白した。刺身にもヒラミレモンの汁をたっぷりかけて酢の代用にすると美味しかった。スイークワー「スアーヤ」 バシャー「ギー アライ」ン バー「イ」 ティ「ケータン」[θi:kwa:「ra:ja」 ba:fa:「gi: ?arai」m ba:「i」 ti「ke:taŋ」] (ヒラミレモンは芭蕉着を洗濯する際に使った)。スイークワー「スアーヤ」 ショー「グッチーヤ ウカマガナシー スウパシリ スウク グリージンカイ アカハビヌ ウイカイ ウチ」ハラ「タン」[θi:kwa:「ra:ja」 ʃo:「gwaʃi:ja ?ukamaganafi: θuʔaʃiri θuku guri:ʃiŋkai ?akahabinu ?uikai ?uʃi」 harai「taŋ」] (ヒラミレモンは旧正月には、火の神、トウパシリ神、床の神、そしてご霊前に、赤紙の上に置いて供え飾った)

スイ「クワ」[sui「kwa」] (名)

(植) すいか (西瓜)。戦前から久高島に西瓜を栽培していた。久高島は砂地が多く、西瓜の栽培に適しており、糖度が高く美味しいという定評があった。昔は「モーウイ」[「mo:ʔui」] (露地栽培) が普通で、自家用に栽培していたが、現在は出荷用に栽培している家もある。ミカ「シャー」 ドウヌ 「ケーン ウッピル」 トウクイ「タル (昔は自分が食べる分しか作らなかつた<食べる分を<ぞ>作った>)。」ドウヌ 「ケーユール」 トウク「トウータル」[「du:nu 「ke:ju:ru」 tuku「tu:taru」] (自分の食べる分を作っていた)。クラ「カヌ スイクワー」 デー「ジナ アマステーヌ」 ンマ「スアタン」[kura「kanu suikwa:」 de:「ʃina ?amaʃunu」 mma「ra taŋ」] (久高島の西瓜は非常に甘くておいしかった)。「ンチャギャビーヤ」[「nʃagjabi:ja」] (召し上がりますか)。「ンチャギーンシャコー」 ムッチシャー「ビンドー」[「nʃagi:ŋʃako:」 mutʃiʃa:「bindo:」] (召し上がるなら持って参りますよ)

スイン「マガー」[θim「maga:」] (名)

びく (魚籠)。釣った魚を入れたり、餌を入れるのに用いる竹製の籠。丸型の籠で紐を首に掛けて吊るした。芋のお握りを入れて弁当にすることもあった。女性が「イライ」[「?irai」] (潮干狩り<漁り>) に行くときに用いるのは「ミーミンコー」[「mi:miŋko:」] (魚籠) という。漁獲した蛸やアラ「ケー」[?ara「ke:」] (しゃこ貝) を入れるのに用いた。

「スオープマ」ミ「[θo:puma」mi」] (名)

(植) だいず (大豆)。「豆腐豆」の義。シマ「カヤー ナマン」 スオープ「マミヤー」 トウク「トウースアー」[ʃima「kaja: nama」n θo:pu「mamja:」 tuku「tu:ra:」] (島では今も大豆を作っているよ)。「シチビ」[「ʃitibi」] (節日) や「スージ」[「su:ʃi」] (祝

日)には、これで豆腐を自家製造していた。

スオーン「チュミ[θo:nʃumi] (名)

(植) こうりゃん (高粱)。高さ約1メートルほどに成長した。実は赤く甘い。スオーン「チュミムチ[θo:nʃumimuʃi] (高粱餅)を「ハシャキー[haʃaki:]のときに作って食べた。ムジ「ムチ[muʃi muʃi] (麦餅)とフミ「ムチ[ʔumi muʃi] (米餅)の三種類の餅を「スアンシンガースァー[ʃan θinga:ra:] (月桃の葉)に包んで作った。スオーンチュミ「ムチャー「デー「ジ「ナ「ンマスァ「タン[θo:nʃumi muʃi a:ʃ de:ʃi na ʔmmaʃa ʃaŋ] (こうりゃん餅は大変美味しかった)

「ソージマティー[so:ʃimati:] (名)

旧暦1月の麦の穂祭と5月の粟の穂祭をマ「ブッチマティー[ma butʃimati:]ともいう。ノロガヤ「グルガー[ja guruga:]で精進潔斎して祭祀を執り行う。

「ダ「キ[da ki] (名)

(植) たけ (竹)。久高島には竹は自生してなかった。沖縄本島から竹を購入した。現在は、一軒の旧家の屋敷内に植栽されているだけである。「ダキブ「キ[dakibu ki] (竹葺きの家)。「ダキヤー「シマ「カヤー「ミー「ランタン[dakja:ʃima kaja:mi:rantaŋ] (竹は島では生えなかった)。「ダキヤー「シマ「カヤー「ウイタ「ナーン「タン[dakja:ʃima kaja:ʔuita: na:nʃaŋ] (竹は島には植えなかった)

ダッ「チョー[dat ʃo:] (名)

(植) ラッキョウ。島ではあまり作らなかった。ダッ「チョーヤ「スァター「シャーマ「ティキトウースァー「ンマ「スァン[dat ʃo:ja ʃata:ʃa:ma tikitu:ra:mma ʃaŋ] (ラッキョウは砂糖で漬けてあるのは美味しい)

タマ「ネ「ギ[tama ne gi] (名)

(植) たまねぎ。久高島では栽培してない。

チ「ク[ʃi ku] (名)

(植) きく (菊)。久高島で栽培される菊は小菊しかなかった。チ「クン「バハナ[ʃi kum ʔʃana] (菊の花)。チ「クン「バハナ「ヌ「スァチューン[ʃi kum ʔʃana nu ʃaʃu:ŋ] (菊の花が咲いている)。

「チャー「[ʃa:] (名)

(植) ちゃ (茶)。昔の老人達は茶に「フーリ[ʔu:ri] (氷砂糖)を入れて飲むことが楽しみであった。「チャー「ヌミバ[ʃa: numiba] (お茶を飲みなさい)。「チャー「ヌミンショーリバ[ʃa: numiŋʃo:riba] (お茶をお飲みなされまし)。「チャー「ンチャギンショーリバ[ʃa: ʔnʃagiŋʃoriba] (お茶をお召し上がりください)

チャー「ガク」[ʃa:「gaku」] (名)

お茶中毒になった人。アルコール中毒のようにお茶を飲む人。「サキガ」ク[「sakiga」ku] (アルコール中毒<酒中毒>)

チュ「キリ」[ʃu「kiri」] (数)

一区切り。各組(久高島を10区間に区切ったもの)に分散して配分された農地。小石を並べて境界をしめした。チュ「キリ」[ʃu「kiri」] (一切れ)、「タキリ」[「takiri」] (二切れ)、「ミキリ」[「mikiri」] (三切れ)と数える。昔は、男性は農業に従事しなかったため、自分の配分地の所在を知らなかったという。一人に対して、一箇所に「ミキリ」[「mikiri」] (三切れ)以上の畑を配分されることはなかった。ただし「ヌンジー」[「nunʒi:」] (ノロ地)、「ニーツチュ」ジー[「ni:ʃuʒi:」] (根人地)は専属の土地であり、世襲の土地であった。

「チュジー」[「ʃuʒi:」] (数)

畑の広さを表す単位。約一反(300坪)。「チュジー」[「ʃuʒi:」]、「タジー」[「taʒi:」]と数える。正人の数によって配分される畑の面積。その畑で五穀を栽培した。大家族の場合、「チュジー」バン[「ʃuʒi:pʰan」] (1反半)、または「ミジー」[「miʒi:」] (3反)が配分された。

「チリーン」[「ʃiri:n」] (動)

散る。「バハナヌ」 「チリタン」[「pʰananu ʃiritan」] (花が散った)。「チラン」[「ʃiran」] (散らない)。「バハナヌ」 「チリーヤ マタ」 ソージ 「スイバル」 ナイル[「pʰananu ʃiri:ja mata so:ʒi ʃibarun nairu」] (花が散ったら、また掃除をしないとイケない<すればぞなる>)

「チンタク」ク[「ʃintaʒu」] (名)

(植)がじまる(榕樹)。チンタク「ギー」[ʃintakuʒi:]ともいう。チンタク「ギーヌピジ」[ʃintakuʒi:nu piʒi] (ガジマルの木の気根<ひげ>)。「ピジ」ヌ ミー「トゥースァー」 アン「マリ」 ミチャー 「ミヤン」[piʒinu mi:tu:ra:ʒam ʃari miʃa: ʃimjan] (気根が生えているのはあまり見たことがない)「チンタク」ヌ ミー「ニン」ジャラッチ ケータスァー[ʃintakunu mi:ʒin ʒaracʃi ke:ta:ra:] (ガジマルの実を潰して捏ねて食べたよ)

ディーグ「ギー」[di:guʒi:] (名)

(植)でいご(梯梧)。イザイホーの祭りに用いる盆を造る原料となる。ディー「グヌ」バハナヌ 「スァチャン」[di:gunu pʰanaʒu ʃaʃan] (デイゴの花が咲いた)

「ティバナン」ギ[「tibananʒi」] (名)

(植)あざみ(薊)。久高島の海岸に自生しており、刺がある。「ティバナンギ」ヌ

ミー「トゥーン」[「tibanangi」nu mi:「tu:」η] (薊が生えている)

ティ「バハタン」[ti「pΦataη】(名)

(植) ふき (蓴)。野生植物で、久高島では食用に供しなかった。海岸の原野に自生している。

「ティプグ」[「tipugu】(名)

枯れ葉が沢山積もっているもの。島では枯れ葉は燃料、各家庭で薪の代用に供された。「ティプグ」アティミティ「プッティ」チャン[「tipugu」?atimiti「put ti」fjaη】(枯葉を集めて拾ってきた)

「ティプミ」[「tibumi】(名)

つぼみ (蕾)。「ティプミス」プ「クルーン」[「tibuminu」pu「kuru:」η] (蕾が膨らんでいる)。「ナー」「ヤガティ」「バハナン」「スアキン」バハリ「ヤー」[「na:「jagati」pΦanan「rakim」pΦari「ja:】(もうじき花も咲くだろうねえ)

ティ「ブルガー」キー[ti「buruga:」ki:] (名)

瓢箪で作った柄杓に「ヤグルガー」[「jaguruga:】(聖なる井戸、清泉)から汲んできた聖水を入れ、その水を手で掬って供物にふりかけ清め祓うことにもちいた。

「ティブ」ン[「tibu」η] (名)

(植) ひょうたん (瓢箪)。ゆうがお (夕顔) の変種。食用に供するほか、完熟した果実は柄杓にして用いた。旧暦1月の麦の穂祭と5月の粟の穂祭の時には、ティ「ブルガー」キー[ti「buruga:」ki:] (瓢箪の容器の聖水かけ) といって、瓢箪柄杓の容器に「ヤグルガー」[「jaguruga:】(聖なる井戸)から汲んできた聖水を入れ、その水を手で供え物 (マ「ブツ」チ[ma「but」fi] <ご飯の供え物。昔は麦の粥、ムジアンデーを供えた>) にふりかけて清め祓うのに用いた。「ティブ」ンは福木にはわせて栽培し、棚を架けて栽培することはしなかった。「ティブ」ン シン「チ イッティル ケータル」[「tibuη」jin「fi」?ittiru ke:taru] (瓢箪はお汁に入れて食べたよ)。「ティブ」ン ンブシーン カタン フトー アイビラン「タン」[「tibum mbu:fi:η k ataj Φuto: ?aibiran」taj] (瓢箪の煮つけも食べたことはございませんでした)。「ティブ」ンヌ ミー「トゥーン」[「tibun」nu mi:「tu:」η] (瓢箪が生えている)。「ティブ」ンヌ 「ナトゥーン」[「tibun」nu「natu:」η] (瓢箪が生っている)

「ティミン」[「timinη】(動)

つむ (摘む)。「デー」クンヌ「バハナ ティミン」[de:「kunnu pΦana timi」η] (大根の花を摘む)。「ティマン」[「timaη】(摘まない)。「ティラン」[「tira」η] (摘んだ)。「ティマン」[「timaη】(摘まない)。「ティミブシャ」ン[「timibu:fa」η] (摘みたい)。「ティミバ」 スィミ「ムン」ヌ[「timiba」θimi「mun」nu] (摘めば良いのに)

「ティル」[「tiru】(名)

つる (蔓)。「ハンダヌ」 ティル[^hhandanu^h tiru] (いもの蔓、いもかずら)
 デー「クン[de:^hkuŋ] (名)

(植) 大根。戦前の久高島では「ウイ[^ʔu^hi] (海栗の一種で食用に適しない黒いウニ)を畑に入れて肥料にし、大根を栽培した。ミカ「シャー」ヘース「ハワイ」ウイ「イ「リータン[mika^hʃa:^h he:nu^hhawai^hʔui^hʔi^hri:taŋ] (昔は肥料の変わりにウイを入れた)。久高島の大根は美味で砂地に適し、収穫量も多かった。デー「クノー ウイガー イカントン^hハリ」フシ「カブナチ」アトゥ「ラー デークン」ンブ「シーッチ ケータン[de:^hkuno:^hʔuiga:^hʔikantam^hʔari^h ʔʔu^hʃi^hkabu^hnaʃi^hʔatu^hra:^hde:kum^hmbu^hʃi:tiʃi^hke:taŋ] (大根は売りには行かなかった。干し蕪にして、あとで大根煮つけにして食べた)。クダ「カヌ デークノー」ンマ「スアタン[kuda^hkanu^hde:kuno:^hʔmma^hra:taŋ] (久高島の大根は美味しかった)

「トウイフワツ」トウ[^htuiʔat^htu] (名)

鶏法度。穀物の収穫時に鶏を放し飼いにするのを禁じた島内のおきて。その期間は鶏舎にに入れて飼育し、屋敷内に放さぬよう青年団が強く管理していた。放し飼いにしてある鶏は青年団によって処分することが認められていた。

「トゥブシ[^htubuʃi] (名)

松の幹を削って灯明に用いるもの。久高島では旧暦6月24日のハシャ「キー[haf^ha^hki:]の時と12月31日のスウシン「ユル[^hθuʃiŋ^hjuru] (大晦日、<歳<の夜>)に「ウカマガナシー[^hʔukamaganaʃi:]に「トゥブシを灯して健康祈願をする行事がある。従来は「スィーンユタ[^hθi:nju:ta]が祈願していたが、現在は各家庭でイザイホーの祭りに参加した婦人が祈願している。トゥブシを「ナナ」プシ[^hnana^hpuʃi] (七片)を灯して今までの健康生活に対して感謝の祈願をし、次に「イティ」プシ[^hʔiti^hpuʃi] (五片)を灯して今後の健康祈願を行う。シマ「カヤー」スウシン「ユル」トウ」ルク「グワティヌ ハシャキーン バーイ」ウカマガナ「シーネー」スウブ「シ スウブ」チ 「^hʔah^hʒimi^hnu^h nana^hpuʃi^h namama^hri^hnu^h kenko:nige:^hru^hguri:^hʔunra^hmata^hʔiti^hpuʃa:^hnama^hranu^hkenko:nige:^hnu^hʔunige:^hʃuŋ^hʔunu^hnige:^hja^hθi:n^hjutaga^hru^hʃuta^hθiga^hnama:^hʔiʃai^hnigatanu^hʃuŋ^hʃa:garu^hna:me:^hme:

nige:ꞑru] (島では大晦日と六月のハシャキーの時に火の神<竈の神>さまにトゥブシ<松のやにの多い幹を削り灯明にするもの>を灯して、初めの七節<片>は今までの健康祈願のお礼、それからまた五節<片>は今後の健康祈願のために灯して祈願をする。この祈願はスィーンユタがやったが今はイザイホーの祭りに祈願をした人たちが各自祈願している)

トマꞑトー[tomaꞑto:] (名)

(植) トマト。戦前は栽培していなかったの、あまり食べなかった。トマꞑトーヤꞑメーヤꞑウイタꞑナーンꞑタン[tomaꞑto:ja me:ja ꞑuitaꞑ: na:nꞑtan] (トマトは、以前は植えてなかった)

ナイꞑムン[naiꞑmuꞑ] (名)

果実。果物。果実の総称。「生り物」の義。「クンꞑブ[ꞑkumꞑbu] (九年母、蜜柑)。スィークꞑワーꞑスァー[ꞑhi:kwa:ꞑra:] (ヒラミレモン)。バンシꞑルー[banꞑsiꞑru:] (グワバ。蕃石榴。バンシロー)。バシヤꞑナイ[baꞑjaꞑnai] (バナナ。芭蕉の実) など。

ꞑナイン[ꞑnaiꞑ] (動)

なる(生る)。植物の実が付く。「ミーꞑヌꞑナイン[ꞑmi:ꞑnu ꞑnaiꞑ] (実が生る)。「ナトꞑウーꞑン[ꞑnatu:ꞑꞑ] (生っている)。ナイꞑムンꞑヌꞑナトꞑウーꞑン[naiꞑmunꞑnu ꞑnatu:ꞑꞑ] (果物が生っている)。「ミーꞑヌꞑナイꞑマンꞑディ[ꞑmi:ꞑnu ꞑnai ꞑmanꞑdi] (実が生って沢山ある。実が沢山生っている)。「ナマꞑミーꞑヤꞑナꞑラン[ꞑnama ꞑmi:ꞑja ꞑnaꞑran] (まだ実は生らない)。ハーꞑミーꞑナꞑリバꞑスィミンꞑムンꞑヌꞑ[ha: ꞑmi:ꞑ nariba ꞑimimꞑmunꞑnu] (早く実が生ればよいのに)

ナꞑシリ[naꞑfiri] (名)

桑の実。「ナシリꞑヌꞑミーꞑヌꞑウルꞑン[ꞑnaꞑfirinu ꞑmi:ꞑnu ꞑuru:ꞑ] (桑の実が熟れている)。「ウルꞑヌꞑナシリꞑヌꞑミーꞑヤꞑデーꞑジꞑナꞑンꞑマꞑスァꞑタン[ꞑuru:ꞑnu ꞑnaꞑfirinu ꞑmi:ꞑja ꞑde:ꞑɕina ꞑmmaꞑraꞑtan] (熟れた桑のみは大変美味しかった)

ナシリꞑギー[naꞑfiriꞑgi:] (名)

(植) 桑の木。「クꞑワーꞑギー[ꞑkwa:ꞑgi:] (桑の木) ともいう。「ナシリꞑヌꞑマꞑクꞑルーꞑッチーꞑンꞑミーꞑヤꞑデーꞑジꞑヌꞑンꞑマꞑスァꞑタン[ꞑnaꞑfirinu ꞑnaiꞑnu makꞑkuru:ꞑtɕi:ꞑꞑmmi:ꞑja:ꞑ de:ꞑɕinu ꞑmmaꞑraꞑtan] (桑の実が真っ黒に熟れたら大変美味しかった)。「ヤꞑヒꞑガꞑンꞑディꞑンꞑイルꞑヌꞑハꞑワꞑランꞑスィꞑンꞑアꞑタꞑスァꞑー[ꞑjaꞑciꞑga ꞑndiꞑ ꞑꞑirunu ꞑhawaran ꞑiꞑ ꞑataꞑra:] (しかし熟れても色の変わらないのもあったよ)

「ナンクワー[*ˈnaŋkwaː*] (名)

(植) カボチャ (南瓜)。昔のカボチャは水分が多く、美味しくなかった。自家用に栽培していた。「ナンクワーヤ」 ドゥーヌ 「ケースイ」 ビカーンドゥ 「トクイール[*ˈnaŋkwaːjaː duːnu ˈkeːθiˈbikaːndu ˈtukuiru*] (カボチャは自分の食べる分しか作らないく食べる分だけぞ作る)。ミカ「スイヌ」 ナン「クワーヤ ミーヌ」 ヤバハラ「スアヌ」 ンマ「スア」 ナーン「タン[*mikaˈθinuˈ naŋˈkwaːja miːnuˈ jaˈp̄araˈɾanuˈ mmaˈraːˈ naːnˈtaŋ*] (昔のカボチャは実が柔らかくて美味しくなかった)。「ナンクワー トクイール」[*ˈnaŋkwaː tukuiˈŋ*] (カボチャを栽培する)

ナン「ピャー[*namˈpjaː*] (名)

(植) しばふ (芝生)。ナン「ピャー ウイン[*namˈpjaː ʔuin*] (芝生を植える)

ナン「ベラーヤ[*namˈbeːraː*] (名)

(植) へちま (糸瓜)。ナン「ベラーヤ カーリーン[*namˈbeːraːja kaːriːŋ*] (糸瓜は食べられる)。ナン「ベラーヤ」 ンブ「シーツチャー」 ンマ「スアタスア」[*namˈbeːraːjaˈ ʔmbuˈʃiːtʃaːˈ ʔmmaˈɾataːsaː*] (糸瓜は煮物にしたら美味しかった)。「ナンベラーンブシー」[*ˈnambeːrambuʃiː*] (糸瓜の煮物)。「ナンベラーヤ トクイール トクマンガル」 トク「イタル ムロー」 トク「ランタン」[*ˈnambeːraja tukuin tukumangaruˈ tukuˈitaru muroːˈ tukuˈrantaŋ*] (糸瓜は作るどころ<家>が作った。みんな<全家庭>は作らなかった)。「ナンベラーン」 シン「チ イッタイ」 ンブ「シーツチル ケータル」[*ˈnambeːraŋˈ ʃinˈʃi ʔittaiˈ ʔmbuˈʃiːtʃiru keːtaru*] (糸瓜もお汁に入れたり、煮つけにして食べたよ)

「ニー」[*ˈniː*] (名)

根。木の根。「ニーヌ」 プカ「スア」[*ˈniːnuˈ pukaˈɾaŋ*] (根が深い)。「ヒーヌ」 「ニー」[*ˈçiːnu ˈniː*] (木の根)。「ニー」 「プフィン」[*ˈniː ˈp̄uin*] (根を掘る)

ニギ「ヤー[*nigiˈjaː*] (名)

芋を搗って澱粉を取り、その糟を握って天日乾燥したもの。これを保存食にしたり、あるいは常食にすることもあった。「ニギヤーアンデー」[*ˈnigijaːʔandeː*] (ニギヤーを粥状に炊いたもの) を食する家庭は、ピンスー「キネ」ー[*p̄insuːˈkineː*] (貧乏家庭) といわれていた。ミカ「シャー」 ニギ「ヤー」ハンメー シュスア「ウブ」 「スアタンドー」[*mikaˈʃaːˈ nigiˈjaːˈp̄ammeː ʃuːsaːˈ uːp̄ ˈsuaːtandoː*] (昔はニギヤーを食糧にする人が多かったよ)

ニン「ジャナ」[*ninˈʃana*] (名)

芋を煮て捏ねておにぎり団子にしたもの。ンム「クリニンジャナ」[*ʔmmuˈkurininʃ*]

ana] (芋を輪切りにして天日乾燥したものを煮て、潰して捏ねたもの) の二種類があった。団子にしないで、羊羹のように切って食することもあった。

ヌ「ビ」ン[nu「bi」ŋ] (動)

伸びる。ヌ「ビラン」[nu「biraŋ] (伸びない)。「ヌルー」ン[nuru:ŋ] (伸びている)。
ヌ「ビーヤ」[nu「bi:ja] (伸びたら)。「プフルヌ」ヌルー[n「pΦuru」 nuru:ŋ] (身長が伸びている)。「ユラヌ」ヌルー[n「juranu」 nuru:ŋ] (枝が伸びている)。「アンチャー」スア「キ」プフル「ウチャー」ティ[n「ʔanʃo:」 ra「ki」pΦuru
「ʔuʃa:」ti] (あの人は身長と体格<背丈>の均整がとれた人だ)

「ネー」イン[n「e:iŋ] (動)

しおれる(萎れる)。「オーブハ」ネー「トゥーン」[「ʔo:pΦa」 ne:「tu:ŋ] (野菜が萎れている)。「ネーティ」ナーン[n「e:ti」na:ŋ] (萎れてしまった)。「ネー」ティ「イキ」ン[n「e:ti」ʔiki」ŋ] (萎れていく)。「ネー」ラン[n「e:」raŋ] (萎れない)。「ナマ」ネー「ラン」[「nama」 ne:「raŋ] (まだ萎れない)。「ネー」タ「ナー」ン[n「e:」ta:」na:」ŋ] (萎れてはない)。「ヤシェーヌ」ネー「イン」バー「イヤ」ミリ「ハキ」ランバ[n「jaʃe:nu」 ne:「im」 ba:「ija miri」 haki「ramba] (野菜が萎れるときは水を掛けないといけないよ)。「アンサンニーヤ」ハリーンロー[n「ʔansanni:ja hari:nro:] (そうしないと枯れるよ)

ハーシャ「ギー」[ha:ʃa「gi:] (名)

(植) オオハマボウ(ユーナ)。円形の葉は直径約15センチあり、芋団子を握ったり食物の皿の代用に使用された。また、ちり紙の無かった時代には、トイレットペーパーとしても利用された。ハーシャ「ギー」ヌ「ハナー」シュラ「スアン」[ha:ʃa「gi:」nu pΦana:」 ʃura「raŋ] (ユーナ<オオハマボウ>の花は美しい)

「ハイ」ン[haiŋ] (動)

刈る。「ムジ」ハイ「ン」[「muʃi」 haiŋ] (麦を刈る)。「ムジ」ハタン[「muʃi」 hatan] (麦を刈った)。「ムジ」ハティ「フー」バ[n「muʃi」 hati」 Φu:「ba] (麦を刈ってきなさい)。「ムジ」ハイヤー「エーリ」スィバ[n「muʃi」 haija:」 ʔe:ri」 θiba] (麦を刈るなら合図しなさい)。「ムジ」ハタン「シャコー」エーリ「スィバ」[「muʃi」 hatanʃako:」 ʔe:ri」 θiba] (麦を刈ったなら合図しなさい)。「マジョー」イ「シャーマ」ムジ「ハラネー」[「maʃo:」i」 ʃa:ma」 muʃi「harane:] (一緒に麦を刈らないか)。「ワナー」ムジャー「ハラン」[「wana:」 muʃa:」 haran] (私は麦は刈らない)。「ヤーヤ」ムジ「ハリバ」[「ja:ja」 muʃi「hariba] (君は麦を刈れよ)。「ワヌン」ムジ「ハイ」ン[「wanum」 muʃi」 haiŋ] (私も麦を刈る)。「スアガ」ムジャー「ハイガ」[「ra:ga」 muʃa:」 hai ga] (誰が麦を刈るか)。「ムジ」ハイ「ン」チュヌ「グラン」[「muʃi」 hai」 n ʃun

u guraŋ] (麦を刈る人がいない)。「ヤーガ」 ムジ 「ハイヤー」 ワヌン 「ハイ
 スアー[「ja:ga」 muɕi 「haija:」 wanuŋ 「haira:」] (君が麦を刈るなら私も刈
 るよ)。「ムジ」 「ハイガ」 イキン[「muɕi 「haiga」 ʔikiŋ] (麦を刈りに行く)。
 「ワヌン」 ムジ 「ハ」ティミン[「wanum」 「muɕi」 「ha」timi:ŋ] (私も麦を刈
 ってみる)。「ムジ」 「ハタン[「muɕi」 「hataŋ] (麦を刈った)。「ムジ」 ハ「トウ
 タン[「muɕi」 ha「tu:taŋ] (麦を刈っていた)。「ナマ」 ムジ ハ「トウ
 ン[「na ma」 muɕi ha「tu:ŋ] (今麦を刈っている)。「ナマ」 ムジ ハ「トウ
 クトウ イキョースァン[「nama」 muɕi ha「tu:kutu」 ʔikijo:raŋ] (今麦を刈っているの
 で行けない)。「ナマ」 スアーガ」 ハ「トウガ[「nama」 ra:ga」 ha「tu:ga」] (今誰が刈
 っているか)。「アリーガ」 ハ「トウクトウ」 スィ「ミン[「ʔari:ga」
 ha「tu:kutu」 θi「miŋ] (あが刈っているから、いいよ)。「ムジヤ」 「アリガ
 ル」 ハイル[「muɕa:」 「ʔarigaru」 hairu] (麦はあれがぞ刈る)。「ワーガ」 「ハイ
 ビースアー[「wa:ga」 「haibi:ra」] (私が刈ります)。「アン」 「シャコー ヤー」 ハ「リバ[ʔ
 aŋ「fako: ja:」 ha「riba」] (それなら君が刈れよ)

バシヤ「ナイ[baʃa「nai」] (名)

(植) 島芭蕉。沖縄原産の芭蕉。台湾産よりも美味しい。バシヤ「ナヤ」 ウィン
 トクマン」 アイ ドウ「シャーマ ケン トクマン」 アタ「スアー[baʃa
 「naja:」 ʔuin tukuman」 ʔai du:ʃa:ma ke:n tukumaŋ」 ʔata「ra:」] (芭蕉<バナナ>
 は売るところもあり、自家用にする<食べる>家も<ところ>もあ
 ったよ)

「ハッティ[「hatti」] (名)

経験者。産婆の役目をしている人。取上げ婆。専門家。漢方医療の経験者。「勝手」
 の義。「アヌ ヅチョー ハッティ」 ヤル[「ʔanu tʃo: hatti:」 jaru] (あの
 人は産婆の経験者<取上げ婆>である)。「アヌ アンマ」 ハッティ ヤン」シ
 ェール[「ʔanu ʔamma: hatti: jaŋ」 ʃe:ru] (あのお母さんは産婆の役目の経験者
 (取上げ婆) であられます)

「バハー[「pʰa:」] (名)

は (葉)。植物の葉。「デークンヌ」 「バハー[「de:kunnu」 「pʰa:」] (大根の葉)。ヒ
 ーヌ 「バハー[「ci:nu」 「pʰa:」] (木の葉)。「バハーヌ」 ウツ」タン[「pʰa:nu」 ʔut」
 taŋ] (葉が落ちた<落葉>)。ワツ」ター ミャー」ヤ 「バハー」ヌ 「ウティ」 「マン」
 ディ 「スオージ」 「スン」チ ナガ」レー」 ハカタン[wat「ta:」 mja:」ja
 「pʰa:」nu」 ʔuti 「man」di」 θo:ɕi 「sun」ʃi naga「re:」 hakataŋ] (私の家
 の庭は木の葉が沢山落ちて、掃除するのに長くかかった)

「バハ」タニ[「pʰat」tani」] (名)

初種。久高島では従来、旧暦の11月に巳年生まれの人が、「ミーアムトゥ」[「mi:ʔa mutu」] (外間ニーッチュ、外間ノロ、久高ノロ) のノロ地と「ニーッチュ」ジエ[「ni: tʃuʔɕi:」] (根人の土地)、大里家の「ハタ」ス[「hataʔsu」] (五穀の入った壺を埋めたとされる) ところで、フボーウタキの近く、「ウプラトゥ」[「ʔupuratu」] <大里家> が管理している) に初種を下ろして後に、一般家庭では種蒔きをすることになっていた。「アスタンハリ」[「ʔaraŋhari」] (各家庭) の種蒔きは「バハッタ」ニの後に行われたのである。「ナママリーヤ」 シム「ティキヌ」 バハッタナー ミーヌ ッチュヌ ミーアムトゥヌ ニーッチュジエトウ」 ヌン「ジーカイ」 ムジヌ 「スアナー マチヌ アトウ」 ヤー「ヤーヤ」 スアナー 「マキタル」[「namamari:jaʔ ʃimu ʔtikinu ʔʔattana: mi:nu tʃunu mi:ʔamutunu ni:tʃuʔɕi:tuʔ nunʔɕi:kaiʔ muɕinu ʔrana: maʃinu ʔatuʔ ja:ʔja:jaʔ rana: ʔmakitaru」] (今までは霜月の初種は、巳年生まれの人がミーアムトゥの根人地とノロ地に麦の種を蒔いて後に、家々は種を蒔いたのだ)

「バハナ」[「ʔʔana」] (名)

(植) ①はな(花)。「バハナヌ」 「スアチャ」ン[「ʔʔananu ʔraʃaʔŋ」] (花が咲いた)。②花柳界の女性。辻の女性。これに対して一般家庭の女性は「ジク」[「ɕiku」] (家庭の婦女。「俗」の義か) という。「アンチャー」 バハナ 「ヤタツチスア」[「ʔanʃo:ʔ ʔʔana ʔjatatʃira:」] (あの人は遊女だったようだ)

「バラカーガー」[「ʔʔaraka:ga:ʔmi:」] (名)

ほおずき (酸漿)。女の子が口に入れて音を鳴らして遊んだ。「バラカーガー」[「ミーナラ」チ ア「スイルー」ン[「ʔʔaraka:ga:ʔmi: naraʔʃi ʔaʔθiru:ʔŋ」] (酸漿を鳴らして遊んでいる)。ア「スイリ」 グン[「ʔaʔθiriʔgun」] (遊んでいる)

「バラカーム」ジ[「ʔʔaraka:muʔɕi」] (名)

(植) はだかむぎ (裸麦)。大麦。オオムギ (大麦) の変種で果実とエイ (穎) が離れやすいという。久高島ではこの品種しか栽培しなかった。

「バハン」[「ʔʔaʔŋ」] (名)

畑。「バハン」チ イ「キーン」[「panʔʃi ʔiʔki:ŋ」] (畑へ行く)

「バハンアツ」[「ʔʔaŋʔakʔkja:」] (名)

農夫。百姓。「畑歩き人」の義。畑仕事に従事する人の義。

「バハン」[「ʔʔaŋʔkiŋ」] (動)

はじく (弾く)。剃刀で軽く額や背中 of 皮膚を切って血液を出す。「バハナシキ」チ 「ニティヌ」 アンバー「イヤ」ハン「トウイシャーマ」 ピ「チャイ」 「バハン」キタン[「ʔʔanaʃikiʔʃi ʔnitinu ʔamba:ʔija:ʔ hanʔtuisa:maʔ piʔʃaiʔ ʔʔaŋʔkiʔtan」] (風邪をひいて熱があるときは剃刀で額を弾いた<剃刀で軽く額の皮膚を切

って血液を出した>)

「バハンジー[^hʔʰanɕi:] (名)

チュジーの半分(約150坪)。女所帯の家に配分された。

「ハマーローエー[^hama:ro:je:] (名)

竈神<火の神>に対する感謝の神事。各家庭が一年間、家族一同が健康に過ごすことが出来たことに対する感謝の祈願。旧暦12月24日に竈神が昇天され、大晦日に降臨されると信じられている。その12月24日のユク「ネー[^hjuku^hne:] (夕方。午後6～7時頃。「アカークロー[^h?aka:kuro:]の時刻)に竈神<火の神>の前で行われる。供物は特にない。板香「チュユー[^hʃuju:] (四枚、一束二十四本)をウカマ、トゥ^hハシリへ供え、床の神には十二本供える。

「バラ[^hbara] (名)

(植) バラ (薔薇)。観賞用植物。もともと久高島にはなかった植物で少数の家庭で庭木として植栽されていた。

「ハラバハイ[^hhara^hʔai] (名)

羅針盤。コンパス。「からはり (唐針)」の義か。進貢船時代に中国 (明) より導入されたという。久高島から進貢船の船頭や船員が輩出したので、漁師たちは「ハラバハイ」を利用し続けているという。船の針路を決定する貴重な機器である。

「ハリーン[^hhari:ŋ] (動)

枯れる。^hヒーナ ^hハリーン[^hçi:nu ^hhari:ŋ] (木が枯れる)。「ハリラ^hン[^hharira^hŋ] (枯れない)。「ハリトゥー^hン[^hharitu:ŋ] (枯れている)。^hナー ^hハリティ^hナーン[^hna: ^hhariti^hna:ŋ] (もう枯れてしまった)。「キッサ ^hハリティ^hナーン[^hkissa ^hhariti^hna:ŋ] (とっくに枯れてしまった)。「ダン^hダ^hン ^hハリティ^h イキスイガヤー[^hdan^hda^hŋ ^hhariti ^h?iki θigaja:] (だんだん枯れていくがなあ)。「ハリー^hン バー^hイ[^hhari:^hm ba:^hi] (枯れるとき)。「ハーヌ ミラー^h ピヤーイ ナヤーマ ^hハリ^hティナーン[^hha:nu mira:^h pja:i naja:ma ^hhari^htina:ŋ] (井戸の水は早になって枯れてしまった)。「チュタ^hイ^hン ^hナーン[^hʃuta^hi^hn ^hna:ŋ] (一滴もない)

「ハリバー[^hhariba^h::] (名)

枯れ葉。落ち葉。「ティプグ[^htipugu] (枯れ葉)ともいう。「ハリバー」が沢山積もっているものをテプグという。

「バンシ^hルー[^hbanʃi^hru:] (名)

ばんじろう (蕃石榴) の実。グワバ。久高島には野生のバンジロウが多かった。実は熟れると美味であり、芳香をはなつた。沢山食べると便秘の原因になるといわれていた。「バンシ^hルーヤ^h ヤシキ^hカイ^h アントック^hマン^h アイ ヌン^hジーヤ^h ヤマ

「カイン」 アタ「スアー」[baŋʃi「ru:ja」 jaʃiki「kai」 ʔantuku「maŋ」 ʔai
 nun「ɕi:ja」 jama「kaiŋ」 ʔata「ra:」 (蕃石榴は屋敷内にあるところもあり、ノ
 ロ地や山にもあった)。バン「シルーヌ」 ナイ「ヤー」 ワラビン「シャー スアマス
 イー」 ヤタル[baŋ「firu:nu」 nai「ja:」 warabiŋ「fa: ɾama θi:」 jataru]
 (蕃石榴の実は子供達に配分<分け前>されたものであった)。バンシ「ルー」ヌ ナ
 「トゥーン」[baŋʃi「ru:」nu na「tu:ŋ」 (蕃石榴の実が生っている)。ヌン「ジー」ヌ
 バンシル「ギー」ヤ ナイ 「マンドウークトゥ」 ムイガ 「イカナ」[nun「ɕi:」n
 u baŋʃiru「gi:」ja nai 「mandu:kutu」 muiga 「ʔikana」 (ノロ地の蕃石榴
 の木は実が沢山生っているので挽ぎに行こうよ)

「ヒー」[「ɕi:」 (名)

(植) 木。樹木。「チンタクギー」[「ʃintakugi:」 (ガジマル。榕樹)。「ヒーヌ」 ミー
 「トゥーン」[「ɕi:nu」 mi:「tu:」ŋ] (木が生えている)

「ヒーヌ」 ナカ「グイ」[「ɕi:nu naka「gui」 (連)

木の幹。木の中心となるところ。「ウヌ ヒー」ヤ ナカ「グイヌ」 チュー「スアヌ
 マットー」バ スアツ「チューン」[「ʔunu ɕi:」ja naka「guinu」 ʃu:「ɾanu mat
 to:」ba ɾat「ʃu:ŋ」 (この木は幹が強くて、真直ぐに立っている)

「ヒーヌ」 「ハー」[「ɕi:nu 「ha:」 (連)

木の皮。樹皮。「ヒーヌ」 「ハー」バ「ハギン」[「ɕi:nu 「ha: ʔɸagi」ŋ] (樹皮を剥ぐ)。

「シカチギーヌ」 「ハー」[「ʃikaʃigi:nu 「ha:」 (シャリンバイの樹皮)

「ヒーヌ」 「スウラ」[「ɕi:nu 「θura」 (連)

こずえ (梢)。「木末」の義。「ユダヌ スア」キ[「judanu ɾa」ki] (枝の先、先端)。
 ヒーヌ 「ユラヌ スアキカイ」 ʔホー「ターヌ」 スィー 「トゥクティ」 グン
 [「ɕi:nu 「juranu ɾakikai」 ʔɸo:「ta:nu」 θi: 「tukuti」 guŋ] (木の枝の先
 にく梢に>鳩が巣をつくっている)。「スィー」 「トゥクティ」 グ「スィガ」 ヤガテ
 イ」 フガ 「ナシュン」 バハリ「ロー」[「θi: 「tukuti」 gu「θiga jagati」 ʔu
 ga 「naʃum」 ʔɸari「ro:」 (巣を作っているが、やがて卵を産むだろう<生むはず
 だ>)

「ピザイサンニ」[「piʔaisanni」 (名)

祈願に用いる平たいおにぎり。直径約10センチ、厚さ約3センチ程度に握ったもの。

「ピジュイ」[「piʔui」 (名)

体の冷え込み。病気の原因となる体の冷え込み。冷え性。破傷風。「ピンノー」 ピ
 ジュ「イヌ」 クス「イ」 ヤル[「pinno:」 piʔu「inu」 kusu「i」 jaru] (にんにく
 <大蒜>は冷え性の薬である)

ヒティミ「ティムン」[ɕitimi「timuŋ」 (名)

朝食。朝ご飯。「つとめてもの」の義。ヒティミティ「ムノー チャー」 シチジ
「マンガラル ケータル」[çitimiti ʔmuno: ʃa: ʃiʃiçi ʔmaŋɡuraru ke:taru]
(朝食はいつも7時ごろに食べたよ)

「ピコン」[ʔpi ʔŋ] (名)

(植) ニンニク (大蒜)。自家用として、久高島では戦前から栽培していた。砂糖漬
けにして保存した。泡盛の酒漬けにする人もいた。「ピンザ」キ「pinða ʔki」(蒜酒)
は瓶に大蒜をいれ、それに酒を入れて二週間以上おいて飲んだ。「ピジュイ」[ʔpiç
ui] (冷え症) や風邪予防に飲むと効果があった。「バハナ」シキ「ʔpʰana ʃiki」(風邪)
の予防のため、大蒜の実に糸を通して数珠にし、それを首に掛けた。

「ピンザ」キ「pinða ʔki」(名)

大蒜酒。「蒜酒」の義。大蒜を泡盛酒に漬けたもの。薬用として愛飲した。「ピジュ
イ」[ʔpiçui] (冷え性) や風邪、破傷風に効くといわれている

「ビラ」[ʔbira] (名)

(植) ニラ (菰)。普通の菰。キリ「ビラ」[kiri ʔbira]のこと。キリ「ビラー」 スェー
「ゲー」 ヤシキ「ウチカイル ウイタル」[kiri ʔbira: ʔ ʰe: ʔge: ʔ jaʃiki ʔʔuʃikai
ru ʔuitaru] (菰は、大概是屋敷内に植えたものだ)

ピル「マームン」[ʔpiru ʔma:mun] (名)

昼食。「昼間もの」の義。ピル「マー」[ʔpiru ʔma:]ともいう。ピル「マーヤ」 ウ「ミ」チ
ン「ジャイ スクトウ ジカノー」 スアダ「マランタン」[ʔpiru ʔma:ja ʔu ʔmi ʃi
ʔn ʔçai sukutu ʔçikano: ʔ ʔada ʔmarantaŋ] (昼間は海に行ったりするから時
間は定まらなかった)

「ビワ」[ʔbiwa] (名)

(植) ビワ (枇杷)。久高島では戦前、浜福治家にだけ植栽されていたが、「屋敷に
植えるものではない」という人がいて切り倒した。幼少の頃、大きな実が生ってい
た。「ビワヌ ヒーヤ」 ワツ「ター ヤービケーンカイル」 アタル「biwanu ʔi:ja ʔ
wat ʔta: ja:bike:ŋkairu ʔataru」(枇杷の木は私の家にだけしかなかった<家
にばかりぞありたる>)

ブー「ブー」[bu: ʔbu:] (名)

しゃけつ (瀉血)。漢方治療の一つ。治療の目的で背中などの患部を泡盛で消毒し、
剃刀で軽く皮膚に切り傷をつけ、ガラスコップかコップ状に切った竹筒に度数の強
い酒を入れ、それに点火して患部の切り傷の上に被せる。アルコールが燃えきって
真空状態になると体内の静脈より血液が吸い出される。それによって患部の治療が
出来るという昔から民間に伝えられた治療法。「ウチチャンメー フシカイ」 ブ
ー「ブー スウラシュタン」[ʔʔuʃiʃijamme: ʔuʃikai bu: ʔbu: ʰuraʃutaŋ]

(打撲傷には背中に瀉血をさせた<ブーブーを取らせた>)。ウチ「チ スォーンムヌ バーイヤ」 ブー「ブー スウラシュタン」 ベハリ [ʔuʃi ʃi θo:mmunu ba:ija] bu: ʔbu: θurafutam ʔʔari] (打撲傷をしている場合はブーブー<瀉血>を取らせたはずだ)

「プシ」 [ʔuʃi] (名)

ふし (節)。竹の節。「ダキヌ プシ」 [ʔdakinu ʔuʃi] (竹の節)。「プシヌ マギ」 スァン [ʔʔuʃinu magi ʔraŋ] (節が大きい)。「ウヌ ダキヌ プシャー」 マギ」 スァン [ʔʔunu dakinu ʔuʃa: ʔ magi ʔraŋ] (この竹の節は大きい)

「フシカ」ブ [ʔʔuʃika ʔbu] (名)

大根を細く千切りにし、天日乾燥して保存したもの。デー「クン スィッティ」 フシ「カブ ナチ」 ハー「ミカイ」 スァ「ブイン」 [de: ʔkuŋ θitti ʔʔuʃi ʔkabunaʃi ha: ʔmikai ʔra ʔbuiŋ] (大根を摺ってフシカブにして乾燥し、甕に入れて保存する)

「ブ」ティ [ʔbu ʔti] (名)

くき (茎)

「フバ」 [ʔʔuba] (名)

(植) ビロウ (蒲葵)。フバは神木とされ、お嶽 (聖域) には必ず自生している。葉は蓑や笠、扇、釣瓶などを作るのに利用される。オー「ジャー フバナ ベハーシャーマル」 トウクイタル [ʔo: ʔʔa: ʔʔubanu ʔʔa:ʃa:maru ʔtukuitaru] (扇はクバの葉で<ぞ>作った)。クラカ「ジマー フバナヒーヤ」 マン「ドゥーン」 [kuraka ʔʔima: ʔʔubanuʃi:ja ʔman ʔdu:ŋ] (久高島はクバの木が多い)。ミカ「シャー フバジマツチン」 イ「ヤットゥーン」 [mika ʔʃa: ʔʔubaʃimatʃiŋ ʔi ʔjattu:ŋ] (昔はクバ島とも言われている)

フバハ「グスァ」 [ʔʔuʔʔa ʔgura] (名)

(植) オヒシバ (雄日芝)。路傍に生える強靱な雑草。茎は扁平で葉は細く、色は濃緑で細長い。「硬草 (力草)」の義か。

「プフー」 [ʔʔu:] (名)

穂。植物の穂。「ムジヌ プフー」 [ʔmuʃinu ʔʔu:] (麦の穂)。「ムジヌ プフーヌ」 シギ「タン」 [ʔmuʃinu ʔʔu:nu ʔŋgi ʔtaŋ] (麦の穂が出た)

「フ」ティ [ʔʔu ʔti] (名)

もぐさ (艾)。よもぎ (蓬) を乾燥して綿のようにしたもの。これに火をつけて灸治をする。ヤ「チュー」 [ja ʔʃu:] (お灸) に用いる。「ヤーチューヤ」 プフティ 「ティキティ」ル シュル [ʔja:ʃu:ja ʔʔuti ʔtikiti ʔru ʔʃuru] (お灸は艾を付けて<ぞ>すえる<する>のだ)

プフティ「バー」[pʰuti ʔba:] (名)

(植) よもぎ (蓬)。プフティ「バーヌ」 ミー「トゥーン」[pʰuti ʔba:nu mi: ʔtu:ŋ] (蓬が生えている)。プフティ「バーヤ」 クスイ 「ナイン」[pʰuti ʔba:ja kusui ʔnaiŋ] (蓬は葉になる)。プフティ「バー シギチ」 ヌマチ 「ニティ」 「スアマスィミー」[pʰuti ʔba: ʃigiʃi numafi ʔniti ʔrama θimi:ŋ] (蓬を煎じて飲ませて解熱く熱を冷まさせる)。「バハナシキン バーイヤー」 プフティ「バー シギチ」 ヌマシュ「タン」[pʰanaʃikim ba:ija: pʰuti ʔba: ʃigiʃi numafu ʔtaŋ] (風邪のときには蓬を煎じて飲ませた)

プフ「ルイン」[pʰu ʔruin] (動)

成長する。育つ。大きくなる。プフ「ルイトゥーン」[pʰu ʔruitu:ŋ] (成長している)。プフ「ルイラン」[pʰu ʔruiran] (成長しない)。「ナマ」 プフ「ロー」 イ「カン」ムンヌ「[nama pʰu ʔro: ʔi ʔkam munnu] (まだ背丈が伸びていない)。プフ「ルイチャン」[pʰu ʔruifʃaŋ] (成長した)。ウツ「ピル」 プフ「ルイル」[ʔup ʔpiru pʰu ʔruiru] (それだけしか成長しない<それだけぞ成長する>)。ジョー「ブン」 プフ「ルイトゥーン」[ʔo: ʔbum pʰu ʔruitu:ŋ] (十分成長している)

「プフルワーシュン」[pʰuruwa:ʃuŋ] (動)

養育する。成長させる。育てる。ティカ「ネーン」[tika ʔne:ŋ] (養う)と同じ意味。

「フミ」[ʔumi] (名)

米。「フミ」ホー「ティ」 フー「バ」[ʔumi ho: ʔti ʔu: ʔba] (米を買ってこいよ)。「フミヤー」 マチャ「グワーヤ」 ユラ「バンド」 ホー「ティ」 シャー「マル」 ウイタル「[ʔumja: mafija ʔgwa:ja jura ʔbanda ho:ti ʃa: ʔmaru ʔuitaru] (米は小売店が与那原から買ってきてから売っていたよ)。

「ボーコー」[ʔbo:ko:] (名)

(植) 芋の一品種。「ボーコーンム」[ʔbo:ko:ʔmmu]のこと。クダカ「カヤー」 ボーコー「チュヌ」 「ナーヌ」 ヌムヌ「アタン」[kudaka ʔkaja: bo:ko: ʔʃunu ʔna:nu ʔmmunu ʔataŋ] (久高島にはボーコーという名の芋があった)

「ホーブシ」[ʔho:bʃi] (名)

(植) 雑草の一種。力草。「ホーブシヌ」 ミー「トゥーン」 ピ「キグッシャ」ヌ「[ʔho:b uʃinu mi: ʔtu:m pi ʔkiguʃʃa nu] (力草が生えている。引き抜きにくい)

「ホーレーグ」スウ「[ʔho:re:gu ʔu] (名)

(植) とうがらし (唐辛子)。酒に漬けて飲用した。「高麗胡椒」の義。ホーレー「グスオー」 ハラスアン「[ho:re: ʔgu θo: ʔhara ʔraŋ] (唐辛子は辛い)

マ「ブツ」チ「[ma ʔbut ʔʃi] (名)

麦の穂祭り。旧暦1月中旬に行われる。麦の収穫祭は3月中旬に行われる祭祀でサ

ン「グワティマティ」[saŋ ʔgwatimati:]という。粟の穂祭は5月中旬にある。久高島の祭りは、ミズノエ（壬）、ミズノト（葵）、キノエ（甲）、キノト（乙）の間に行われる。ひと月の中の「ミンニー」[ʔminni:]（壬、葵）に日取りをする。粟の収穫祭は、6月中旬に行われるルク「グワティマティ」[ruku ʔgwatimati:]（六月祭り）である。

「マ」ミ[ʔma mi]（名）

（植）まめ（豆）の総称。「スオープマ」ミ[ʔθo:puma mi]（大豆。豆腐豆）。「オーマーミー」[ʔo:ma:mi:]（緑豆。萌やしの原料）。アカマー「ミー」[ʔakama:ʔmi:]（小豆「赤豆」の義）。「インドーマーミ」[ʔindo:ma:mi]（豌豆。「豌豆豆」の義）

「マンナーリン」[ʔmanna:riŋ]（動）

呪文を唱えて悪霊を祓う。「マンナ」ティ スウラシン「ショーリバ」[ʔmanna ti θuraʔiŋ ʔfo:riba]（お祓いをしてください）。「スイーンユタ」[ʔθi:njuta]（各家庭の不定期の祭祀祈願を執り行う神女<巫女>で、家庭ごとに定められている）に依頼して悪霊祓いをした。朔日、十五日、祝日などにも依頼して、それぞれの祈願をもらった。

「ミー」[ʔmi:]（名）

め（芽）。「ミーヌ」 ング「タン」[ʔmi:nu ʔŋgi taŋ]（芽が出た）。「ミーヌ」 ングティ 「シューン」[ʔmi:nu ʔŋgiti ʔʃu:ŋ]（芽が出てくる）

ミー「ビンナー」[mi:ʔbinna:]（名）

（植）のびる（野蒜）。「ミー」ビンナー ティリッ「チ」 「シン」チ 「イリリバ」[mi:ʔbinna: tiritʔʃi ʔʃinʔʃi ʔʔiririba]（ノビル<野蒜>を摘んで、お汁に入れなさいよ）

ミー「ン」[mi:ʔŋ]（動）

生える。「ミー」ラン[mi:ʔraŋ]（生えない）。「ミー」トゥー「ン」[mi:ʔtu:ʔŋ]（生えている）。「ミー」タン[mi:ʔtaŋ]（生えた）。「クスアヌ」 ミー「トゥー」ン[ʔkuʔranu mi:ʔtu:ʔŋ]（草が生えている）。「クスアヌ」 「ミーヤー」 ピ「キ」バ「ヤー」[ʔkuʔranu ʔmi:ja:ʔ piʔkiʔbaʔja:]（草が生えたら引き抜きなさいねえ）。「ミー」トゥー「ン」シャコー チャーキチャーキ「ピ」カンバ[mi:ʔtu:ŋʃako: ʔʃa:kiʔʃa:kiʔ piʔkamba]（生えていたら、その都度引き抜きなさい）。「クスア」「ポーボー」 スイミター「ナラン」ドー[kuʔra ʔbo:bo: θimita:ʔ naran ʔdo:]（草ぼうぼうにしたらいけないよ）。「ミー」ン「バー」イヤ[ʔmi:ʔm ba:ʔija]（生えるときは）

「ミンブトゥカー」[ʔmimbutuka:]（名）

（植）野草の一種。食用となる。「ピヒーパーヤナー」[ʔpʰi:pijana:]（屁ひり菜）といって、これを食べると屁がよく出ることから命名されたという。島の何処にでも自生

していた。屋敷内にも自生していた。最近では食べる人もいない。

「ムーティ」[「mu:ti】(数)

六つ。「ムーティミー マリーヤ」 スィラ「スアー」[「mu:timi: mari:ja」 θira「ra:】(六つまでは済んだよ)

「ムジ」[「muʒi】(名)

(植) むぎ(麦)。大麦。久高島では麦は大変重宝された。味噌の原料としても用いられ、久高島の伝統祭祀にはなくてはならない重要な穀物である。昔は神酒も麦で造った。1月の麦の穂祭り、3月の麦の収穫祭には、麦を挽いてマ「ブツ」チ[ma「but」ʒi】(神に供える神饌)にしたり、「ムジアンデー」[「muʒiʔande:】(麦粥。供物の一つ)にして供えた。「アヌ べハノー」 ムジル 「ウイトウール」[「ʔanu pʰa no:」 muʒiru 「ʔuitu:ru】(あの畑には麦をうえてある)。「べハン」チ イ「キーン」[「pʰan」ʒi ʔi「ki:ŋ】(畑へ行く)

「ムジアンデー」[「muʒiʔande:】(名)

麦粥。麦で造ったお粥。供物として神前に供えられた。

ムジ「ジュ」[muʒi「ʒu:】(名)

麦を刈り取った後の畑。

「ムジン アン」デー」[「muʒiŋ ʔan「de:】(連)

麦のお粥。アチビーのような粥。麦を石臼で挽いて粉にし、それを粥状に煮たもの。村の神行事、家庭の祈願行事にも用いた。戦前までは、一般家庭の食事にも主食として供された。ミカ「シャー」 ムジヌ アン「デー」 ユー キ「ラタン」[mika「ʃa:」 muʒinu ʔan「de:」 ju: ki「rattan】(昔は麦のお粥をよく食べさせられた)。久高島独特の伝統的食事。

ムチュー「グスア」[muʃu:「gura】(名)

野草の一種。

「ムム」[「mu」mu】(名)

(植) 桃。久高島には桃の木は生えていない。首里方言からの借用語であろう。

「ムム」グワーシ」[「mumu」gwa:ʃi】(法事に供える菓子)。「ムムグワーシャー」 ショー「コーンバーイル ウシャギール」[「mumugwa:ʃa:」 ʃo:「ko:mba:iru ʔuʃagi:ru】(桃菓子は法事<焼香>の時にお供えする)

「モーウイ」[「mo:ʔui】(名)

(植) うり(瓜)。瓜の一種。しろうり。キュウリに似た瓜で食用となる。露地栽培をした。

「モクマオー」[「mokumao:】(名)

(植) トキワギョリュウ。明治41年に台湾より導入されたものが防風林として各地

に広がっていったという。久高島では昭和10年以降に植林されたという。

ヤ「グルガー」[ja「guruga:」] (名)

聖泉の名。崖から湧出する水を溜めて井戸にしたところ。「フボ」ーウタキ[「Φubo」: ?utaki] (フボ御嶽) の近くにある。伊敷浜に五穀の種子を入れた壺が流れ寄ってきたとき、最初はその壺を取る事が出来なかったので、このヤグルガーで精進潔斎して再度その壺を取りに行ったところ、それを取る事が出来たという伝説のある聖泉。フボウタキは本来は「フバリカサア」[「Φubarikaṛa」]である。ワ「カリカサア」[wa「karikaṛa」]、「スイリリカサア」[「θiririkara」]、「フバリカサア」[「Φubarikaṛa」]の三つのイベがあり、それにヤグルガーが加わって、『琉球国由来紀』ではフボ御嶽と称している。

「ヤスエー」[「ja θe:」] (名)

野菜。「オーバ」ハ[?o:ɸa] (青葉) ともいう。「ヤスエー」 トウ「クイン」[「ja θe: tu「kuiŋ」] (野菜を作る)。「ヤスエー」 「ケン」[「ja θe: 「ke:ŋ」] (野菜を食べる)

「ヤニ」[「jani」] (名)

松脂。松の樹脂。戦前、久高島には青年団が植林した松林があったが、戦争で伐採され、現在はない。「シェンジェノー」 シェーネン「ダン」ヌ 「チュトウクマカイ ウイトウータヌ」 マティ「ギーヌ」 マン「ドウータスイガ」 ウヌ イクスアカイ グンヌ「キヤー」ティ イキヤーマ ナマー「チュキーン」 ナー「ン」[「ʃenʒeno:「je:nen「dan」nu 「ʃutukumakai ?uitu:tanu」 mati「gi:nu」 man「du:ta θi ga ?unu ?ikurakai gunnu」 kja:「ti ?ikja:ma nama:」 ʃuki:n na:「ŋ」] (戦前には青年団が一箇所に植えてあった松の木が沢山あったが、今次大戦で日本軍が伐採してしまって今は一本もない)

ヤマ「ムム」[jama「mumu」] (名)

ヤマモモ (山桃)。久高島にはなかったが四月～五月にかけて、グイー「クマジリ」[g ui:「kumaʒiri」] (越来間切) 方面より、乙女らが「バ」キ[「ba「ki」] (竹箒) に山桃を入れ、頭に載せて運んできて、杓で計って売っていた。昔の初夏の風物詩であった。ヤマ「ムモー」 グィーク「マジリヌ」 アングワー「タガ」 キ「シャラ」 ナ「フワチ」 チー「ウイタン」[jama「mumo:」 guji:ku「maʒirinu」 ?angwa:「taga」 ki「ʃara」 na「Φaʃi」 ʃi:「?uitaŋ」] (山桃は越来間切の娘達が汽車から那覇へ来て売っていた)

「ヤラ」ブ[「jara「bu」] (名)

(植) フクギ (福木)。樹木の成長は遅いが材質は頑強である。防風防潮林に最適で屋敷の周囲に植栽されている。家屋の建材としてもよく利用される。樹皮からは美しい黄色の染料がとれ、紅型などの染料に利用されている。「ヤラブギー」[「jarabug

i:]ともいう。ヤラブ「ギーヤ ボーフーガクイッチ」 ヤシキ「マーイカイ ウイト
 ー」ン[jarabu「gi:ja bo:Φu:gakuitʃi」 jaʃiki「ma:ikai ʔuitu:」ŋ] (フクギ
 は防風林として屋敷の周りに植えてある)。島の周囲にも植えてある。アンダヤラブ
 「ギー」[ʔandajarabu「gi:」] (テリハボク) の実は戦争末期にローソクの代用として利
 用したという。

ユク「ネー」[juku「ne:」] (名)

夕方。午後6時～7時ごろ。ユク「ネームン」[juku「ne:mun」] (夕飯)。ユク「ネール
 」 ハマーロー「エーヌ ウグワノー ウシャギール」[juku「ne:ru」 hama:ro:「j
 e:nu ʔugwano: ʔuʃagi:ru」] (夕方に<ぞ>ハマーロー「エー」の祈願を捧げる)

「ユダ」[「juda」] (名)

枝。木の枝。「ヒーヌ」「ユダ」グ「イン グティ」 スアムン 「シユン」[「gi:nu
 」「juda」 gu「in guti」 ʃamuŋ 「ʃuŋ] (木の枝を折る。折って薪にする)。オー「
 ゴーヤ バハットウ ヤクトウ」 スウラ「ランタン」[ʔo:「gi:ja ʔɸattu jakutu」 θ
 ura「rantan」] (青木<生の木>は禁止されていたので採取出来なかった<取れなか
 った>)

ユ「ニ」ク[ju「ni」ku] (名)

麦焦がし。麦を煎って石臼で挽いて、粉にし、篩いにかけて作る。これに黒糖を削
 ってまぶし、お湯をかけてユニクにした。

ユンヌ 「バハニ」ー[「junnu 「ɸani」:] (名)

(植) ゆりの花 (百合花)。3月下旬より4月上旬が百合の花の最盛期。カベール付
 近の原野に群生している。

「ワチャ」[「waʃa」] (名)

わき(腋)。「ワチャ」ク「スグイン」[「waʃa ku「suguin」] (腋の下をこそぐる)

ワラ「グ」ティ[wara「gu」ti] (名)

わらじ(草鞋)。魚釣や、いさり(漁り)に行く時に履いて足を保護する履物。ワラ
 「グター」 アラ「ナシ シャーマル」 トウク「イタル」[wara「guta:」 ʔara「naʃi
 ʃa:maru」 tuku「itaru」] (草鞋はアラナシ<アダンの気根の繊維>で作った)

「ン」ギ[「ʔŋ」gi] (名)

とげ(刺)。「のぎ(鯁)」「喉<のみど>にのぎ<鯁>ありて物え食はず」(『古事
 記 上』)の義か。「アランバハヌ バハーヤ ムル ンギ」 ヤル[「ʔarumɸanu
 ɸa:ja muru ʔŋgi」 jaru] (アダンの葉はみんな刺だらけである)。ミカ「シャー
 アランバハヌ ハリバーヤ」 スアムン 「シュタクトウ ウリ スウイン」チ
 ユナグン「シャー スィーヤ」 スアキトウー「タスアー」[mika「ʃa: ʔaramɸanu
 hariba:ja」 ʃamuŋ 「ʃutakutu ʔuri θuin」ʃi junaguŋ「ʃa: θi:ja」 raki

tu:「tara:」(昔はアダンの枯れ葉は薪にしたので、それを取るために女性達の手はく刺>で擦過傷を受けていたく裂かれていた>)

「ンギャナ[「ŋjana」(名)

(植)ニガナ(苦菜)。ニガナを細かく下ろして、刺身に和えて食した。和え物にする菜。ンギャナ「ルネー[ŋjana「rune:」(ニガナの和え物)は祝い事には必ず出される料理。結婚式の前には、若い女の子(小学生)がンギャナを摘んできて、年配の女性がこれを細かく刻んで「スネー[「sune:」(和え物)を作った。久高島の東海岸べりには野生のンギャナが生えており、その苦味が強かった。親戚縁者が集まり、2、3日かけてバーキー一杯ものンギャナルネーを作った。ンギャナヌ「ニー[nɟjananu「ni:」(ンギャナの根)も酒に漬けて薬用として用いた。ンギャナ「ルネーシャーマ」ウトウ「ムチ スィバ[ŋjana「rune:ʃa:ma」?utu「muʃi θiba」(ニガナの和え物で接待しなさい)。ンギャナ「ズネー[ŋjana「ʔune:」(ニガナの和え物)ともいう。ンギャナ「ティミーガ」イキン[「ŋjana「timi:ga」?ikiŋ」(ニガナを摘みに行く)。ンギャナ「ティリ」チャン「マンドウータサー[「ŋjana「tiri」ʃam「mandu:tara:」(ニガナを摘んできた。沢山あったよ)

「ンケーハリ[「ŋke:hari」(名)

「迎え風」の義。頭痛や発熱を起こす悪い風。悪霊が乗り移って病気を起こすと信じられている。「バハンラ」ヘー「イ」ー ニージ「ミチカイ ウサーリヤーマ」ティ「ブンヌ」ヤリ「キヤーン」ナラン[「PΦanra he:「ji»: ni:ʃi「miʃikai ʔura:rija:ma」ti「bunnu」jari「kja:n」naraŋ」(畑からの帰り道にニージ道で襲われて、頭痛がしてどうにもならない。「ヤー」チ「チカラ「チャーキ」アトー「ファーファーヤー」チ「ンジ「マンナーディタクトウ」ル「ノー」タル[「ja:ʔʃi「ʃikara「ʃa:ki」?ato:「Φa:Φa:ja:ʔʃi「?nʃi「manna:ditakutu」ru no:「taru」(家に来てすぐアトーファーファー<神人>の家に行ってお祈りをしてもらったく呪文を唱えて悪霊を祓ってもらった>ので治ったよ)

「ンミン[「mmin」(動)

熟れる。熟する。「うむ(膿む)」(『和名抄(3)』)の義か。「ンドウ」ン[「ndu:ʔŋ」(熟れている)。バシャ「ナイヌ」ンドウ「スイガ」ハー「カーンバ[baʃa「nainu」ndu:「θiga」ha:「ka:mba」(バナナが熟れているから、早く食べなさいよ)。バンスイ「ルー」ヌンミ「ハントウスイガ[ban θi「ru:ʔnu mmi「hantu:θiga」(蕃石榴が熟れきっているよ)。「ンドウ」ン[「ndu:ʔŋ」(熟れている)。「ンダ」ン[「nda」ŋ」(熟れた)。バシャ「ナイヌ」ンディ[baʃa「nainu」ndi」(バナナが熟れて)。「ンマ」ン[「mma」ŋ」(熟れない)。「ナ」マ「ンマン[「na」ma mmaŋ」(まだ熟れない)。「ンマンクト ナマー」ムラ「ラン[「mmaŋkutu nama:

「 mura 「raŋ] (熟れていないので、今はもがく挽が >れない)

「ンム[「?mmu] (名)

(植) いも (芋)。さつまいも。「ンム プフィン[「?mmu pʰiŋ] (芋を掘る)。久高島で栽培されていた芋の種類に「パナウティ[「panauti] (美味しい芋であった)。トウマイ「クルー[tumai 「kuru:] (泊クルー)、ヒヤ「クゴー[çaku 「go:] (百号) などがあった。「ンムヌ ユダ[「?mmunu juda] (芋の枝<芋蔓>)。「ハンド[「handa] (かずら<蔓>)。「ハンドバージュシー[「handaba:ʃu:ʃi:] (芋蔓の葉雑炊)。「ンムクリー[「?mmukuri:] (芋くず、芋の澱粉)。芋は輪切りにし、天日乾燥して保存した。これを煮て捏ね、「ンムクリニンジャラ[「?mmukurininçara]を作った。

「ンムクリ[「?mmukuri] (名)

いもくず。芋の澱粉。

「ンムクリニンジャラ[「?mmukurininçara] (名)

さつまいもを輪切りにして天日に干したものを粉にし、煮て捏ねたもの。「ニンジャラ[「ninçara]は「こねたもの」の意。

基礎語彙 第4分野 人体語彙

アカトウキ「ガー」[?akatuki「ga:」] (名)

早朝に井戸へ水汲みに行くこと。ミカ「シャー ハーチ ミリクミーガ イキスア
ー」 ユナグヌ 「シグトゥ」 ヤタクトゥ アカトウキ「ガーチ」 イキ「スイン」
ユナ「グンガル」 イキ「タル」[mika「fa: ha:ʃi mirikumi:ga ?ikira:」 juna
gunu「ʃigutu」 jatakutu ?akatuki「ga:ʃi」 ?iki「θi」 juna「gungaru」 ?iki
「taru」] (昔は井戸へ水汲みに行くのは女の仕事だからアカトウキガーへ行くのも女
が行ったものだ)

アカトウキ「バン」[?akatuki「baŋ」] (名)

暁の畑仕事。早朝の畑仕事。夏の暑いときには早朝に畑仕事をするのが慣わしであ
った。朝の8、9時ごろまでには一仕事を終えて帰宅した。その後に水汲み(ミリ
クミ)にいった。「アカトウキ」[?akatuki] (暁)に「バン」[pΦaŋ] (畑)が結合して
複合語(合成語)が形成されたもので、後接語の語頭子音[pΦ]が有声化したもの。

「アクビ」[?akubi] (名)

あくび(欠伸)。「アクビヌ」 ンギーン[?akubinu ?ŋgi:ŋ] (欠伸が出る)。
「アラ」 クタン「ディティガ」 グラ 「アクビビカー」ン 「シュン」ドー[?ara:「
kutan「ditiga」 gura「?akubibika:」ŋ 「ʃun」do:」] (彼<あれ>は疲れているの
か、欠伸ばかりしている)。「アクビ シュン」[?akubi ʃun] (欠伸をする)

「アザ」[?aʒa] (名)

あざ(痣)。「アザヌ」 アン[?aʒanu ?aŋ] (痣がある)。「ンマリーラヌ アザ
」[?mmari:ranu ?aʒa] (生まれつきの痣)。「アヌツォー ンマリーラヌ アザ
ヌ」 アン[?anutʃo: ?mmari:ranu ?aʒanu ?aŋ] (あの人は生まれつきの
痣がある)。「ドゥゲーリ」ヤーマ ティンスイ チューク」 ウッチャーマ 「アザヌ」
ンギ「タン」[duge:ri「ja:ma tin θi ʃu:ku」 ?utʃa:ma「?aʒanu」 ?ŋgi「ta
ŋ」] (転んで膝を強く打って痣を作ってしまった<痣が出てきた>)

「アスイ」[?a θi] (名)

あせ(汗)。「アスイヌ」 ンギ「タン」[?a θinu ?ŋgi「taŋ」] (汗が出た)。「アスイ
ヌ」 ンギ「トゥー」ン[?a θinu ?ŋgi「tu:」ŋ] (汗が出ている)

「アタイン」[?ataiŋ] (動)

当たる。食中毒する。「アタタン」[?atataŋ] (当たった。食中毒した)。「アラ」 ア
カナー」 カヤーマ アタティ ニン「トゥースア」[?ara: ?akana:「 kaja:ma
?atati nin「tu:ra」] (あれはアカナーを食べて当って<中毒して>寝ているよ)。「
アタラン」[?ataran] (当たらない。食中毒しない)。「ヌー カティン」 アタ「ラン」[「

nu: katiŋ¹ ?ata¹raŋ] (何を食べても当らない<食中毒しない>)。「ヌー
カティン¹ ヘー¹ラン¹[¹nu: katiŋ¹ he:¹raŋ] (何を食べても肥えない)

アタ¹レーン¹[?ata¹re:ŋ] (動)

誂える。「シシ¹ ケーブシャクトウ¹ ユナ¹バン¹チ¹ 「イキン¹ チュネー¹ シシ¹
「アタレーリバ¹[¹ʃiʃi¹ ke:buʃakutu¹ juna¹ban¹ʃi¹ ?ikin¹ ʃune: ʃiʃi¹
「?atare:riba] (豚肉を食べたいから与那原へ行く人に肉を誂えなさい)。アタレ
ー¹ラン¹[?atare:¹raŋ] (誂えない)。アタレー¹タン¹[?atare:¹taŋ] (誂えた)。ア
タレー¹ラン¹キ¹バ¹[?atare:¹raŋ¹ki¹ba] (誂えるな)。アタレー¹ブシャ¹ン¹[?ata
re:¹buʃa¹ŋ] (誂えたい)。アタレー¹イン¹チュ¹[?atare:¹in¹ʃu] (誂える人)

アツ¹キン¹[?ak¹kiŋ] (動)

あるく (歩く)。アツ¹カン¹[?ak¹kaŋ] (歩かない)。アツ¹チャ¹ン¹[?at¹ʃa¹ŋ] (歩
いた)。ナ¹バ¹ハラ¹ アラマ¹マリ¹ー¹ 「アッチ¹ チャン¹[na¹ʔɸara¹ ?arama¹ma
ri¹: 「?atʃi¹ ʃaŋ] (那覇から安座間まで歩いてきた)。「アツチャン¹[?atʃaŋ]
(歩いた)。「アツチュー¹ン¹[?atʃu:¹ŋ] (歩いている)。アツ¹キバ¹[?ak¹kiba] (歩
きなさい)。アツキ¹クワリバ¹[?akki¹kwariba] (歩きやがれ)。アツ¹チャー¹ ナ¹
ラ¹ン¹[?at¹ʃa:¹ na¹ra¹ŋ] (歩いてはならない)。「ヤーガ¹ アツ¹キーンシャコ
ー¹ ワヌン¹ アツキ¹スアー¹[ja:ga¹ ?ak¹ki:ŋʃako: wanuŋ¹ ?akki¹ra:]
(君が歩いたら私も歩くよ)。ガツ¹コーマリ¹ アツ¹キン¹[gak¹ko:mari¹ ?ak¹ki
ŋ] (学校まで歩く)。「ヤーガ¹ アツ¹キバ¹ ワヌン¹ アツ¹キン¹[ja:ga¹ ?ak¹ki
ba wanuŋ¹ ?ak¹kiŋ] (君が歩けば僕も歩く)。アツ¹カン¹キ¹バ¹[?ak¹kaŋ¹ki¹ba]
(歩くな)

アドゥ¹[¹?adu] (名)

かかと (踵)。「アル¹[¹?aru]ともいう。「アドゥ¹ ヤマシユン¹[¹?adu ja:maʃuŋ]
(踵を痛める)。「アドゥ¹ ヤマチャン¹[¹?adu ja:maʃaŋ] (踵を痛めた)。ハ¹
チラ¹ イユ¹ クワーシガ¹ ンジュイー¹ ウイ¹ネー¹ アドゥ¹ 「ササツ¹ティ¹ ヤ
ミ¹タン¹[ha¹ʃira¹ ?iju kwa:ʃiga¹ ʔnʃu:i¹ ?ui¹ne:¹ ?adu ʃasat¹ti jam
i¹taŋ] (徒で<歩いて>魚を釣りに行ったとき、海栗<ウニ>に踵を刺されて痛か
った)

アバハナキヤー¹ニン¹ジ¹[?aʔɸanakja:¹nin¹ʃi] (名)

仰向けに寝ること。ア¹バハナキン¹[?a¹ʔɸanakiŋ] (仰向けになる)。ア¹バハナカン¹
キ¹バ¹[?a¹ʔɸanakana¹ki¹ba] (仰向けになるな)。イチバン¹ジャーカイ¹ アバハナ
ティ¹ ニン¹トゥーン¹[?iʃiban¹ʃa:kai¹ ?aʔɸanati¹ nin¹tu:ŋ] (一番座で仰向
けになって寝ている)。ユナグワラ¹ビヤー¹ アバハナキヤー¹ニン¹ジャー¹ スァン
キバ¹[junaguwara¹bja:¹ ?aʔɸanakja:¹ninʃa: raŋkiba] (女の子は仰向けにな

ってねるなよ)

「アビーン[「?abi:ŋ] (動)

叫ぶ。マギ「フィシャーマ アビー」ン[magi「?uiʃa:ma ?abi:ŋ] (大声で叫ぶ)。
マギ「アビー シュン[magi「?abi: ʃun] (大声で叫ぶ<大声する>)。マギ「グイ
シャーマ」 アビーン[magi「?uiʃa:ma」 ?abi:ŋ] (大声で叫ぶ)。「スウースアラ
スター」ガラ アビー「トゥー」ン[「θu:rara ra:ŋ gara ?abi「tu:ŋ] (遠くで誰
かが大声で叫んでいる)

「アラ[「?ara] (名)

ほくろ (黒子)。「アザ[「?aʔa] (黒子) ともいう。

「アレーガミ[「?are:gami] (名)

女性が洗髪後、髪を解き下げたままにしたもの。「洗い髪」の義。イザイホーの祭り
に初参加する女性はアレーガミ姿で両ノロ家へ行った。久高ムラの方は久高ノロの
家へ、外間ムラの方は外間ノロの家に行った。「イザイホー」ン 「バーイ」ン 「ナンチュ
「ターヤ アレーガミ ッチル」 「フカマ」 「クダカヌ アムトゥ」 「チャー イキタ
ロ[「?iʔaiho:m ba:i」 nanʃu「ta:ja ?are:gami tʃiru」 ʔukama 「kudaka
nu ?amutu「ʃa: ?ikitaro] (イザイホーの時は、ナンチュ達はアレーガミ姿で外
間、久高のアムトゥへ行った)。ユナグン「シャーヤ」 ハリリ 「アラティカラ ハ
ーラカシュン」チ 「ナゲー ハカイタ」 「スター[junaguŋ「ʃa:ja」 hariri
「?aratikara ha:rakaʃun」 ʃi 「nage: hakaita「ra:」] (女性達は髪を洗ってから
乾かすのに長くかかったよ)

アンダー「ギー[「?anda:「gi:] (名)

油揚げ。揚げ菓子。サーターアンダー「ギー[sa:ta:ʔanda:「gi:] (菓子の名。麦粉を
水で捏ね、黒糖を混ぜて油揚げにしたもの)、ハタハラ「ンブー[hatahara「?mbu:]
(片側が大きい、無糖のテンプラ) 等がある。アンダーギーだけを皿に入れて客に出
すものを「ハラザカナ[「haraʔakana] (から肴) という。普通の刺身に対して用い
られた。

「イー[「?i:] (名)

い (胃)。「イー」ヌ 「ヤリ[「?i:ŋ nu 「jari] (胃が痛い)。普通は、「ワタヌ 「ヤ
リ[「watanu 「jari] (腹が痛い) のようにいう。「ワタヌ 「ヤリ 「ビョーイン」
ジ 「ミシティ」 「フー[「watanu 「jari 「bjo:in」 ʔi 「miʃiti 「ʔu:] (腹が痛い
ので、病院で診てもらって来よう<見せて来よう>)

「イキ[「?iki] (名)

息。「イキ」 「チュー」ン[「?iki 「ʃu:ŋ] (生きている<息をしている>)。「アラ
ー」 イキ 「チューイヤ[「?ara:ŋ ?iki 「ʃu:ija] (あれは生きてるか)。「ア

ラー^ㄨ ミカ^ㄨ「シンチュ ナトウースァ」[^ㄨ?ara:^ㄨ mi ka^ㄨʃinʃu natu:ra:] (あれは昔の人になっている<死んでいる>よ)。^ㄨイキ^ㄨ「スウマイン」[^ㄨ?iki^ㄨ ʃumain] (息が止まる。死ぬ)。イキ^ㄨ「ゲースァン」[^ㄨ?iki^ㄨge:raŋ] (息苦しい)。「アラー^ㄨ イキヌ ナガ^ㄨ「スァヌ」 ユー^ㄨ「スイミン」[^ㄨ?ara:^ㄨ ?ikinu naga^ㄨʃanu^ㄨ ju:^ㄨ ʃimin] (あれは息が長くてよく潜ることができる)

イキ^ㄨ「ゲースァン」[^ㄨ?iki^ㄨge:raŋ] (形)

息苦しい。「ジッピル スイミーヤ^ㄨ イキゲー^ㄨ「シャヌ アガ^ㄨティ シュー^ㄨ「スァー」[^ㄨʃippiru ʃimi:ja^ㄨ ?ikige:^ㄨʃanu ?aga^ㄨti ʃu:^ㄨʃa:] (十尋潜ったら息苦しくなって、あがってくるよ)。「スウシ^ㄨ 「スウイシンデー」 スイミ^ㄨ「ヨースァン ナ^ㄨティ シューン」[^ㄨθuʃi^ㄨ ʃuifinde:^ㄨ ʃimi^ㄨʃo:raŋ na^ㄨti^ㄨ ʃu:ŋ] (年をとるにつれて潜れなくなってくる)

「イキン」[^ㄨ?ikin] (動)

いきる (生きる)。^ㄨビヤーク^ㄨ「マリ」 イキン^ㄨ[^ㄨpʃja:ku^ㄨʃari^ㄨ ?ikin] (百歳まで生きる)。^ㄨイ^ㄨ「カン」[^ㄨ?i^ㄨkaŋ] (生きない)。「イキチャン」[^ㄨ?ikiʃaŋ] (生きた)。^ㄨイキ^ㄨ「タン」[^ㄨ?iki^ㄨtaŋ] (生きた)。「アンチュン」^ㄨ ビヤーク^ㄨ「マリ」 イキ^ㄨ「タン」[^ㄨ?anʃum^ㄨ pʃja:ku^ㄨʃari^ㄨ ?iki^ㄨtaŋ] (あの人も百歳まで生きた)。^ㄨイキー^ㄨ「ヤー」 ウイ^ㄨ「エー シュン」[^ㄨ?iki:^ㄨʃa:^ㄨ ?ui^ㄨje: ʃuŋ] (生きたらお祝いをする)

イチバン^ㄨ「ドウイ」[^ㄨ?iʃiban^ㄨʃui] (名)

一番鳥。夜明けごろ一番に鳴く鶏。一番鶏鳴。暁ごろの鶏鳴。午前四時頃の鶏鳴。時刻を告げる鶏鳴。これによって時刻を知り、起床して夜明けの作業を開始するのが常であった。イチバン^ㄨ「ドウイヌ ウテーバル」 ミカ^ㄨ「シャー ハーチャー ミリ クミーガ イキタロー」[^ㄨ?iʃiban^ㄨʃuinu^ㄨ ?ute:baru^ㄨ mi ka^ㄨʃa: ha:ʃa: miri kumi:ga ?ikitaro:] (一番鶏が鳴いたら、昔は井戸へ水汲みに行ったよ)。^ㄨニバン^ㄨ「ドウイ」[^ㄨniban^ㄨʃui] (二番鶏鳴。朝の五時ごろに鳴く鶏)

「イミ」^ㄨ「ミーン」[^ㄨ?imi^ㄨ ʃmi:ŋ] (連)

夢をみる。「イミ」^ㄨ「ミシラッタン」[^ㄨ?imi^ㄨ ʃmiʃirattaŋ] (夢を見せられた)。「イミ」^ㄨ「ミシラリヤーマ」 ウミ^ㄨ「カイ マーツチャヌ ファーフジヌ クヨーウグワン シミタン」[^ㄨ?imi^ㄨ ʃmiʃirarija:ma^ㄨ ?umi^ㄨʃkai ma:tʃanu ʃa:ʃuʃinu kujo:ʃugwaŋ ʃimitaŋ] (夢を見せられて、海で亡くなった先祖の供養をさせた)。「イ^ㄨミ」[^ㄨ?i^ㄨmi] (夢)

イユヌ^ㄨ「ミー」[^ㄨ?ijunu^ㄨʃmi:] (名)

うおのめ (魚の目)。足の裏に出来る豆粒状のもの。押すと痛む。ピ^ㄨ「シャヌ ワタカイ」 イユヌ^ㄨ「ミーヌ」^ㄨ「ンギ」^ㄨ「トウーン」[^ㄨpi^ㄨʃanu watakai^ㄨ ?ijunu^ㄨʃmi:nu^ㄨ ʃŋgi^ㄨtu:ŋ] (足の裏に魚の目が出ている<魚の目ができている>)

イラ「チャ[?ira ʔa] (名)

ふけ(雲脂)。イラ「チャヌ」 ウブ「スアヌ」 ゴースアヌ」 キャー「ン」 「ナラン[?ira ʔanu ʔuʔu ʔranu go:ʔranu kja:ʔn ʔnaraŋ] (ふけ<雲脂>が多くて、痒くてたまらない<どうにもならない>)。イラ「チャヌ」 マンディ」 ティブン」ヌ」 ゴー「スアヌ」 キャー「ン」 「ナラン[?ira ʔanu mandi tibun ʔnu go:ʔranu kja:ʔn ʔnaraŋ] (ふけ<雲脂>が多く、頭が痒くてたまらない<どうにもならない。仕方がない>)。ティブ「ノー」 イラチャ」ヌ」 マンディ」 ゴー「スアヌ」 キャー「ン」 「ナラン[tibu ʔno: ʔiraʔa ʔnu mandi go:ʔranu kja:ʔn ʔnaraŋ] (頭はふけ<雲脂>が多くて、痒くて困る<どうにもならない>)

「イリガスア」[ʔirigaʔa:] (名)

はしか(麻疹)。5～6才位の幼児に多く感染する病気。発熱と斑点様の赤い発疹がともなう。一度罹患すると免疫が出来るといわれている。「イリガスア」 ハカ」タン[ʔirigaʔa: haka ʔtaŋ] (はしか<麻疹>に罹った)

ウイ「ギン[?ui ʔgin] (動)

泳ぐ。ウイ「ガン[?ui ʔgan] (泳がない)。「ウイジャン[ʔuiʔaŋ] (泳いだ)。「ウイギブジャン[ʔuigibuʔaŋ] (泳ぎたい)。「ウイ「ギーヤー[?ui ʔgi:ja:] (泳いだら)。「ワナー」 ウイ「ギーヨースア」[ʔwana: ʔui ʔgi:jo:ʔraŋ] (私は泳げない)

ウイ「ビ[?ui ʔbi] (名)

指の総称。「ウブフユ」ビ[ʔuʔuʔuju ʔbi] (親指)。「ツ」チュテイキユ」ビ[t ʔʔutikiju ʔbi] (人差し指。食指)。「ナカ」ユビ[naka ʔjubi] (中指)。「ナーンナーヌ」[na:nna:nu] (名無し指。薬指)。「ウイビ」グワー[ʔuibi ʔgwa:] (小指)。「ウイ「ビヌ」」スリ」トウ」ン[ʔui ʔbinu ʔsuri ʔtu:ʔŋ] (指が揃っている)

ウイビ「グワー[ʔuibi ʔgwa:] (名)

小指。恋人。「アラー」 ウイビ「グワーヤ」 タイ」 ミツ」チャイ」 グン」ドー[ʔara:ʔ ʔuibi ʔgwa:ja ʔtai mit ʔʔai ʔgun ʔdo:] (あれは、彼女<恋人>は二、三人いるよ)。「ウイビ「グワーヤ」 アマフマカイ」 グン」ドー[ʔuibi ʔgwa:ja ʔamaʔu makai ʔgun ʔdo:] (彼女<恋人>はあちらこちらにいるよ)

「ウインダカリ[ʔuindakari] (名)

上の村。外間村を指す。「上の村別れ」の義か。外間村の上の方を「ウインダカリ[ʔuindakari]という。「シャンドカリ[ʔʔandakari] (村の下方。久高村のあるところを指す。「下の村別れ」の義か)

ウキー「ン[?uki:ʔŋ] (動)

起きる。ウキ「ラン[?uki ʔraŋ] (起きない)。「チャッ」スア」 ウクチン」 ウ「キラン[ʔʔar ʔra ʔukufiŋ ʔu ʔkiran] (いくら起こしても起きない)。「ウキ」タン[?uki

「taŋ] (起きた)。ウキ「トゥーン[ʔuki「tu:ŋ] (起きている)。ウキティ「ギチュー
ー」ン[ʔukiti「giʃu:ŋ] (起きて座っている)。ウキー「ヤー」エーリ「スイバ[ʔ
uki:「ja:ŋ ʔe:ri「θiba] (起きたら合図しなさい)

「ウスイブ[ʔuθibu] (名)

盆の窪。乳幼児の頭髪を盆の窪の所だけ残して魔除けとする習慣があった。「ウス
イボー」マミ「ティリシャーマ ウッチン ヒー」ン「バーン」アッチクトウ
「マーチン フイチン」ムノー「ナギラ」ンカン「バ[ʔuθibo:ŋ mami「tiriʃa:
ma ʔutʃiŋ ʃi:ŋ m「ba:ŋ ʔatʃikutu「ma:ʃiŋ ʃuiʃim」 muno:「nagi
ra」ŋkam「ba] (盆の窪は豆粒で打っても死ぬこともあるので、所かまわずくどこと
もかしこともなく>物を投げるな)。「アンチャー」ウスイ「ブ」ヌ「ハリトウス
イガヤー[ʔanʃo:ŋ ʔuθi「bu」nu「haritu:θigaja:] (あの人は盆の窪が枯れて
浮き上がって生気がない。死期が近づいているよ)

「ウスウンキン[ʔuθuŋkiŋ] (動)

俯いてうずくまる。うつむく。ワラ「ビ」ヌヌ「ラーリガ」チャラ ミチ「バタカ
イ スイク」リ「グタン[wara「bi」nu nu「ra:riga」ʃara miʃi「batakai θi
ku」ri「gutaŋ] (子供が叱られたのか、道端にうずくまっていた)。ウ「スウンチ」
グタン[ʔu「θunʃi」gutaŋ] (うずくまっていた)

「ウッシュュ[ʔuʃʃu] (名)

盆の窪。首の後頭部。「ウスイブ[ʔuθibu]ともいう。「ウッシュュガ」ハリタン[ʔuʃ
ʃuga「haritaŋ] (盆の窪が枯れたく乾いた)。余命いくばくもない。病気の場合、
不元気な場合には「ウッシュュ[ʔuʃʃu] (盆の窪) がはっきりと現れてくるという。

ウッチン「トゥー[ʔutʃin「tu:] (名)

うつむく (俯く) こと。ウッチン「トゥー」ッチ「ニン」トゥーン[ʔutʃin「tu:ʃi
nin「tu:ŋ] (うつぶせになって寝ている)。「ウッチン」トゥー「チュー」ン[ʔutʃint
u:「ʃu:ŋ] (俯いている)。「ハリ」カサガ「アラ ウッチン」トゥー「チュー」
ン[ʔari「kasaga」ʔara「ʔutʃintu:「ʃu:ŋ] (恥ずかしいのか、俯いている)
ウ「ディ[ʔu「di] (名)

うで (腕)。肩から手首までの間。

「ウティンキン[ʔutiŋkiŋ] (動)

うつむく (俯く)。「ハリ」カサ「ギサ」ウティン「チュー」ン[ʔarikaŋa「gira」
ʔutin「ʃu:ŋ] (恥ずかしそうに俯いている)。

ウトウ「ゲー[ʔutu「ge:] (名)

下あご。おとがい (頤)。ウトウ「ゲー」ナガー[ʔutu「ge:naga:] (下あごの長い人)

ウブフ「ユビ」[ʔupʰu ʔjubi] (名)

親指。「イノー」 ムツ「チャー」 ナーン「シャコー」 ウブフ「ユビシャーマ」 パハ
ン「ティキバ」[ʔino: ʔ mut ʔʃa: ʔ na:ŋ ʔʃako: ʔ ʔupʰu ʔjubiʃa:ma ʔ pʰan
ʔtikiba] (印鑑を持っていないなら親指で判を突きなさい)

ウミ「スイミヤ」[ʔumi ʔθimja:] (名)

潜水の名人。深く潜ることの出来る人。「アラ」 ユー「スイミヤ」 ヤル「ユカ
イ プカルーマリ」 スイミ「スア」[ʔara: ʔ ju: ʔ θimja: ʔ jaru ʔjuk
ai pukaru:mari:n ʔ θimi: ʔra:] (あれは潜水の名人である。相当くかなり>深
い海<渡>の底までも潜ることができる)

ウル「ミン」[ʔuru ʔmin] (動)

目覚める。「おぞむ」(目覚める。首里方言ではウズヌン。『物類称呼』に「目をさむ
るといふ事を薩摩及肥前にてをぞむと云」とある。<待ちかねて をれば 思無蔵
が使の にや 来ゆら来ゆら ともて おぞで をたさ>琉歌全集195) (『沖縄古
語大辞典』)。「ユナカ スアキヌミヤ」ターガ「アビティ」ウルマサッ「タン」[ʔj
unaka ʔrakinumja ʔta:ga ʔ ʔabiti ʔurumarat ʔtan] (夜中に酔っ払い<酒飲み
>達が大声で叫んで起こされた<目が覚めされた>)。アカン「グワーガ」チャッサ
ナチン「ウル」マンタン[ʔakan ʔgwa:ga ʔʃarra naʔin ʔ ʔuru ʔmantan] (赤
ん坊がいくら泣いても目覚めなかった)。ウル「ラン」[ʔuru ʔran] (目覚めた)

エー「バサミ」[ʔe: ʔbasami] (名)

相挟み。箸から箸へと物を渡すこと。死者の骨を拾う時に使う箸のこと。エーバサ
「ミヤ」ウラー「ツチャー」ナ「ラン」[ʔe:basa ʔmja: ʔura: ʔʃa: ʔ na ʔra
ŋ] (相挟みは、それはしてはならない)。エー「バサミヤ」カ「ソーツチ」プフン
「プリー」ン「バー」イ「ティケクトウ」ウラー「ツチャー」ナ「ラン」[ʔe: ʔbasa
mja: ʔ ka ʔso:ʔʃi ʔ pʰum ʔpuri: ʔm ba: ʔi tike:kutu ʔura: ʔʃa: ʔ na
ʔran] (相箸は火葬して骨を拾うときに使うので、日頃はそれをしてはならない)

「オーバハ」[ʔo:pʰa] (名)

おんぶ。背負うこと。

「オーバハシュ」ン[ʔo:pʰaʃu ʔŋ] (動)

おんぶする。背負う。「ワラビ」「オーバハシュ」ン[ʔwaraʔbi ʔʔo:pʰaʃu ʔŋ] (子供
を背負う。おんぶする)。オーバハ「スアン」[ʔo:pʰa: ʔran] (背負わない。おんぶし
ない)。「オーバハチャン」[ʔo:pʰaʃan] (背負った。おんぶした)。「オーバハチュー」
ン[ʔo:pʰaʃu: ʔŋ] (背負っている。おんぶしている)。ワラ「ビ」オーバハチュー「
ン[wara ʔbi ʔo:pʰaʃu: ʔŋ] (子供を背負っている。おんぶしている)

「カッキ」[ʔkakki] (名)

かっけ（脚気）。野菜不足でおきる病気。船員がよく罹患した。シビナー「ブノー」シンカン「シャー」カッキ ハカラスアン「ネー」チ アカマー「ミートウ」ヤ シェーヤ 「ヌシティ」イキ「タン」[ʃibina: ʔbuno: ʔ ʃiŋkan ʔʃa: kakki ha kararan ʔne: ʔʃi ʔakama: ʔmi:tu ʔjaʃe:ja ʔnuʃiti ʔiki ʔtan]（マグロ延縄船は、船員達を脚気に罹患させないように赤豆＜小豆＞と野菜を積んで＜載せて＞行った）

「ガッサン」[garʃan]（形）

軽い。「ガッサー」ナーン「ガッ」[garra: ʔna:ŋ]（軽くない）。「ガッサタン」[garʃatan]（軽かった）。「ダン」ダン ガッサナ「ティ」 「イキ」ン[dan ʔdan garʃana ʔti ʔiki ʔŋ]（だんだん軽くなっていく）

ガッ「ティン」[gat ʔtiŋ]（名）

合点。納得すること。了解すること。ガッ「ティン」 シュン[gat ʔtiŋ ʃuŋ]（合点する。納得する）。「ウラー」 ワヌン ガッ「ティン」 チャン「ʔura: ʔ wanuŋ gat ʔtin ʔʃan]（それは私も了解した。納得した）

カン「プー」[kam ʔpu:]（名）

結髪した人。結髪。「かたかしら（結髪）」を結った人。

カン「プープシュー」[kam ʔpu:puʃu:]（名）

結髪した老人。「かたかしら（結髪）」を結った老人。数え年51歳からは「スエーラーガーミー」[ʔθe:ra:ga:mi:]の祭りに参加するから、その人たちをウフ「シュー」[ʔuʔu ʔʃu:]というが、孫の出来た人はそれ以前の年齢でもウフ「シュー」と呼称される。普通は「クンジー」[kunʃi:]（紺地の着物）を着て「スエーラーガーミー」に参加する。

「ギーン」[gi:ŋ]（動）

座る。「居る（上一段活用）」の義。ワ行イ段、エ段、ウ段音は法則的にガ行音に音韻変化する。久高島方言音韻の大きな特徴の一つ。「ギヤン」[gijaŋ]（座らない）。

「ギチャン」[giʃan]（座った）。「ギーバ」[gi:ba]（座れ）。「ギーンショーリバ」[gi:ŋʃo:riba]（お座りください）。「ギーヤー」[gi:ja:]（座ったら）。「ギーブシャン」[gi:buʃan]（座りたい）。「スアタンカイ」 ギーン「ʔatanʃakai gi:ŋ]（畳みに座る）

「キ」ジ「ki ʔʃi]（名）

きず（傷）。「ティラヌ キ」ジ「tiranu ki ʔʃi]（顔の傷）。

「ギシー」ン「giʃi: ʔŋ]（動）

居させる。座らせる。据える。「ティビ ギシー」ン「tibi giʃi: ʔŋ]（腰を下ろす＜尻を据える、座らせる＞）

「グイン」[guiŋ]（動）

食中毒する。「酔う」の義。ア「カナー カ」ティ グイ「タン[ʔa「kana: ka」ti g
ui「tan] (アカナー<魚名>を食べて食中毒した)。グイ「ラン[gui「ran] (中毒しない)。「ウヌ イヨー カティ」ン グイ「ラン[ʔunu ʔijo: kati」ŋ gui「ran] (この魚は食べても中毒しない)。グイ「ランタン[gui「rantan] (中毒しなかった)。「グイティ」 ヨーティ 「ニントゥースア[「guiti」 jo:ti 「nintu:ra] (食中毒して<酔って>弱って寝ているよ)

「グー[「gu:] (名)

(植) 芭蕉。「グー 「キヤーマ」 マッカ トウ「クティ」 ニティ 「スイタン [「gu: 「kija:ma」 makka tu「kuti」 niti 「θuitan] (芭蕉を切って枕に作って熱を取った。芭蕉の幹を一尺ほどの長さに切り、頭に当たる部分を叩いて柔らかくし、一種の水枕にした。芭蕉の水分で頭を冷やす解熱効果があった)

「ク」スウ[「ku」 θu] (名)

くそ(糞)。大便。「ク」スウ 「マイン[「ku」 θu 「main] (大便する。糞まる)

クスウ「ケーバナ[ku θu「ke:bana] (名)

くしゃみの後に唱える言葉。呪文の一種。

クスウ「ピー[ku θu「pi:] (名)

下痢。「糞放り」の義。クスウピ「チャン[ku θupi「ʃan] (下痢をした)。クスウ「ピーン[ku θu「pi:ŋ] (下痢をする。糞放る)。「ヌーガ 「カタ」ラ キ「ヌーラ」 クスウ「ピチ」 ニン「トゥースア[「nu:ga 「kata」ra ki「nu:ra」 ku θu「piʃi」 nin「tu:ra] (何を食べたのか昨日から下痢をして寝ているよ)

「クスグイン[「ku θuguiŋ] (動)

くすぐる(擦る)。腋の下を擦る。「クスグラン」キ「バ[「ku θuguran」ki「ba] (擦るな)。「クスグタン[「ku θugutan] (擦った)。「クスグイブジャン[「ku θuguibuʃan] (擦りたい)

グタ「イン[guta「iŋ] (動)

疲れる。「ヤーブキ 「ハーラ ハユワシユン」チ グタ「タン[「ja:puki 「ha:ra hajuwaʃun」ʃi guta「tan] (家を葺く瓦を運搬すると疲れた)。「アン「マリ」 バハマ「イヤー」 グタ「インドー[ʔam「mari」 pʰama「ija:」 guta「indo:] (あんまり気張って働いたら疲れるよ)。「チャッスア」 バハマ「ティン グタヤー」 ナーン(グ「タラン) [「ʃarra」 pʰama「tiŋ gutaja:」 na:「ŋ (gu「taran]] (いくら気張って働いても疲れはない<疲れなさい>)。「グタイ[「gutai] (疲れ)。「グタタンシヤコー」 ユク「リバ[「gutatanʃako:」 juku「riba] (疲れたら休みなさい)。「スアタン」 ンギヤ「シャーマ グタ」ティナーン[「ɽatan」 ŋgia「ʃa:ma guta」tina:ŋ] (量を出して疲れてしまった)

「クダミーン[^ʔkudami:ŋ] (動)

踏みつける。「クラミーン[^ʔkurami:ŋ]ともいう。「チュヌ ピシャ クダミタン[^ʔʃunu piʃa kudamitan] (他人の足を踏みつけた)。「チュヌ^ʔ ピシャ クダミラン^ʔカンバ[^ʔʃunu piʃa ^ʔkudamiran^ʔkamba] (他人の足を踏まないでよく踏むな>)

クタン「ディーン[kutan^ʔdi:ŋ] (動)

疲れる。クタンディ「タン[kutandi^ʔtan] (疲れた)。クタン「ダー^ʔ アイ「ビラネー(ナー「ネー) [kutan^ʔda:^ʔ ?ai^ʔbirane:(na:^ʔne:)] (疲れはありませんかくないか>)。クタンディ「ラン[kutandi^ʔran] (疲れしない)

ク「チ[ku^ʔʃi] (名)

口。クチ「マギー[kuʃi^ʔmagi:] (口の大きな人)。クチ「マギーユナグ[kuʃi^ʔmagi:junagu] (口の大きな女)。ク「チャー^ʔ ティティスイ「マンバ^ʔ ムン 「ユマリー^ʔンドー[ku^ʔʃa:^ʔ titiθi^ʔmamba^ʔ muŋ ^ʔjumari:^ʔndo:] (口を慎みなさい。物議をかもすぞ)

ク「チ^ʔハギ[ku^ʔʃi^ʔʔagi] (名)

口角炎。口の両端の炎症。チカ「グロー^ʔ ムンヌ^ʔ マンディ^ʔ ク「チ^ʔハギ チューン^ʔ チュン グ「ラン[ʃika^ʔguro:^ʔ munnu ^ʔmandi ku^ʔʃi^ʔʔagi ʃu:n^ʔʃuŋ gu^ʔran] (最近は物資が豊富で、口角炎を患う人もいない)

クチ「ビ[kuʃi^ʔbi] (名)

いぼ (疣)。クチ「ビヌ^ʔ アン[kuʃi^ʔbinu^ʔ ?an] (疣がある)。ピ「シャヌ^ʔ ク「チビ[pi^ʔʃanu^ʔ ku^ʔʃibi] (足のいぼ)。クチビはお灸をすえて治療した。

「グテー[^ʔgute:] (名)

からだ (体)。五体。体力。^ʔグテーヌ トウクイ「クマツ^ʔティ[^ʔgute:nu tukui^ʔkumat^ʔti] (体づくりが立派である。いい体格をしている)

「グニー[^ʔguni:] (名)

びっこ。^ʔグニ ピ「キン[^ʔguni pi^ʔkiŋ] (びっこを引く)。グニ 「ピチ^ʔ アッキ「グッシャン[^ʔguni ^ʔpiʃi^ʔ ?akki^ʔguʃʃan] (びっこを引いて歩きづらい)

「クビ[^ʔkubi] (名)

首。首全体。「クビナガ^ʔリ[^ʔkubinaga^ʔri] (うなじ。首の後部。ウッシュの下方の部位をいう)。「クビカイ^ʔ ハ「キー^ʔン[^ʔkubikai^ʔ ha^ʔki:^ʔŋ] (首にかける)

「クビグリーン[^ʔkubiguri:ŋ] (動)

うなずく (頷く)。首を折る。謝る。詫びる。「クビサギーン[^ʔkubisagi:ŋ] (首を下げる)ともいう。「ウラ^ʔー ワー「ガル^ʔ ワツ「スアイビータル ピシャマンキツ^ʔ グリー 「シャビークトウ^ʔ ユルチ スウラシン「ショーリバ[^ʔ?ura:^ʔ

wa:「garu」 waṛ「raibi:taru piṣamaṅkitʃi」 guri: 「ʃabi:kutu」 juruʃi
 θuraʃiŋ「ʃo:riba」(それは私が悪うございました。正座してお詫び致しますのでお
 許し下さい)

クミ「カ」ン[kumi「ka」ŋ](名)

こめかみ。「ピム」[「pimu」ともいう。

「クミン」[「kumiŋ」](動)

ふむ(踏む)。「クマン」[「kumaŋ」](踏まない)。ワー「ガ」クマンタンミヤー[wa:
 「ga kumantammja:」(私<が>は踏まなかった)。「クダ」ン[「kuda」ŋ](踏んだ)。
 「クマン」キ「バ」[「kumaŋ」ki「ba」](踏むなよ)。「クミン」ムン[「kumim」 muŋ]
 (履くもの)。「クリン」ワリ「ラン」[「kuriŋ」 wari「raŋ」](踏んでも割れない)。
 「クミーヤ」ワ「リーン」ドー[「kumi:ja」 wa「ri:n」do:](踏んだら割れるよ)。
 「アシジャ」クミン[「ʔaʃiʃa」 kumiŋ](下駄を履く)。「クミグッシャ」ン[「ku
 miguʃʃa」ŋ](履き辛い)。「チュヌ」ピシャ「クミ」ン[「ʃunu piʃa kumi」ŋ](人
 の足を踏む)

「クワーリー」ン[「kwa:ri:」ŋ](動)

噛まれる。イン「ネー」クワットタン[ʔin「ne: kwa:ttan」](犬に噛まれた)。イン
 「ネー」クワーリー「ンドー」[ʔin「ne: kwa:ri:」ndo:](犬に噛まれるぞ)

「ケー」ン[「ke:ŋ」](動)

食べる。「ムヌ」ケーン[「munu」 ke:ŋ](ご飯を食べる)。「ケーバ」[「ke:ba」](食
 べなさい)。「カーン」[「ka:ŋ」](食べない)。「カタン」[「katan」](食べた)。「キリ」カー
 ン[kiri「ka:ŋ」](怒った感情をこめて、食べない)。「ケーブシャ」ン[「ke:buʃa」ŋ]
 (食べたい)。「カティ」ナーン[「kati」na:ŋ](食べてしまった)。「カーン」キ「バ」[「
 ka:ŋ」ki「ba」](食べるなよ)。「ケーバ」スイミ「タン」ムンヌ「ドー」グッシャツ
 「チ」カーンタン[「ke:ba」 θimi「tam」munnu du:「guʃʃat」ʃi「ka:ntan」]
 (食べればよかったのに、遠慮して食べなかった)

コー「コー」ヨー「タン」[ko:「ko:」jo:「tan」](連)

非常に疲れた。心身ともに疲れた。疲労困憊した。アン「マリ」シグトゥ「シー」ジ
 ユースァヌ「コー」コー「ヨー」タン[ʔam「mari ʃigutu ʃi:ʃu:raŋu」 ko:「k
 o:」jo:「tan」(あまりにも仕事をし過ぎて<仕事強くて>疲労困憊した)。「ムチン」
 ナラン「ムン」ム「チュン」チューティ「コー」コー「ヨー」タン[「mufin
 naram」 「mum」 mu「ʃun」 ʃu:ti ko:「ko:」jo:「tan」(持つことの出来ないも
 のを持とうとして非常に疲れた)

ゴー「スァン」[go:「raŋ」](形)

かゆい(痒い)。くすぐったい。「ゴースァー」ナーン[「go:ra:」na:ŋ](痒くない)。

ワチャヌ ゴー「スアン」[waʃanu go:raŋ] (腋の下が痒い。くすぐりたい)。
 ゴー「スアタン」[go:raʔan] (痒かった)。シレー「シレー」 ゴー「スアナ」ティ
 シューン「fire:fire:」 go:raʔanaʔti ʔju:ŋ] (次第に痒くなってくる)

「シシ」[ʃiʃi] (名)

肉。豚肉。「シシヌ ティティ」 チャン「ʃiʃinu titi ʃaŋ] (肉が付いてきた。筋肉が付いて遅しくなってきた)。「ワーン」 「シ」シ「wa:ŋ ʃiʃi] (豚の肉)。昔は、久高島では「シシ」[ʃiʃi]といえは「豚肉」のことを意味した。「ウシヌ」 「シシ」[ʔuʃinu ʃiʃi] (牛の肉)は戦後に出まわるようになった。「シシ」 「ホー」ティ フー「バ」[ʃiʃi ho:ʔti ʔu:ba] (豚肉を買ってきなさい)。ショーガチャ「ワー」[ʃo:gaʃa wa:] (正月用の豚)といつて、「ムチ」ー「muʃi:」 (鬼餅、旧暦12月8日)に親戚同士で組を作って豚を屠殺し、分配した。正月元旦から三日までの三箇日は豚肉を食しなかつた。ノロ (巫女)から「シャク」[ʃaku] (酌<爵>)を拝んだ正月三日の午後からは豚肉を食してもよいとされている。精進潔斎の意味が含まれているという

「シジ」ハタ「ʃiʃi hata] (名)

血統。血筋。父方。シジ「ハタ」 ウム「ハタ」[ʃiʃi hata ʔumu hata] (父方・母方)のように用いる。

「シバイ」[ʃibai] (名)

小便。「シバイ」 「シュン」[ʃibai ʃuŋ] (小便する)。「シバイツ」チ 「シューン」[ʃibaitʃi ʔju:ŋ] (小便をしてくる)。ユー「シバイ」[ju:ʃibai] (寝小便。夜尿症。夜尿)。クスウ「シバイ」[ku θu ʃibai] (糞尿。排泄物の総称)。クスウ「シバイン」ドゥー「シャーマー」シーヨースアン ナトゥーン[ku θu ʃibain du:ʃa:ma:ʃi:jo:raŋ natu:ŋ] (排便排尿も自分では出来なくなっている)

「シム」[ʃimu] (名)

しも (霜)。標準語からの借用語か。

「シム」クダイ「ʃimu kudai] (名)

十一月ごろ。この頃のカツオをアキ「ガチュー」[ʔaki gaʃu:] (秋鯉)という。脂がのつていて美味であるといわれている。

「シャー」ビラ「ʃa: bira] (感)

ご免ください。「来侍らむ」の転訛したもの。シャー「ビラ」[ʃa: bira] (ご免ください)というつと、「スアーガ」[ra:ga] (誰か)、または「スアーヤガ」[ra:jaga] (誰ですか)と答え、イ「モーリ」[ʔi mo:ri] (おいでなさい)、またはイ「モーリバ」[ʔi mo:riba] (お出でなさい<いらっしやい>)と答える。

「シャギ」[ʃagi] (名)

しらが (白髪)。ワナー 「ティブノー ムル」 シャギ 「ナ」ティナーン[「wana: tibuno: muru」 fagi 「na」tina:ŋ] (私の頭はみんな白髪になってしまった)。シャガー「ウブ」シュ[faga:「?upu」ju] (白髪のじいさん)。シャギヌ ミー「トゥーン」[「faginu mi:」tu:ŋ] (白髪が生えている)

「シュガ」イ[「fuga」i] (名)

身なり。すがた (姿)。アヌ チョー「ハーギ」スイガター ウンダ「シュ」ガイ「ン」ギー「シュガイ シンショーチュー」ン[「?anu tjo:」 ha:gi「θigata: ?unda」 ju「gai」ŋ gi:「fugai fiŋfo:ʃu:」ŋ] (あの人は容姿と、それに身なり装いもいい身なり装いをしていらっしやる)。ギー「ハーギ」スイガタ ヤスイガ[「gi i: ha:gi「θigata ja θiga] (いい姿形<立派な姿格好>だが)。ブン「ラー」スアン「チュー」ヤンシエー「ン」[bun「ra:ran」ju: janse:」ŋ] (貫禄のある人<紳士>でいらっしやる)

シル「ブシ」[firu「bu」fi] (名)

指の爪の根元にある白い三日月形。ドゥーナ「ヨースア」ナイヤー「スィーナ」ティミヌ「シル」ブシン「チャー」ティ「シューン」[「du:nu」jo:ra「naija:」θi:nu「timinu」firu「bu」fiŋ kja:」ti「ju:」ŋ] (体力が弱ってくると手の爪の三日月形も消えていく)

スアカ「ディラ」[ra「ka」dira] (名)

ほほ (頬)。スアカ「ディラヌ」アカスアン[ra「ka」diranu「?akaraŋ] (頬が赤い)

「スア」キ[「ra」ki] (名)

たけ (丈。長け)。身長。「スアキ」ヌ「スアカ」スアン[「ra「ki」nu ra「ka」raŋ] (身長が高い)。スウシ「グル」ナティ「アッタ」ニ「スアキ」ヌ「スアカ」スア「ナタン」[θu:ʃi「guru nati」?atta」ni「ra「ki」nu ra「ka」ra「nataŋ] (年頃になって急に背が伸びた)。「アッタ」ニ「フルイタン」[「?atta」ni「Φuruitaŋ] (急に成長した)。「ルー」ヌ「スアキブノー」ワカラナー「ナー」シャクヌ「ムン」ヌ[「ru:nu」ra「kibuno:」wakarana:「na:ʃakunu mun」nu] (己の<自分の>身の程もわきまえずに<己の能力も知らず>でしゃばって、己ごときが)

「スアク」イ[「ra「ku」i] (名)

せき (咳)。「ハナシキ」ガラ「スア」クイヌ「ンギー」ン[「Φanaʃiki」gara ra「kui nu」?ŋgi:ŋ] (風邪を引いたのか<風邪なのか>、咳がでる)。「スア」クイ「シュ」ン[ra「kui」ju」ŋ] (咳をする)

スアスィカ「ブ」ク[ra θika「bu」ku] (名)

足の甲にできるたこ (胼胝)。ミカ「シャー」サバ「ナー」ピ「シャマンキ」ツチ「ル」フギ「クトウ」ピ「シャカイ」ンギーヌ「マミヤー」スアスィカ「ブクチ」ル

「イータル[mika ʃa: ʔ saba ʃa: ʔ pi ʃamaŋki tʃi ru ʃugi ʃkutu pi ʃa kai ʔ ŋgi: nu ʔ mamja: ʃa ʃika ʃbukuʃi ru ʃi: taru] (昔はサバニはひざまずい<て跪い>て漕ぐので、足の甲に出るまめ<肉刺>はスアスィカ「ブク」といった)

スアタ[ʃrata] (名)

①うわさ (噂)。評判。「沙汰」の義。スウイ「スアタ[ʃui ʃrata] (取り沙汰)。「ゲーマカイヤー ヤー」 スアタ 「スウシン」 グタン「ドー[ge: makaija: ja: ʃrata ʃuʃiŋ gutan do:] (八重山では君の噂をする人もいたよ)。「イティマリーン」 スアタ 「スアッティヤー[ʃitimari: n ʃrata ʃrattija:] (いつまでも人に沙汰されてねえ)。」②音信。音沙汰。「アラー スアビチ ンジカラ ウトゥスアター」 ナーン「スィガ」 スー 「ナトゥーガヤー[ʃara: ʃabiʃi ʃŋʃikara ʃuturata: ʃ na: n ʃiga nu: ʃnatu: gaja:] (あれは旅に行つて音沙汰<音信>がないが、どうなっているのかなあ)

スア「チー」マジクイ[ʃa ʃʃi: ʃmaʃikui] (名)

他血統 (婿養子) が混じること。他系交錯。スアチー「マジクヤー クワンマガネー」 ハ「カイ」ン バーン 「アクトウ 「ウラー ッチャ」ー ナ「ラン[ʃaʃi: ʃmaʃikuja: kwammagane: ʃ ha ʃkai m ba: ŋ ʃakutu ʃura: tʃa: ʃ na ʃraŋ] (他系交錯 (婿養子をとること) は子孫に祟ることがあるから、それはやっではならない)

スア「チュン」[ʃa ʃʃu ŋ] (動)

立つ。「ッチュヌ」 スア「チュン[ʃtʃunu ʃa ʃʃuŋ] (人が立つ)。「スア「タン[ʃa ʃtan] (立たない)。「スアッ「チャン[ʃat ʃʃaŋ] (立った)。「スアチブシヤン[ʃaʃibuʃaŋ] (立ちたい)。「スア「チーヤ[ʃa ʃʃi: ja] (立ったら)。「スアッ「タンシヤコー[ʃat ʃtanʃako:] (立ったならば)。「スア「チーヤ チャー」キ アッ「キン」パリ「ロー[ʃa ʃʃi: ja ʃa: ʃki ʃak ʃki m pari ro:] (立ったらすぐ歩くはずだよ)。「スアッチ 「グ」ン[ʃratʃi ʃgu ŋ] (立っている)

「スアッキー」[ʃrakki:] (名)

血統。親戚。「アマ」ン ワッ「ター スアッキー」 ヤル[ʃama ŋ wat ta: ʃrakki: ʃ jaru] (あそこも私達の血統<一門>だ)。「アヌ ヤーヤ」 ディキヤー 「スアッキー」 ヤル[ʃanu ja: ja ʃdikija: ʃrakki: ʃ jaru] (あの家は頭のいい、よくできる血統だ)。「アマー」 イシヤダッ「キー」 ヤル[ʃama: ʃiʃadak ki: ʃ jaru] (あそこの家は医者の血統だ)

スアバ「キン」[ʃaba ʃkiŋ] (動)

髪を梳かす。梳る。「ハリリ」 「スアバキン[ʃhariri ʃrabakiŋ] (髪を梳かす)。「ス

- アバ「カン[rǎba kǎŋ] (梳かさない)。スアバ「チャン[rǎba t͡ʃǎŋ] (梳かした)。「ハリリ「スアバキブシャン[hariri rǎbakibuʃǎŋ] (髪を梳かしたい)
- 「スイー「[θi:] (名)
手。腕から指先までの総称。「スイー ナガ「スァン[θi: naga rǎŋ] (手が長い。転じて、盗癖がある)。「スイー 「スアタキン[θi: rǎtakiŋ] (手を叩く。拍手する)。「スイーヌ 「ヤミン[θi:nu jamiŋ] (手が痛む)
- 「スイー「[θi:] (名)
す (巢)。鳥の巢。
- 「スイー「[θi:] (名)
とい (樋)。軒に掛けた樋。
- 「スイーナガー「[θi:naga:] (名)
手の長い人。手長。泥棒。盗人の比喻表現。
- スイー「ビキ[θi: biki] (名)
ゆびぶえ (指笛)。スイー「ビキ プキン[θi: biki pukiŋ] (指笛を吹く)。嬉しいとき、祝いの座などで一座を賑やかにするために指笛を吹く。歓声をあげる時にも指笛を吹き鳴らす。
- スイー「ピシャ[θi: piʃa] (名)
てあし (手足)。スイー「ピシャン ンダスァナ「 スウラティ「ラッ「ティ[θi: piʃan ʔndaʃana θurati rǎt ti] (非常に大切に育てられた娘、深窓の娘<手足を濡らさずに育てられて>)
- スイー「ベー「[θi: be:] (名)
手の甲。「手の表」かという。スイー「ベーカイ ベヘーヌ「 スウマトウン「[θi: be:kai p̄he:nu θumatu:ŋ] (手の甲に蠅がとまっている)
- スイー「マミ「[θi: mami] (名)
たこ (胼胝)。足にできた胼胝をスァスィカ「ブク[rǎ θika buku] (サバニ床板の胼胝) という。
- スイーン「クビ「[θi:ŋ kubi] (名)
手首。スイーン「クビヌ「 ヤミン「[θi:ŋ kubinu jamiŋ] (手首が痛む)
- スイーン「ワタ「[θi:ŋ wata] (名)
手のひら (掌)。スイーン「ワタカイ ウチュキティ「[θi:ŋ wata kai ʔuʃukiti] (大切に育てられて<手のひらに載せて>)。スイーヌ「ワタカイ ウチュキティ プフルワーサリヤーマ ショーヌ「 イ「ヤン ッチュ「 ナ「タン「[θi:nu wata kai ʔuʃukiti p̄furuwa:sarija:ma ʃo:nu ʔi jan t͡ʃu na taŋ] (手のひら<掌>に載せて育てられて、真人間にならなかった<根性のない人になった>)。イナグン「シ

ヤーヤ¹ スアムン 「シュン¹チ ア¹ラン¹バ¹ハ¹ プ¹リー¹タク¹トウ¹ ア¹ラン¹バ¹ハ¹
ヌ¹ ンギ¹シャー¹マ¹ スィー¹ヌ¹「ワ¹ター¹ ス¹ア¹キー¹「タン¹[jinaguŋ]「ʃa:ja¹ ɾamu
ŋ 「ʃun¹ʃi ʔa¹ram¹ʔa¹ pu¹ri:takutu¹ ʔa¹ram¹ʔanu ʔŋgiʃa:ma¹
θi:nu¹「wata:¹ ɾaki:¹taŋ] (女達は、薪にしようとしてアダンの枯葉を拾っていたので、アダン葉の刺で手のひらく掌>は引っ搔いたく裂いた>)

スィ¹「ク¹ミン¹[θi¹ku¹miŋ] (動)

うずくまる。すくむ<竦む>。スィ¹「ク¹リ¹ ɾギ¹チ¹ ɾバ¹ハ¹ナ¹シー¹ 「シュン¹[θi¹ku¹ri
i ɾgi¹ʃi ɾʔanaʃi:¹ 「ʃun] (うずくまって座って話をする)

スィ¹「ク¹ルー¹ン¹[θi¹ku¹ru:¹ŋ] (動)

すくんでいる。うずくまっている。ワ¹ラ¹「ビ¹ヌ¹ スィ¹「ク¹リ¹ ギ¹チュー¹ン¹[wara
「bi¹nu θi¹ku¹ri gi¹ʃu:¹ŋ] (子供がうずくまって座っている)。「フ¹マ¹カ¹ヤ¹ー¹ スィ¹「ク¹ラ¹ー¹ ギ¹ヤ¹ン¹キ¹「バ¹「ʔumakaja:¹ θi¹ku¹ra:¹ gi¹ʃaŋ¹ki¹ba] (ここではうずくまって座るな)。スィ¹「ク¹リ¹ ɾギ¹チュー¹ン¹[θi¹ku¹ri ɾgi¹ʃu:¹ŋ] (うずくまって座っている)

「スィ¹ニ¹「[θi¹ni] (名)

すね (脛)。向う脛。ɾスィ¹ニ¹ 「ウ¹ツ¹チ¹ ヤ¹リ¹ 「キ¹ヤ¹ン¹ ナ¹ラン¹[θi¹ni
「ʔutʃi¹ jari ɾkja:n¹ naraŋ] (脛を打って、痛くてたまらない<どうにもならない>)

スィ¹リ¹「ク¹ン¹[θiri¹kuŋ] (名)

こぶし (拳)。スィ¹リ¹「ク¹ン¹ ク¹ワー¹シュ¹ン¹[θiri¹kuŋ kwa:ʃun] (拳骨で殴る<拳骨を喰らわせる>)

「スィ¹リ¹ダ¹チ¹[θirida¹ʃi] (名)

やけど (火傷)。「イ¹ユ¹ ヤ¹キン¹チ¹ュー¹ティ¹ ɾスィ¹ー¹ 「スィ¹リ¹ダ¹チ¹ヤ¹ン¹[ʔiju j
akin¹ʃu:ti ɾθi:¹ θiridaʃaŋ] (魚を焼こうとして、手を火傷した)。ア¹ン¹ダ¹「ギ¹ー¹
ア¹ギ¹ー¹ン¹ ɾチ¹ュー¹ティ¹ ɾスィ¹ー¹ 「スィ¹リ¹ラ¹チ¹ヤ¹ン¹[ʔanda¹gi:¹ ʔagi:¹n
ɾʃu:ti ɾθi:¹ θiriraʃaŋ] (テンプラを揚げようとして手を火傷してしまった)

スィ¹ウ¹ム¹ン¹「デー¹ク¹[θuimun¹de:ku] (名)

「盗りもの細工」の義。泥棒。盗人の比喻表現。

スィ¹ス¹ウ¹イ¹「ミー¹[θu¹θui¹mi:] (名)

老眼。「年寄り目」の義。「ナ¹ー¹ スィ¹ス¹ウ¹イ¹「ミー¹ ナ¹ティ¹ ɾナ¹ー¹ン¹ ガ¹ン¹
「チ¹ョ¹ー¹ ハ¹キ¹ラ¹ン¹バー¹ シ¹ン¹「ブ¹ヌ¹ン¹ ユ¹ミ¹「ヨ¹ー¹ス¹ア¹ン¹[na:¹ θu¹θui¹mi:
na¹ti ɾna:ŋ gan¹ʃo:¹ hakiramba:¹ ʃim¹「bunuŋ¹ jumi¹「jo:raŋ] (老眼
になってしまった。眼鏡をかけないと新聞も読めない)

「スウバ[「θuba] (名)

唇。みつくち (三つ口)。「ワースウバー[「wa: θ uba:] (上唇、唇の大きな人)。

「シヤスウバ[「ʃa θuba] (下唇)

スウバ「マギー[θuba「magi:] (名)

唇の大きな人。

スウンチャチャー「ギー[θunʃaʃa:「gi:] (名)

しゃがむこと。しゃがんで座ること。そんきょ<蹲踞>の義か。ミチ「バタカイ」 スウンチャチャー「ギーツ」チ バハナ「シー シュン[miʃi「bata kai」 θunʃaʃa:「gi: tʃi ɸana「ʃi: ʃun] (道端でしゃがんで話をする)

スオーキ「ブン[θo:ki「buŋ] (名)

あばらぼね (肋骨)。オー「エー シャーマ」 スオーキ「ブン グラッタン[?o:「je: ʃa:ma」 θo:ki「buŋ gurattan] (喧嘩して肋骨を折られた)。スオーキ「ブンヌ ɸフスウク ɸチューン[θo:ki「bunnu ɸΦuθu」ku ɸʃu:ŋ] (肋骨が不足している。転じて、女遊びをして家庭を顧みない男をいう。遊蕩に耽る男)

スオー「ハ」キ[θo:「ha」ki] (名)

米寿の祝い。八十八歳の生年祝い。戦前までは、久高島ではスオー「ハ」キを迎えると、各家の「スィーンユ」タ[「θi:ŋju」ta]が、当該者を「イリマッカ[「?irimakka] (西枕、死に装束) させて、「ここにスオー「ハ」キ[θo:「ha」ki] (米寿) を迎えた人 (干支で唱える) がいるということを唱え、天へ通して祈願した」という。従って久高島では、「ウイエーシャービラ[「?uije:ʃa:bira] (お祝いします) と挨拶するが、「アイカーラ[「?aika:ra] (肖りましょう) とは言わなかったという。

スオー「ミー[θo:「mi:] (名)

やぶにらみ。斜視。スオー「マー[θo:「ma:] (斜視) ともいう。久高島では斜視の人はいなかったので喧嘩の際、他人を罵っている時以外にはあまり使わなかった。「アラ」 スオー「マー」 ヤル[「?ara:」 θo:「ma:」 jaru] (あの人は斜視だ)

スオー「ロー」ル[θo:「ro:」ru] (名)

滑って転ぶこと。転倒。「ミチ」ヌ ナンドウル「スアナ」ティ スオー「ロー」ルー チヤン[「miʃi」nu nanduru「rana」ti θo:「ro:ru: ʃan] (道がすべっこくなって転んでしまった<転倒した>)。スオー「ロー」ル シーガター ヤスイガ」 ドウゲー「ランタン[θo:「ro:ru ʃi:gata: ja θiga」 duge:「rantan] (滑って転倒しそうだったが、転ばなかった)

「ダキン[「dakiŋ] (動)

抱く。「ダカ」ン[「daka」ŋ] (抱かない)。「ダチャ」ン[「daʃa」ŋ] (抱いた)。「ダキブシャ」ン[「dakibuʃa」ŋ] (抱きたい)。「ダキバ[「dakiba] (抱きなさい)。「ヤー

ガ ダキーヤ^ㄱ ワヌン 「ダキシア」[^ㄱja:ga daki:ja^ㄱ wanun 「dakira」(君が抱いたら私も抱くさ)。「ヤーガ スアビンカイ グ^ㄱンバーイ 「ンマッタスア^ㄱハー 「ダキバ」[^ㄱja:ga ɾabin̄kai gu^ㄱmba:i 「?mmattara:」 ha: 「dakiba」(君が旅に居った時に生まれたよ。早く抱きなさい)。「ウヌ アカングワー^ㄱワン^ㄱネー ダカラン^ㄱバー シュ^ㄱン ムンヌ」[^ㄱ?unu ?akangwa:」 wan^ㄱne: dakaram^ㄱΦa: ju^ㄱm munnu] (この赤ん坊は私に抱かれたがらないよ)

「チー」[^ㄱʃi:] (名)

血。血液。「チーヌ^ㄱ ンギ^ㄱタン」[^ㄱʃi:nu^ㄱ ?ŋgi^ㄱtaŋ] (血が出た)。「^ㄱハナジーヌ^ㄱ ンギティ ナカ^ㄱナカ スウマランタン」[^ㄱΦanaʃi:nu^ㄱ ?ŋgiti naka^ㄱnaka θumarantaŋ] (鼻血が出てなかなか止まらなかった)

「チ^ㄱー」[^ㄱʃi^ㄱ:] (名)

ちち(乳)。乳房。「チー 「マギー」[^ㄱʃi: 「magi:] (乳房の大きな人)。「チー 「グマー」[^ㄱʃi: 「guma:] (乳房の小さい人)。「チー 「ヌマシュン」[^ㄱʃi: 「numaʃuŋ] (乳を飲ませる)。「チー 「ギーン」[^ㄱʃi: 「gi:ŋ] (乳を貰う。貰い乳する)。乳の出ないときに貰い乳をしたり、お粥の「ワーユー」[^ㄱwa:ju:] (重湯)を飲ませて育てた。

チー「チー」[^ㄱʃi: 「ʃi:] (名)

牛乳。「ウシヌ チー」[^ㄱ?uʃinu ʃi:] (牛の乳)ともいう。シマ「カヤー ウシャー^ㄱ グラントゥ 「ウシヌ チーヤ^ㄱ ヌマン^ㄱタン」[ʃima^ㄱkaja: ?uʃa:」 guraŋkutu 「?uʃinu ʃi:ja^ㄱ numan^ㄱtaŋ] (久高島には牛はいないので牛の乳は飲まなかった)

「チーブックワ」[^ㄱʃi:bukkwa] (名)

乳房。「チー」[^ㄱʃi:] (乳房)ともいう。

チール「バー」[^ㄱʃi:ru^ㄱba:] (名)

犬歯。チール「バーヌ^ㄱ アン^ㄱマリ メーチ^ㄱ ンギティ」[^ㄱʃi:ru^ㄱba:nu^ㄱ ?am^ㄱmari me:ʃi^ㄱ ?ŋgiti] (犬歯があまりに前に出すぎている)。チール「バー シャーマ^ㄱ クイ^ㄱキリバ」[^ㄱʃi:ru^ㄱba: ʃa:ma^ㄱ kù^ㄱkiriba] (犬歯で噛みきりなさい)

チカ「ミー」[^ㄱʃika^ㄱmi:] (名)

近視。近視眼。「アラー^ㄱ チカ^ㄱミー^ㄱ ヤル」[^ㄱ?ara:」 ʃika^ㄱmi:」 jaru] (あの人は近視眼だ)

チ「カラー」[^ㄱʃi^ㄱkara:] (名)

ちから(力)。チ「カラヌ^ㄱ アン」[^ㄱʃi^ㄱkaranu^ㄱ ?aŋ] (力がある)。「アラー^ㄱ チ^ㄱカラー^ㄱ ヤル」[^ㄱ?ara:」 ʃi^ㄱkara:」 jaru] (あれは強力である。力が強い)。チ「カラヌ^ㄱ チュー^ㄱスアン」[^ㄱʃi^ㄱkaranu^ㄱ ʃu:」^ㄱraŋ] (力が強い)

チ「キン」[ʃiˈkiŋ] (動)

聞く。「ミミヌ クジ「リティ ッチュヌ バハナシーヤ」 チ「カランナ」ティ 「ナ
 ーン」[ˈmiminu kuʃiˈriti tʃunu ʔʰanaʃiːjaˈ ʃiˈkarannaˈti ˈnaːŋ] (耳を
 痛めて<崩れて>人の話は聞こえなくなってしまう)。チ「カン」[ʃiˈkaŋ] (聞かない)。
 チ「チャン」[ʃiˈʃaŋ] (聞いた)。チ「キバハン」ティー「 シュン」[ʃikiʔʰanˈtiːˈʃ
 un] (聞き取りにくい)。「バハナ」シー「 チ「キン」[ʔʰanaˈʃiːˈ ʃiˈkiˈŋ] (話を聞
 く)。チ「チャスター」[ʃiˈʃaːaː] (聞いたよ)。「アヌ ッチュヌ バハナシーヤ」
 ユー チ「キバ」[ˈʔanu tʃunu ʔʰanaʃiːjaˈ juː ʃiˈkiba] (あの人の話はよく
 聞きなさい)。「チ「キバ」 スィミ「タンムンヌ」[ʃiˈkibaˈ θimiˈtammunnu] (聞け
 ば良かったのに)。「ウヤヌ 「ユスイグトー」 ユー チ「キ」ヨー」[ˈʔujanu ˈju θi
 gutoːˈ juː ʃiˈkiˈjoː] (親の教え諭し<言うこと>はよく聞きなさいよ)。「
 ミミヤ ハン「スウイ」 ヤル」[ˈmimija hanˈθuiˈ jaru] (耳はよく聞こえる<
 耳は剃刀だ>)。「チュネー」 ムン チ「キン」[ˈʃuneːˈ mun ʃiˈkiŋ] (他人にも
 のを尋ねる<聞く>)

「チジマ」キ」[ʃiʃimaˈki] (名)

つむじ(旋毛)。「チジター」ティー」[ˈʃiʃitaːtiː] (二つ旋毛。頭に旋毛が二つある人)。
 「アヌ ッチョー」 ター「ティーチ」ジ 「ヤロ」[ˈʔanu tʃoːˈ taːˈtiːʃiˈji
 ˈjaro] (あの人は旋毛が二つある人だ<二つ旋毛の人だ>)。「ミー」ティ「チジン」チュ
 ン」 グタン」[miːtiˈʃiʃinʃuŋˈ gutaŋ] (三つ旋毛の人もいた)

「チム」[ʃimu] (名)

心。胸の内。「肝」の義。「チムグクル」[ʃimugukuru] (心。気持ち。情け。「肝心」
 の義)と同じ。「アラー」 ギー 「チムグクル ムッチュー」ン」[ˈʔaraːˈ giː ˈ
 ʃimugukuru mutʃuːˈŋ] (あれは優しい心を持っている。心の美しい人だ)。「スラ
 「グクル」[suraˈgukuru] (美しい心)。「スラ」チム ムッチュー」ン」[suraˈʃimu
 mutʃuːˈŋ] (美しい心を持っている)。「アラー チムチン イカ」ン 「ムン」ヤル
 [ˈʔaraː ʃimuʃiŋ ʔikaˈm ˈmuŋˈjaru] (あれは心がけの悪い奴だ)。「チムヌ」
 ダク「ミキン」[ˈʃimunuˈ dakuˈmikiŋ] (心がどきどきする)。「チムヌ」 ダク「
 ミチ」[ˈʃimunuˈ dakuˈmiʃi] (胸がどきどきする。気分が悪い)。「チムヌ」
 ウティ「ティカン」[ˈʃimunuˈ ʔutiˈtikan] (心がときめく。心が落ち着かない)

「チムグ」チ」[ʃimuguˈʃi] (名)

みぞおち(鳩尾)。胸の中央のくぼんだところ。「チム」グチャー」 デー「ジナ」 ト
 ウ「クマ ヤ」クトウ ティ「カスアン」キ「バ」[ʃimuˈguʃaːˈ deːˈʃinaˈ tuˈku
 maˈjaˈkutuˈtiˈkaʃaŋˈkiˈba] (みぞおちは大事なところだから突かすなよ)

「チャー」[ʃaː] (名)

した(舌)。「チャー」ンギヤシュン[¹ʃa: ²ʔŋjaʃuŋ] (舌を出す)。「チャーヌ
「インクスア」ン[¹ʃa:nu ²ʔiŋkɪra¹ŋ] (舌が短い)

「チャーキ」[¹ʃa:ki] (副)

すぐ。「ンマリテイ」チャーキラ フツチャギ「スアタン」[¹ʔmmariti¹ ʃa:kira
ʔutʃagi¹ʔatan] (生まれつき<生まれてすぐから>可愛いかった)

チュツ「ペー」[ʃup¹ʔe:] (名)

つば(唾)。チュツ「ペー」シュン[ʃup¹ʔe: ʃuŋ] (唾を吐く<する>)。チュツ「
ペー」ハキー「ン」[ʃup¹ʔe: haki:¹ŋ] (喧嘩して相手に唾を吐きかける<唾をかける>)

チュナ「ガ」トゥ[ʃuna¹ga¹tu] (名)

一晩中。終夜。よじゅう(夜中)。「ウヌ」ツクウヌ「ニティヌ」ン「ギヤーマ」チュ
ユナガ「トゥ」ウク「スアッタン」[¹ʔunu kkwanu¹ nitinu¹ ʔŋ¹gja:ma ʃunag
a¹tu ʔuku¹ʔattan] (この子の熱が出て一晩中起こされた)。「スウナイヌ」ウブ
フ「シュガ」グイッティ「ン」シャーマ「ユナ」ガ「トゥ」ウク「スアッティエー」[¹θun
ainu¹ ʔupʔu¹ʃuga¹ guitti¹ ʃa:ma juna¹ga¹tu ʔuku¹ʔatti:] (隣のおじ
いさんが酔っ払ってやって来て一晩中起こされた)。グイ「チャー」[gui¹ʃa:] (酔っ
払い)

チョーデーハスア「バイ」[ʃo:de:hara¹bai] (名)

位牌に兄弟が重なること。「イ」フェーカイ「ン」チョーデーハスア「バヤー」キラトゥ
ー「ン」[¹ʔi¹ʃe:kai¹ ʃo:de:hara¹baja: kiratu:¹ŋ] (位牌には兄弟重なりは嫌わ
れている)

「チン」ハラ[¹ʃim¹ʔara] (名)

着物。衣類。「チン」ハラムチャー[¹ʃim¹ʔaramuʃa:] (着物を沢山持っている人)。
「アヌ」ツチュヌ「チン」ハラ「ン」ビヒ「ティヌ」ミー「アスア」[¹ʔanu tʃunu
ʃim¹ʔara:¹ ʔʃi¹tinu mi:¹ ʔara] (あの人の衣類<着物>はひつ<櫃>のいっ
ぱいあるよ)

ツチュ「ティ」キユビ[tʃu¹tikijubi] (名)

人差指。食指。ツチュ「ティ」キユビ「シャーマ」アンチュ「スア」チュータン[tʃu¹tik
ijubiʃa:ma ʔanʃu¹ ʔa¹ʃu:tan] (人差指であの人を指していた)。ツチュ「ティ
キユビ」シャーマ「ツチュ」スア「シュン」ムノ「ア」ラ「ン」[tʃu¹tikijubiʃa:m
a tʃu¹ ʔa¹ʃum muno:¹ ʔa¹ra¹ŋ] (人差指で人を指すものではない)

ティカ「ミン」[tika¹miŋ] (動)

つかむ(掴む)。ティ「カマン」[ti¹kaman] (掴まない)。ティ「カラン」[ti¹karan] (掴
んだ)。ティカ「ミバ」[tika¹miba] (掴みなさい)。ティカ「ミブ」シャン[tika¹mibuʃan]

(掴みたい)。ティカ「マン」キ「バ」[tika「maŋ」ki「ba】(掴むな)。ティカ「ミーヤ」[tika「mi:ja:] (掴んだら)。アティ「ムン」 ティカ「ミーヤー」 ユ「ゲーインドー」[ati「mun」 tika「mi:ja:」 ju「ge:indo:】(熱いものを掴むと火傷するよ)

ティキ「スイラ」[tiki「θira】(名)

同じ年で、生まれた月の早い人。「月兄者」の義か。

ティキヌ「ムン」[tikinu「mun】(名)

月経。「月のもの」の義。ティキヌ「ムン」ヌ「ンギ」タン」[tikinu「mun」nu「ŋgi「tan】(月経が出た)。ティキヌ「ムン」ヌ「バ」ハジマタン」[tikinu「mun」nu「pʰaʒi matan】(月経が始まった)

ティ「グー」[ti「gu:] (名)

おし(唾者)。口のきけない人。「ティグー」 「ナヤーマ」 「バ」ハナ「シーヤ」 シーヨー スェン」[「tigu: 「naja:ma」 pʰana「ʃi:ja ʃi:jo:raŋ】(唾者になって話ができない)。「ティーヨー」 「ピサヨー」 チューティル」 シュール」[「ti:jo: 「pisajo: ʃu: tiru」 ʃu:ru】(身振り手振りをしてする<話す>のだ)

「ティビ」[「tibi】(名)

しり(尻)。「ティビ」 スェン」キ「ン」[「tibi」 r̥ata「kiŋ】(尻をたたく)。「テビイ」 ギ「シーン」[「tibi」 gi「ʃi:ŋ】(腰をおろすく尻を据える>。

「ティブン」[「tibuŋ】(名)

頭。「ティブンヌ」 マギ「スェン」[「tibunnu」 magi「raŋ】(頭が大きい)。ウフ「ティブル」[ʔupʰu「tiburu】(大きな頭)。ウフティブ「ラー」[ʔupʰutibu「ra:] (生まれつき巨大頭の人)。「ティブン」ヌ「ヤミン」[「tibun」nu「jamiŋ】(頭が痛い)。「ヌーガラ」 キ「ヌーラ」 ティブン」ヌ「ヤリ」[「nu:gara」 ki「nu:ra tibun」nu jari】(なぜか昨日から頭が痛い)。シケー「ハラー」 アラ「ニーヤ」[ʔŋke:「hara:」 ʔara「ni:ja:] (悪霊がついた<向かい風に当たった>のではないか)。「ディンヌ」 「ナーン」 「ティブン」 「ウスウトゥースァー」[「dinnu」 「na:n」 「tibuŋ」 「ʔuθutu :ra:] (金がなくて頭を押さえている)

ティブン「ヤミヤー」[tibuŋ「jamja:] (名)

頭痛持ち。頭痛の持病がある人

ティブン「ヤンメー」[tibuŋ「jamme:] (名)

頭痛。「頭の病」の義。「アラー」 ティブンヤンメー「ムチ」 ヤロ」[「ʔara:」 tibun jamme:「muʃi」 jaro】(あれ<あの人>は頭痛持ちだ)

「ティミ」[「timi】(名)

つめ(爪)。「ティミ」 キー「ン」[「timi ki:」ŋ】(爪を切る)

ティミ「スァ」キ」[timi「ra」ki】(名)

つまさき (爪先)。「ティミスアキシャーマ」 スア「チュン」[「timirakiʃa:ma」
ra「ʃu」ŋ] (爪先で立つ)。「ピ」シヤヌスアキシャーマ」 スア「チュン」[pi「ʃanuʃa
kiʃa:ma」 ra「ʃu」ŋ] (足の爪先で立つ) ともいう。

「ティラ」[「tira」] (名)

つら (面。顔)。「ティラ」 「スグイン」[「tira」 「θuguiŋ」] (顔を殴る)。「ティラ」
「スグラタン」[「tira」 「θugurattan」] (顔を殴られた)。「ティラ」 「アレ
ン」[「tira」 「ʔare:ŋ」] (顔<面、つら>を洗う)。「ティラヌ」 「アカサン」[「tiranu
ʔakarəŋ」] (顔が赤い)。「ティラヌ」 ピル「スアン」[「tiranu」 pɪru「raŋ」] (顔が広
い)

「ティンスイ」[「tin θi」] (名)

ひざ (膝)。ひざがしら<膝頭>。「ティンスイ」 ウッチ」 ヤリ 「キヤ」ン 「ナ
ラン」[「tin θi」 ʔutʃi」 jari 「kja:」n 「naraŋ」] (膝を打って、痛くてたまらない
<どうにもならない>)。「ワラビ」 「ティンスイチ」 ギシー」ン[「warabi」 「tin θiʃ
i」 giʃi:」ŋ] (子供を膝に座らせる)。「ワラビ」 「ティンスイチ」 ヌシー」ン[「wara
bi」 「tin θiʃi」 nuʃi:」ŋ] (子供を膝に乗せる)

「ティンスイブク」[「tin θibuku」] (名)

ひざがしら (膝頭、膝蓋)。膝こぞう。

ディン「ブン」[dim「buŋ」] (名)

才能。思慮分別。存念。「存分」 zonbunno yoi fito<存分の良い人>『日葡辞書』
の義か。「アヌ」 ックワー」 ディン「ブン」ヌ 「スググリトゥーン」[「ʔanu」 kkwa
:」 dim「bun」nu 「θuguritu:ŋ」] (あの子は才能が優れている)。「アヌ」 ックワ
ー」 ディンブン「ムチ」 ヤロ」[「ʔanu」 kkwa:」 dimbum「muʃi」 jaro」] (あの
子は才能に恵まれた子だ<才能持ちだ>)。「ディンブン」 「ナーヌー」[「dimbun」 「
na:nu:」] (才能の無い者、才能なし)

「ドゥ」ー[「du」:] (名)

どう (胴)。からだ。胴体。身体。「ル」ー[「ru」:] (からだ) ともいう。ドゥー「
ドゥクイ」[du:「dukui」] (体つき。体格)。「ドゥーマギー」[「du:magi:」] (体の大きい
人)。「グテー」マギー」[gute:「magi:」] (体格の大きな人)と同じ。「アラー」 ドゥー
「マギー」 ヤル」[「ʔara:」 du:「magi:」 jaru」] (あれは体の大きい人だ)

ドゥー「ガンジューサア」[du:「ganʃu:ra」] (名)

体が頑丈であること。頑健な体。「スアビチ」 ンジン」 ドゥー「ガンジューサア」
チ」 バハ「タラキョーヤー」[「rabifi」 ʔnʃin du:「ganʃu:raʃi」 ʔʃa「tarakijo
:ja:」] (旅に行っても健康で働きなさいよ)。「ワーナー」 「スアビチ」 イキャビーク
トウ」 ドゥー「ガンジューサア」 チュッキンショー」リョー」[「wa:na:」 「rabifi

ʔikjabi:kutu^ɾ du:「ganɕu:ra ʃukkiŋjo:ɾrijo:」(私は旅に出ますから体を健康にしてい<体頑丈さしてい<くださいね)

ドゥー「グッシャ[du:「guʃʃa」(名)

心苦しいこと。遠慮。「胴苦しさ」の義。ドゥー「グッシャ スァンキバ[du:「guʃʃa raŋkiba」(遠慮するなよ)。「スゥマリヨ スゥマリヨ^ɾ スウ「タスイガ^ɾ ドゥーグッ「シャ^ɾヌ 「スゥマランタン[「θumarijo θumarijo^ɾ θu「ta θiga^ɾ du:guʃʃa^ɾnu 「θumarantaŋ」(「泊まれよ、泊まれよ」といったけれど、迷惑を掛けることが申し訳なくて<心苦しくて>泊まらなかったよ)

ドゥートゥ「クイ[du:tu「kui」(名)

体格。体付き。「胴作り」の義。ドゥートゥ「クイヤー^ɾ ユー トゥ「クラットゥー^ɾン[du:tu「kuija:ɾ ju: tu「kurattu:ɾŋ」(体つきは、よく作られている。体格がいい)

「ナーンナーヌ[「na:nna:nu」(名)

くすりゆび(薬指)。紅差し指。「名無し指」(ななしゆび『和名抄』)の義。「ナラシウイビ[「naraʃi?uibi」(鳴らし指)ともいう。「指笛を吹いて鳴らす指」の義。「ナラシユビシャーマ^ɾ スィー「ビキ プキン[「naraʃijubiʃa:ma^ɾ θi:「biki pukiŋ」(薬指で指笛を吹き鳴らす)

ナ「ガニブ^ɾシ[na「ganibu^ɾʃi」(名)

背骨。脊椎

ナカ「ユビ[naka「jubi」(名)

中指。ナカ「ユビシャーマ^ɾ ハタヌ 「ティブ^ɾ スァチ^ɾ ヲヤーチュー 「シミー^ɾン[naka「jubiʃa:ma^ɾ hatanu 「tibu^ɾ raʃi^ɾ ja:ʃu: 「ʃimi:ŋ」(中指で肩のツボをさして、お灸を据えさせる<やいと(焼処)させる『文明本節用集』>)

ナキ「ジョーグ[naki「ɕo:gu」(名)

泣き上戸

「ナキヤー[「nakja:」(名)

泣き虫。よく泣く人

「ナキ^ɾン[「naki^ɾŋ」(動)

泣く。「ナカ^ɾン[「naka^ɾŋ」(泣かない)。「ナチャ^ɾン[「naʃa^ɾŋ」(泣いた)。「ナカ^ɾン^ɾキ「バ[「nakaŋ^ɾki「ba」(泣くなよ)。「ナキブシャー^ɾ ナー^ɾン[「nakibuʃa:ɾ na:「ŋ」(泣きたくはない)。「ナチューン[「naʃu:ŋ」(泣いている)。「ヤーガ ナキーンシャコー^ɾ ワヌン 「ナキースァー[「ja:ga naki:ŋʃako:ɾ wanun 「naki:ra:」(君が泣いたら、私も泣くよ)。ユクッチ「ナキヤー スァンキバ[jukutʃi「nakja: raŋkiba」(うそ泣きはするな)。「ウラー^ɾ イフィ「グワース フトゥシ

ヤーマン¹ ヌー「ガラ チャー」キ ナキ「スイガヤー」[¹?ura:¹ ?iΦi¹gwa:nu
Φutuʃa:man¹ nu:¹gara ʃa:¹ki naki¹θigaja:] (あれはちょっとしたことでも、
どういう訳かすぐ泣くよ)

「ナダ」[¹nada] (名)

なみだ (涙)。「ナダヌ」ンギー¹ン[¹nada ?ngi:ŋ] (涙が出る)。「ナダヌ」ンギ「
ラン」[¹nadanu¹ ?ngi¹raŋ] (涙が出ない)。「ナダヌ」ンギ「タン」[¹nadanu¹ ?ngi¹
taŋ] (涙が出た)。ウ¹フ「シュガ」ヒジヤ¹ン 「バーイン」 「ナダー」ンギ「ラ
ンタン」[¹?upΦu¹ʃuga ɕiɕa¹m¹ ʔba:in¹ ʔnada:¹?ngi¹rantaŋ] (おじいさんが死
んだ時も涙は出なかった)。「チャッピ」 「ナチン」 ヌー「ガラ」 ナダー「ンギ」ラ
ン[¹ʃappi¹ ʔnaʃin¹ nu:¹gara¹ nada:¹ ŋgi¹raŋ] (いくら泣いても、何故か
涙が出ない)。ハラ「ナキー」 ヤタル[hara¹naki:¹ jataru] (から泣きであった)

「ナナティ」 「ナイビタイヤ」[¹nanati¹ ʔnaibitaija] (連)

七つになりましたか (七歳になりましたか)

ナビン「ガスア」[nabiŋ¹gara] (名)

梅毒。ユナ「グアスイビ」 シャーマ¹ ヌナ「グ」ラ ナビン「ガスア」 ウトゥ「スア
ッタ」 スイン「グサア」[juna¹guʔa θibi ʃa:ma¹ juna¹gu¹ra nabiŋ¹gara¹
ʔutu¹ʔatta θiŋ gura:] (女遊びをして、女から梅毒を移された者もいるよ)

「ニギー¹ン」[¹nigi:ŋ] (動)

にぎる (握る)。「メー」ニギー¹ン[¹me:¹ nig i:ŋ] (ご飯を握る)。「ニギラン」[¹ni
giraŋ] (握らない)。「メー」ニギ¹チ 「ニギリメー」 トウクイン[¹me:¹ nig i¹ʃi
ʔnigirime:¹ tukuiŋ] (ご飯を握って握り飯を作る)。「ニギチャン」[¹nigiʃaŋ] (握
った)。「ニギラン」キ「バ」[¹nigiraŋ¹ki¹ba] (握るな)

「ニティ」[¹niti] (名)

ねつ (熱)。「ニティヌ」ンギー¹ン[¹nitinu¹ ?ngi:ŋ] (熱が出る)。「ニティヌ」
ンギ「タン」[¹nitinu¹ ?ngi¹taŋ] (熱が出た)。ミカ「シャー」 ニティヌ「ンギー」
ヤー¹ ハン「スウイシャーマ」 ピ「チャ」イ スア「クイタン」 (「バ」ハンキタン) [mik
a¹ʃa:¹ nitinu¹ ?ngi:¹ja:¹ han¹θuiʃa:ma¹ pi¹ʃa¹i ʔa¹kuitaŋ (ʔba¹ŋaŋki
taŋ)] (昔は発熱したらカミソリ<剃刀>の刃で額を軽く切った<はじいた>)

ニバン「ドゥイ」[niban¹dui] (名)

二番鶏。朝の5時頃に鳴く鶏。二番鶏鳴。ニバン「ドゥイヌ」 ウテーヤ¹ アカトウキ
「バンチ」 イ「クスイン」グサア¹[niban¹duinu¹ ʔute:ja¹ ʔakatuki¹banʃi
ʔi¹ki θiŋ guta:ʔa:] (二番鶏が鳴いたら朝の畑仕事に行く人もいたよ)

ニラ「ミン」[nira¹miŋ] (動)

にらむ (睨む)。「アンネ」ー ニラ「マ」ティ 「シグトウツチン」 イキブシャ¹ー

「ナーン[「?anne」: nira「ma」ti 「figututʃiŋ ?ikibuʃa」: 「na:ŋ] (あれに睨まれて仕事にも行きたくない)

「ニンジュン[「ninɕuŋ] (動)

ねむる (眠る)。「ニンラン」キ「バ[「ninraŋ」ki「ba] (眠るな)。「ニンタン[「nintaŋ] (眠ってしまった)。「ワラ」ビヤー ニンタスアー[wara「bja: nintara:] (子供はねむったよ)。「ナ」マ 「ニンダネー[「na」ma 「nindane:] (まだ眠らないか)。「ナー」 「ニントウースアー[「na: 「nintu:ra:] (もう眠っているよ)。「ユー」 「ニンダラン[「ju: 「nindaraŋ] (よく眠れない)。「ニンジュン」 メー「カイ」 ハタチャー ヌミーヤ「 ミー フ「ハ」ティ 「ニンダラン[「ninɕum」 me:「kai hataʃa: numi:ja」 mi: ʃu「pʃa」ti 「nindaraŋ] (眠る前に濃いお茶を飲むと目が冴えて眠れない)。「ユー」 「ニンジュン[「ju: 「ninɕuŋ] (よく眠る)。「シワッチ」 ニンダラン[「ʃiwatʃi nindaraŋ] (心配で眠れない)。

「ヌ」チ[「nu」ʃi] (名)

いのち (命)。「ヌチヌ」 「アタラスアヌ[「nuʃinu 「?atararānu] (命が惜しい)。「ヌチヌ」 アリ「バル」 「ナニグトゥ」ン ウムティ 「ウルグトゥ」 ハナワユル [「nuʃinu ?ari」baru 「nanigutu」ŋ ?umuti 「?urugutu」 hanawajuru] (命があればこそ何事も思っているように叶えられるのだ) (歌謡「十番口説)

「ヌ」ミン[「numiŋ] (動)

のむ (飲む)。「ヌマン[「numaŋ] (飲まない)。「ナマ」ミラー「 ワタ」 「ヤンジュクトウ」 ヌマン「カンバ[「nama「mira:」 wata 「janɕukutu」 numaŋ「kamba] (生水は腹をこわすから飲むなよ)。「ヌラ」ン[「nura」ŋ] (飲んだ)。「ヌリナーン[「nurina:ŋ] (飲んでしまった)。「ワタ」グスヤー ム「ル」 ヌリ「ナーン[wata「gusuja: mu」ru nuri「na:ŋ] (腹薬はみんな飲んでしまった)。「ヌミバ」 スイミ「タン」ムンヌ[「numiba θimi「tam」munnu] (飲めばよかったのに)。「ヌン」バ[「num「ba] (飲めよ)。「ミリ」 ヌミ「ン[「miri numi」ŋ] (水を飲む)。「ステキ」 ヌミ「ン[「raki numi」ŋ] (酒を飲む)

ヌ「リー[「nu「ri:] (名)

のど (喉)。「ヌ」リーヌ ヤミ「ン[「nu「ri:nu jami」ŋ] (喉が痛い)。「ヌ」リー「ヌ」ハ「キーン[「nu「ri:」nu ha:「ki:ŋ] (喉が渴く)。「ハ」エー シーヤ「 ヌリーヌハ「キーン[「pʃa「je: ʃi:ja」 nuri:nu ha:「ki:ŋ] (走ったら喉が渴く)

ヌ「リーヌ」ワ「グ「ワ「[「nuri:nu「wa:gwa:] (名)

のどひこ。「喉の子豚」の義か。「クチ」 アキーヤー「 ヌリーヌ」ワ「グ「ワ「ヤ「 ミヤ「リースアー[「kuʃi ?aki:ja:」 nu:ri:nu「wa:gwa:ja」 mija「ri:ra:] (口を開けるとのどひこが見えるよ)

ヌリー「ブク」[^ㇿnuri: ^ㇿbuku] (名)

のどぼとけ (喉仏)。ユキ「ガー ム」ル ヌリー「ブクヌ」 アスア (ンギ「トウース
ア」 [juki ^ㇿga: mu^ㇿru nuri: ^ㇿbukunu^ㇿ ?ara (ʔngi^ㇿtu:ra)] (男はみんな喉
仏があるよ<出ているよ>)

「ハー」[^ㇿha:] (名)

かわ (皮)。皮膚。肌。^ㇿスィーヌ 「ハー」[^ㇿθi:nu ^ㇿha:] (手の皮。皮膚)。スィ
ー「ベー」[^ㇿθi: ^ㇿbe:] (手の甲)。^ㇿスィーヌ 「ハーヌ」^ㇿバギーン「^ㇿθi:nu ^ㇿha:n
u^ㇿ ʔɸagi:ŋ] (手の皮がむける<剥げる>)

ハー「キーン」[^ㇿha: ^ㇿki:ŋ] (動)

乾く。「スィラヌ」 スィトウー「クトウ」 ミヤー「カイ」 リキン プフ「シーヤ
チャーキ ハーラキースアー」[^ㇿθiranu^ㇿ θitu: ^ㇿkutu^ㇿ mja: ^ㇿkai^ㇿ rikim ʔɸu
^ㇿʃi:ja ʃa:ki ha:raki:ra:] (太陽が照っているので庭に着物を干すとすぐ乾く
よ)。「ナマ」 ハーラカン「^ㇿnama^ㇿ ha:rakan^ㇿ] (まだ乾かない)。「ハーラチュ
ーイヤ」[^ㇿha:raʃu:ija] (乾いているか)。「ハーラチューンシャコー」 スウリ「バ
」[^ㇿha:raʃu:ŋʃako: ^ㇿθuri ^ㇿba] (乾いていたら取り入れなさい<取りなさい>。
「リキン」ヌ 「ハーラチャン」[^ㇿrikin^ㇿnu ^ㇿha:raʃaŋ] (着物が乾いた)

ハーギ「スイガタ」[^ㇿha:gi ^ㇿθigata] (名)

容姿。姿形。「影姿」の義か。ハーギ「スイガタ チュネー マサ」ティ「^ㇿha:gi ^ㇿθigat
a ʃune: masa^ㇿti (容姿が人並み優れて)。^ㇿシュラハー「ギー」[^ㇿʃuraha: ^ㇿgi:] (美
人)。^ㇿヤナハー「ギー」[^ㇿjanaha: ^ㇿgi:] (不美人)

「ハーラカシュ」ン「^ㇿha:rakaʃuŋ] (動)

乾かす。^ㇿリキン 「ハーラカシュ」ン「^ㇿrikin^ㇿ ^ㇿha:rakaʃu^ㇿŋ] (着物を乾かす)

ハイ「マター」[^ㇿhai ^ㇿmata:] (名)

がにまた (蟹股)。ハイ「マターアッキ シュ」ン「^ㇿhai ^ㇿmata:ʔakki ʃu^ㇿŋ] (蟹股
歩きをする)。「アラ」 ハイマターアッキ 「シュ」ン「^ㇿ?ara: ^ㇿhaimataʔakki ^ㇿ
ʃu^ㇿŋ] (あれは蟹股歩きをする)

ハ「キン」[^ㇿha ^ㇿki^ㇿŋ] (動)

かく (搔く)。「ティミシャー」マ^ㇿハキン「^ㇿtimiʃa: ^ㇿma ^ㇿhakin] (爪で搔く)。
ハカン「キバ」[^ㇿhakan^ㇿkiba] (搔くな)。^ㇿハ「キバ」[^ㇿha ^ㇿkiba] (搔けよ)。^ㇿワー 「フ
シ ハチ」 スウラ「シバ」[^ㇿwa: ^ㇿɸuʃi haʃi^ㇿ θura ʃiba] (私の背中を搔いて
くれないか)。「ハチャ」ン「^ㇿhaʃa^ㇿŋ] (搔いた)。^ㇿハキ「ブشان」[^ㇿhaki ^ㇿbuʃaŋ] (搔
きたい)。^ㇿハキ「ブشانシャコー」^ㇿハキ「バ」[^ㇿhaki ^ㇿbuʃaŋʃako: ^ㇿhaki ^ㇿba] (搔き
たければ搔きなさい)。「ムシネー」 スア「スアツタン トウクマー」 ハチャン「^ㇿ
muʃine: ^ㇿra ^ㇿrattan tukuma: ^ㇿhaʃaŋ] (虫に刺されたところを搔いた)。^ㇿ

アスイ 「ハキン」[ʔa θi ʰakiŋ] (汗を掻く)。「ナビヌ」[ʰiŋguʰ ʰakiŋ] (鍋の墨<竈黒>を掻き落とす)

「ハクリ」[ʰakuri] (名)

あご(顎)。「ハクリ ティ」[ʰakuri ti ʰkari:ŋ] (顎を突かれるぞ。喧嘩の時に使うことば)。「ハクリヌ」[ʰakurinu ʰʔanritaŋ] (顎がはずれた)。「グ」[ʔa ʰguʰ nu naga ʰraŋ] (顎が長い)

ハジ「マヤー」[haʃi ʰmaja:] (名)

九十七歳の誕生祝い。戦前までは、久高島では八十八歳の誕生祝いのソー「ハ」キ [θo: ʰa ʰki]からは西枕をさせたといわれている。スイーンユタ [θi: ŋjuta]から、「ここにソー「ハ」キ [θo: ʰa ʰki]の人がいる」と天へお通しの祈願をしたが、八十八歳までの長寿者はほとんどいなかった。今日では島を挙げて祝賀パレードをして祝う。

「ハサア」[ʰasa] (名)

湿疹。発疹。「ハサア」[ʰasa]ヌ 「ンギ」[ʰaŋa ʰnu ʔŋgi ʰtaŋ] (湿疹がでた)

「ハ」タ [ʰa ʰta] (名)

かた(肩)。「ハ」タチ 「ヌスイーン」[ha ʰtaʃi ʰnuʃi:ŋ] (肩に乗せる)。「ハ」タヌ フ「ハイン」[ha ʰta ʰnu ʰu ʰʔaiŋ] (肩が凝る)。「ハタヌ」フ「ハ」トウクトウ ム「リ」スウラ「スイバ」[ʰhatanu ʰu ʰʔa ʰtu:kutu mu ʰri θura ʰθiba] (肩が凝っている)ので、揉んでくれ)。「ハタヌ」フ「シヌ」[ʰhatanu ʰʔu ʰʃinu ʰʔanritaŋ] (肩関節が脱臼した<外れた>)。「ヤリ」[ʰja ʰari ʰkja:n ʰnaraŋ] (痛くてたまらない<痛くて仕方がない。たまらない>)

ハタグーマン「キヤー」[hatagu:maŋ ʰkja:] (名)

不揃いの履物。草履と下駄。ハタグーマン「キヤー」チ 「アッキーヤ」 「グニーガ」 「アッキンネール」 「スタル」[hatagu:maŋ ʰkja:tʃi ʔakki:ja ʰguni:ga ʰʔakkinne:ru ʰsutaru] (不揃いの履物<草履と下駄>を履いて歩くと、びっこが歩いているようだった<歩いているようにぞした>)

ハタ「ミーン」[hata ʰmi:ŋ] (動)

かつぐ(担ぐ)。「ワナー」ハタ「ミラン」[ʰwana: hata ʰmiraŋ] (私は担がない)。「ハタ「ミラン」キ「バ」」[hata ʰmiraŋ ʰki ʰba] (担ぐなよ)。「ハタ「ミタン」」[hata ʰmitaŋ] (担いだ)。「ハタ「ミ」ティ」フ「バ」」[hata ʰmi ʰti ʰʔu: ʰba] (担いで来いよ)

バッタクー「ギー」[battaku: ʰgi:] (名)

女性があぐら(胡坐)をかくこと。「アヌ」ユナゴー「バッタクー「ギー」チューン」[ʰanu ʰjunago: ʰbattaku: ʰgi: ʰʃu: ʰŋ] (あの女は胡坐をかいている)。「男性の場合は、「ピラク」ナリバ」[ʰpiraku ʰnariba] (楽にしなさい。平にしなさい<

同等、または目下に対して>)。「ピラク ナインショーリバ」[*piraku nainʃoriba*]
 (崩して<楽に>お座りください<目上に対して>)のよういう。「アラー」
 バハ「ジミーラ」ピ「シャマンキヤー」サナー バッター「ギー」チューン「*ʔa*
ra:」*ʔ*Φa「*ʃimi:ra*」*pi*「*ʃamankja:*」*sana:* *battaku:*「*gi:*」*ʃu:ŋ*] (あれは
 最初から正座をしないで胡坐を搔いている)

バハ「*ʔ*Φa:」(名)

は(歯)。「バハヌ ヤミン」[*ʔ*Φa:*nu jamiŋ*] (歯が痛い)。「バハヌ ヲヤリ ユ
 ナ「ガ」トゥ 「ニンダランタン」[*ʔ*Φa:*nu ʔjari juna ga tu nindarantaŋ*] (歯
 が痛くて<病みて>一晩中、眠れなかった)。「バハヌ ヤリ ヌガチ」チャン「*ʔ*
*ʔ*Φa:*nu jari nugafʃi ʃaŋ*] (歯が痛くて抜歯した<抜かしてきた>)。メー「バー
 [me:「ba:」(前歯)。ウク「バー」*ʔ*uku「ba:」(奥歯)。「ムシバー」[*muʃiba:*] (虫歯)。「
 ムシバーヌ」マン「ドゥーン」[*muʃiba:nu man du:ŋ*] (虫歯が沢山ある)

バハエー「シュー」ブ「*ʔ*Φaje:」*ʃu:bu*] (名)

走り競争

バハエー「シュン」*ʔ*Φaje:「*ʃuŋ*] (動)

走る。バハエー「スアン」*ʔ*Φaje:「*ʃaŋ*] (走らない)。バハエー「チャン」*ʔ*Φaje:「*ʃaŋ*] (走
 った)。「バハエーツ」チ「フーバ」[*ʔ*Φaje:*tʃi ʔ*Φu:*ba*] (走って来い)。「ヤー」
 ガ バハエー「シュンシャコー」ワヌン バハエー「ススアー」[*ja:ga ʔ*Φaje:「*ʃuŋ*
*ʃako: wanum ʔ*Φaje:「*ʃura:*」(君が走ったら私も走るよ)。(註)車は走るとは
 言わない。「クルマ」ヌ スウー「イン」[*kuruma nu θu: iŋ*] (車が通る)という。

バハギーン「*ʔ*Φagi:ŋ] (動)

はげる(禿げる)。「ティブンヌ」バハギーン「*tibunnu ʔ*Φagi:ŋ] (頭が禿げる)。
 バハギ「ラン」*ʔ*Φagi「*raŋ*] (禿げない)。「バハギティ」チャン「ムン」ヌ「*ʔ*Φagiti
ʃam mun nu] (禿げてきたよ)。「バハギティ」ナーン「*ʔ*Φagiti na:ŋ] (禿げてし
 まった)。「バハギーヤ」バハリ「カスアヌ」[*ʔ*Φagi:*ja ʔ*Φari「*kaʃanu*] (禿げたら
 恥ずかしい)。「ムルバハギ ナ」ティ「ナーン」[*muruʔ*Φagi na ti na:ŋ] (丸
 禿げになってしまった)。「アラー ムルバハギ」[*ʔ*ara: muruʔΦagi] (あれは丸禿げ
 だ)。「ティブンヌ」バハギ「トゥーン」[*tibunnu ʔ*Φagi「*tu:ŋ*] (頭が禿げている)

バハギ「ティブン」*ʔ*Φagi「*tibuŋ*] (名)

禿げ頭。バハ「ギー」*ʔ*Φa「*gi:*」(頭髪の薄くなった人)ともいう

バハ「キン」*ʔ*Φa「*kiŋ*] (動)

はく(吐く)。「ムン」バハ「キン」[*mum ʔ*Φa「*kiŋ*] (ものを吐く。謳吐する)。「バハ
 「カン」*ʔ*Φa「*kaŋ*] (吐かない)。「ムン」バハ「チャン」[*mum pa ʃaŋ*] (謳吐した。
 ものを吐いた)。「バハ」チューン「*ʔ*Φa「*ʃu:ŋ*] (吐いている)。「バハチ」グン「*ʔ*Φaʃi「*guŋ*]

(吐いている)。^バハカン「キバ」[^ɸakanaŋ ^{ki}ba] (吐くな)。^ムムン「^バハキブシャ」又「^ムmum「^ɸakibuʃa」nu] (ものを吐きたい。嘔吐しそうだ)。「ワーティキ」ワッサアヌ「^ɸネーツ」チ「^ムムン」^バハ「チャ」ン[^{wa}:tiki ^{wa}ɾɾanu「^ɸu「^{ne}:tʃi「^ムmum「^ɸa「ʃa」ŋ] (天候が悪くて船酔いをして嘔吐したくものを吐いた)。^ナーイフィ「グワー」シーヤ「シ」マ「チ」ティキ「クトウ」ニリティ「^バハカン「キバ」[^{na}:ʔiʃi「gwa:ʃi:ja」ʃi「ma」ʃi tiki「kutu」niriti ^ɸakanaŋ ^{ki}ba] (もう少ししたら島に着くから、我慢して吐くなく嘔吐するな)

^バハ「シシ」[^ɸa「ʃiʃi」] (名)

歯茎。^バハ「シシーラ」チーヌ「^ンギ」タン[^ɸa「ʃiʃi:raʃi:nu」ʔŋgi「tan」] (歯茎から血が出た)。「チーヌ」^ンギーン[^{ʃi}:nuʔŋgi:ŋ] (血が出る)。^バハ「シシヌ」ヤリ「ユビヤー」^ニンダランタン[^ɸa「ʃiʃinu」jari「jubja:」ⁿⁱndarantaŋ] (歯茎が痛くて昨夜は眠れなかった)

「ハバシヤン」[^{ha}baʃaŋ] (形)

香ばしい。いい香りがする。「ハバシヤウコー」[^{ha}baʃaʔuko:] (香ばしい線香)。^アンダー「ギー」ヌ「ハラヌ」ハバシヤ」ヌ[ʔanda:「gi:」nu「haranu ^{ha}baʃa」nu] (油揚げの匂いが香ばしくてたまらない)。「ハバシヤヌ」ハラヌ「シュン」[^{ha}baʃanu ^{ha}ranuʔʃuŋ] (香ばしい匂いがする)

^バハ「ナ」[^ɸa「na」] (名)

鼻。先端。^バハナヌ「^スアカ」スアン[^ɸananu「^{ra}ka「^{ra}ŋ」] (鼻が高い)。^バハナ「^スアカ」^ラカ「^スア」^カツ「^チユ」[^ɸana「^{ra}ka:」^{ra}katʃu] (鼻の高い人)。^バハナ「^スウ」イン[^ɸana ^θuiŋ] (涙をかむ。<涙をとる>)。^バハナ「^ビラー」[^ɸanabira:] (鼻の低い人。男のあだ名)。^バハナ「^ピ」^クー[^ɸana pi「ku:」] (鼻の低い人)。「^スィバナ」[^θibana] (岩の先端。岩の突き出たところ)

^バハ「ナイ」キ[^ɸanai「ki」] (名)

いびき (鼾)。「^ニーイ」キ[ⁿⁱ:ʔi「ki」] (鼾「寢息」の義か) という人もいる。「ウラー」^{デー}「^ジ」ナ「^バハナイキシャー」ヤル[^ʔura:「^{de}:「^{ʃi}」na「^ɸanaikiʃa:」jaru] (この人はとても鼾をかく人だ<鼾かきだ>)。「ウリガ」^バハナイキシャーマ「^{チュ}ナ」ガ「^トウ」^ニンダランタン[^ʔuriga ^ɸanaikiʃa:maʔʃuna「ga」tu「ⁿⁱndarantaŋ] (この人の鼾で一晩中眠られなかった)

^バハナ「シー」シュン[^ɸana「ʃi:ʃu」ŋ] (連)

話をする。

𐄂𐄃𐄅𐄆𐄇𐄈 [𐄉𐄊𐄋𐄌𐄍:] (名)

鼻血。「ヌブスイティ 𐄃𐄅𐄆𐄇𐄈𐄉𐄊ヌ」 ンギーン [𐄉𐄊𐄋𐄌𐄍𐄎𐄏𐄐𐄑𐄒𐄓𐄔𐄕𐄖𐄗𐄘𐄙𐄚𐄛𐄜𐄝𐄞𐄟𐄠𐄡𐄢𐄣𐄤𐄥𐄦𐄧𐄨𐄩𐄪𐄫𐄬𐄭𐄮𐄯𐄰𐄱𐄲𐄳𐄴𐄵𐄶𐄷𐄸𐄹𐄺𐄻𐄼𐄽𐄾𐄿𐅀𐅁𐅂𐅃𐅄𐅅𐅆𐅇𐅈𐅉𐅊𐅋𐅌𐅍𐅎𐅏𐅐𐅑𐅒𐅓𐅔𐅕𐅖𐅗𐅘𐅙𐅚𐅛𐅜𐅝𐅞𐅟𐅠𐅡𐅢𐅣𐅤𐅥𐅦𐅧𐅨𐅩𐅪𐅫𐅬𐅭𐅮𐅯𐅰𐅱𐅲𐅳𐅴𐅵𐅶𐅷𐅸𐅹𐅺𐅻𐅼𐅽𐅾𐅿𐆀𐆁𐆂𐆃𐆄𐆅𐆆𐆇𐆈𐆉𐆊𐆋𐆌𐆍𐆎𐆏𐆐𐆑𐆒𐆓𐆔𐆕𐆖𐆗𐆘𐆙𐆚𐆛𐆜𐆝𐆞𐆟𐆠𐆡𐆢𐆣𐆤𐆥𐆦𐆧𐆨𐆩𐆪𐆫𐆬𐆭𐆮𐆯𐆰𐆱𐆲𐆳𐆴𐆵𐆶𐆷𐆸𐆹𐆺𐆻𐆼𐆽𐆾𐆿𐇀𐇁𐇂𐇃𐇄𐇅𐇆𐇇𐇈𐇉𐇊𐇋𐇌𐇍𐇎𐇏𐇐𐇑𐇒𐇓𐇔𐇕𐇖𐇗𐇘𐇙𐇚𐇛𐇜𐇝𐇞𐇟𐇠𐇡𐇢𐇣𐇤𐇥𐇦𐇧𐇨𐇩𐇪𐇫𐇬𐇭𐇮𐇯𐇰𐇱𐇲𐇳𐇴𐇵𐇶𐇷𐇸𐇹𐇺𐇻𐇼𐇽𐇾𐇿𐈀𐈁𐈂𐈃𐈄𐈅𐈆𐈇𐈈𐈉𐈊𐈋𐈌𐈍𐈎𐈏𐈐𐈑𐈒𐈓𐈔𐈕𐈖𐈗𐈘𐈙𐈚𐈛𐈜𐈝𐈞𐈟𐈠𐈡𐈢𐈣𐈤𐈥𐈦𐈧𐈨𐈩𐈪𐈫𐈬𐈭𐈮𐈯𐈰𐈱𐈲𐈳𐈴𐈵𐈶𐈷𐈸𐈹𐈺𐈻𐈼𐈽𐈾𐈿𐉀𐉁𐉂𐉃𐉄𐉅𐉆𐉇𐉈𐉉𐉊𐉋𐉌𐉍𐉎𐉏𐉐𐉑𐉒𐉓𐉔𐉕𐉖𐉗𐉘𐉙𐉚𐉛𐉜𐉝𐉞𐉟𐉠𐉡𐉢𐉣𐉤𐉥𐉦𐉧𐉨𐉩𐉪𐉫𐉬𐉭𐉮𐉯𐉰𐉱𐉲𐉳𐉴𐉵𐉶𐉷𐉸𐉹𐉺𐉻𐉼𐉽𐉾𐉿𐊀𐊁𐊂𐊃𐊄𐊅𐊆𐊇𐊈𐊉𐊊𐊋𐊌𐊍𐊎𐊏𐊐𐊑𐊒𐊓𐊔𐊕𐊖𐊗𐊘𐊙𐊚𐊛𐊜𐊝𐊞𐊟𐊠𐊡𐊢𐊣𐊤𐊥𐊦𐊧𐊨𐊩𐊪𐊫𐊬𐊭𐊮𐊯𐊰𐊱𐊲𐊳𐊴𐊵𐊶𐊷𐊸𐊹𐊺𐊻𐊼𐊽𐊾𐊿𐋀𐋁𐋂𐋃𐋄𐋅𐋆𐋇𐋈𐋉𐋊𐋋𐋌𐋍𐋎𐋏𐋐𐋑𐋒𐋓𐋔𐋕𐋖𐋗𐋘𐋙𐋚𐋛𐋜𐋝𐋞𐋟𐋠𐋡𐋢𐋣𐋤𐋥𐋦𐋧𐋨𐋩𐋪𐋫𐋬𐋭𐋮𐋯𐋰𐋱𐋲𐋳𐋴𐋵𐋶𐋷𐋸𐋹𐋺𐋻𐋼𐋽𐋾𐋿𐌀𐌁𐌂𐌃𐌄𐌅𐌆𐌇𐌈𐌉𐌊𐌋𐌌𐌍𐌎𐌏𐌐𐌑𐌒𐌓𐌔𐌕𐌖𐌗𐌘𐌙𐌚𐌛𐌜𐌝𐌞𐌟𐌠𐌡𐌢𐌣𐌤𐌥𐌦𐌧𐌨𐌩𐌪𐌫𐌬𐌭𐌮𐌯𐌰𐌱𐌲𐌳𐌴𐌵𐌶𐌷𐌸𐌹𐌺𐌻𐌼𐌽𐌾𐌿𐍀𐍁𐍂𐍃𐍄𐍅𐍆𐍇𐍈𐍉𐍊𐍋𐍌𐍍𐍎𐍏𐍐𐍑𐍒𐍓𐍔𐍕𐍖𐍗𐍘𐍙𐍚𐍛𐍜𐍝𐍞𐍟𐍠𐍡𐍢𐍣𐍤𐍥𐍦𐍧𐍨𐍩𐍪𐍫𐍬𐍭𐍮𐍯𐍰𐍱𐍲𐍳𐍴𐍵𐍶𐍷𐍸𐍹𐍺𐍻𐍼𐍽𐍾𐍿𐎀𐎁𐎂𐎃𐎄𐎅𐎆𐎇𐎈𐎉𐎊𐎋𐎌𐎍𐎎𐎏𐎐𐎑𐎒𐎓𐎔𐎕𐎖𐎗𐎘𐎙𐎚𐎛𐎜𐎝𐎞𐎟𐎠𐎡𐎢𐎣𐎤𐎥𐎦𐎧𐎨𐎩𐎪𐎫𐎬𐎭𐎮𐎯𐎰𐎱𐎲𐎳𐎴𐎵𐎶𐎷𐎸𐎹𐎺𐎻𐎼𐎽𐎾𐎿𐏀𐏁𐏂𐏃𐏄𐏅𐏆𐏇𐏈𐏉𐏊𐏋𐏌𐏍𐏎𐏏𐏐𐏑𐏒𐏓𐏔𐏕𐏖𐏗𐏘𐏙𐏚𐏛𐏜𐏝𐏞𐏟𐏠𐏡𐏢𐏣𐏤𐏥𐏦𐏧𐏨𐏩𐏪𐏫𐏬𐏭𐏮𐏯𐏰𐏱𐏲𐏳𐏴𐏵𐏶𐏷𐏸𐏹𐏺𐏻𐏼𐏽𐏾𐏿𐐀𐐁𐐂𐐃𐐄𐐅𐐆𐐇𐐈𐐉𐐊𐐋𐐌𐐍𐐎𐐏𐐐𐐑𐐒𐐓𐐔𐐕𐐖𐐗𐐘𐐙𐐚𐐛𐐜𐐝𐐞𐐟𐐠𐐡𐐢𐐣𐐤𐐥𐐦𐐧𐐨𐐩𐐪𐐫𐐬𐐭𐐮𐐯𐐰𐐱𐐲𐐳𐐴𐐵𐐶𐐷𐐸𐐹𐐺𐐻𐐼𐐽𐐾𐐿𐑀𐑁𐑂𐑃𐑄𐑅𐑆𐑇𐑈𐑉𐑊𐑋𐑌𐑍𐑎𐑏𐑐𐑑𐑒𐑓𐑔𐑕𐑖𐑗𐑘𐑙𐑚𐑛𐑜𐑝𐑞𐑟𐑠𐑡𐑢𐑣𐑤𐑥𐑦𐑧𐑨𐑩𐑪𐑫𐑬𐑭𐑮𐑯𐑰𐑱𐑲𐑳𐑴𐑵𐑶𐑷𐑸𐑹𐑺𐑻𐑼𐑽𐑾𐑿𐒀𐒁𐒂𐒃𐒄𐒅𐒆𐒇𐒈𐒉𐒊𐒋𐒌𐒍𐒎𐒏𐒐𐒑𐒒𐒓𐒔𐒕𐒖𐒗𐒘𐒙𐒚𐒛𐒜𐒝𐒞𐒟𐒠𐒡𐒢𐒣𐒤𐒥𐒦𐒧𐒨𐒩𐒪𐒫𐒬𐒭𐒮𐒯𐒰𐒱𐒲𐒳𐒴𐒵𐒶𐒷𐒸𐒹𐒺𐒻𐒼𐒽𐒾𐒿𐓀𐓁𐓂𐓃𐓄𐓅𐓆𐓇𐓈𐓉𐓊𐓋𐓌𐓍𐓎𐓏𐓐𐓑𐓒𐓓𐓔𐓕𐓖𐓗𐓘𐓙𐓚𐓛𐓜𐓝𐓞𐓟𐓠𐓡𐓢𐓣𐓤𐓥𐓦𐓧𐓨𐓩𐓪𐓫𐓬𐓭𐓮𐓯𐓰𐓱𐓲𐓳𐓴𐓵𐓶𐓷𐓸𐓹𐓺𐓻𐓼𐓽𐓾𐓿𐔀𐔁𐔂𐔃𐔄𐔅𐔆𐔇𐔈𐔉𐔊𐔋𐔌𐔍𐔎𐔏𐔐𐔑𐔒𐔓𐔔𐔕𐔖𐔗𐔘𐔙𐔚𐔛𐔜𐔝𐔞𐔟𐔠𐔡𐔢𐔣𐔤𐔥𐔦𐔧𐔨𐔩𐔪𐔫𐔬𐔭𐔮𐔯𐔰𐔱𐔲𐔳𐔴𐔵𐔶𐔷𐔸𐔹𐔺𐔻𐔼𐔽𐔾𐔿𐕀𐕁𐕂𐕃𐕄𐕅𐕆𐕇𐕈𐕉𐕊𐕋𐕌𐕍𐕎𐕏𐕐𐕑𐕒𐕓𐕔𐕕𐕖𐕗𐕘𐕙𐕚𐕛𐕜𐕝𐕞𐕟𐕠𐕡𐕢𐕣𐕤𐕥𐕦𐕧𐕨𐕩𐕪𐕫𐕬𐕭𐕮𐕯𐕰𐕱𐕲𐕳𐕴𐕵𐕶𐕷𐕸𐕹𐕺𐕻𐕼𐕽𐕾𐕿𐖀𐖁𐖂𐖃𐖄𐖅𐖆𐖇𐖈𐖉𐖊𐖋𐖌𐖍𐖎𐖏𐖐𐖑𐖒𐖓𐖔𐖕𐖖𐖗𐖘𐖙𐖚𐖛𐖜𐖝𐖞𐖟𐖠𐖡𐖢𐖣𐖤𐖥𐖦𐖧𐖨𐖩𐖪𐖫𐖬𐖭𐖮𐖯𐖰𐖱𐖲𐖳𐖴𐖵𐖶𐖷𐖸𐖹𐖺𐖻𐖼𐖽𐖾𐖿𐗀𐗁𐗂𐗃𐗄𐗅𐗆𐗇𐗈𐗉𐗊𐗋𐗌𐗍𐗎𐗏𐗐𐗑𐗒𐗓𐗔𐗕𐗖𐗗𐗘𐗙𐗚𐗛𐗜𐗝𐗞𐗟𐗠𐗡𐗢𐗣𐗤𐗥𐗦𐗧𐗨𐗩𐗪𐗫𐗬𐗭𐗮𐗯𐗰𐗱𐗲𐗳𐗴𐗵𐗶𐗷𐗸𐗹𐗺𐗻𐗼𐗽𐗾𐗿𐘀𐘁𐘂𐘃𐘄𐘅𐘆𐘇𐘈𐘉𐘊𐘋𐘌𐘍𐘎𐘏𐘐𐘑𐘒𐘓𐘔𐘕𐘖𐘗𐘘𐘙𐘚𐘛𐘜𐘝𐘞𐘟𐘠𐘡𐘢𐘣𐘤𐘥𐘦𐘧𐘨𐘩𐘪𐘫𐘬𐘭𐘮𐘯𐘰𐘱𐘲𐘳𐘴𐘵𐘶𐘷𐘸𐘹𐘺𐘻𐘼𐘽𐘾𐘿𐙀𐙁𐙂𐙃𐙄𐙅𐙆𐙇𐙈𐙉𐙊𐙋𐙌𐙍𐙎𐙏𐙐𐙑𐙒𐙓𐙔𐙕𐙖𐙗𐙘𐙙𐙚𐙛𐙜𐙝𐙞𐙟𐙠𐙡𐙢𐙣𐙤𐙥𐙦𐙧𐙨𐙩𐙪𐙫𐙬𐙭𐙮𐙯𐙰𐙱𐙲𐙳𐙴𐙵𐙶𐙷𐙸𐙹𐙺𐙻𐙼𐙽𐙾𐙿𐚀𐚁𐚂𐚃𐚄𐚅𐚆𐚇𐚈𐚉𐚊𐚋𐚌𐚍𐚎𐚏𐚐𐚑𐚒𐚓𐚔𐚕𐚖𐚗𐚘𐚙𐚚𐚛𐚜𐚝𐚞𐚟𐚠𐚡𐚢𐚣𐚤𐚥𐚦𐚧𐚨𐚩𐚪𐚫𐚬𐚭𐚮𐚯𐚰𐚱𐚲𐚳𐚴𐚵𐚶𐚷𐚸𐚹𐚺𐚻𐚼𐚽𐚾𐚿𐛀𐛁𐛂𐛃𐛄𐛅𐛆𐛇𐛈𐛉𐛊𐛋𐛌𐛍𐛎𐛏𐛐𐛑𐛒𐛓𐛔𐛕𐛖𐛗𐛘𐛙𐛚𐛛𐛜𐛝𐛞𐛟𐛠𐛡𐛢𐛣𐛤𐛥𐛦𐛧𐛨𐛩𐛪𐛫𐛬𐛭𐛮𐛯𐛰𐛱𐛲𐛳𐛴𐛵𐛶𐛷𐛸𐛹𐛺𐛻𐛼𐛽𐛾𐛿𐜀𐜁𐜂𐜃𐜄𐜅𐜆𐜇𐜈𐜉𐜊𐜋𐜌𐜍𐜎𐜏𐜐𐜑𐜒𐜓𐜔𐜕𐜖𐜗𐜘𐜙𐜚𐜛𐜜𐜝𐜞𐜟𐜠𐜡𐜢𐜣𐜤𐜥𐜦𐜧𐜨𐜩𐜪𐜫𐜬𐜭𐜮𐜯𐜰𐜱𐜲𐜳𐜴𐜵𐜶𐜷𐜸𐜹𐜺𐜻𐜼𐜽𐜾𐜿𐝀𐝁𐝂𐝃𐝄𐝅𐝆𐝇𐝈𐝉𐝊𐝋𐝌𐝍𐝎𐝏𐝐𐝑𐝒𐝓𐝔𐝕𐝖𐝗𐝘𐝙𐝚𐝛𐝜𐝝𐝞𐝟𐝠𐝡𐝢𐝣𐝤𐝥𐝦𐝧𐝨𐝩𐝪𐝫𐝬𐝭𐝮𐝯𐝰𐝱𐝲𐝳𐝴𐝵𐝶𐝷𐝸𐝹𐝺𐝻𐝼𐝽𐝾𐝿𐞀𐞁𐞂𐞃𐞄𐞅𐞆𐞇𐞈𐞉𐞊𐞋𐞌𐞍𐞎𐞏𐞐𐞑𐞒𐞓𐞔𐞕𐞖𐞗𐞘𐞙𐞚𐞛𐞜𐞝𐞞𐞟𐞠𐞡𐞢𐞣𐞤𐞥𐞦𐞧𐞨𐞩𐞪𐞫𐞬𐞭𐞮𐞯𐞰𐞱𐞲𐞳𐞴𐞵𐞶𐞷𐞸𐞹𐞺𐞻𐞼𐞽𐞾𐞿𐟀𐟁𐟂𐟃𐟄𐟅𐟆𐟇𐟈𐟉𐟊𐟋𐟌𐟍𐟎𐟏𐟐𐟑𐟒𐟓𐟔𐟕𐟖𐟗𐟘𐟙𐟚𐟛𐟜𐟝𐟞𐟟𐟠𐟡𐟢𐟣𐟤𐟥𐟦𐟧𐟨𐟩𐟪𐟫𐟬𐟭𐟮𐟯𐟰𐟱𐟲𐟳𐟴𐟵𐟶𐟷𐟸𐟹𐟺𐟻𐟼𐟽𐟾𐟿𐠀𐠁𐠂𐠃𐠄𐠅𐠆𐠇𐠈𐠉𐠊𐠋𐠌𐠍𐠎𐠏𐠐𐠑𐠒𐠓𐠔𐠕𐠖𐠗𐠘𐠙𐠚𐠛𐠜𐠝𐠞𐠟𐠠𐠡𐠢𐠣𐠤𐠥𐠦𐠧𐠨𐠩𐠪𐠫𐠬𐠭𐠮𐠯𐠰𐠱𐠲𐠳𐠴𐠵𐠶𐠷𐠸𐠹𐠺𐠻𐠼𐠽𐠾𐠿𐡀𐡁𐡂𐡃𐡄𐡅𐡆𐡇𐡈𐡉𐡊𐡋𐡌𐡍𐡎𐡏𐡐𐡑𐡒𐡓𐡔𐡕𐡖𐡗𐡘𐡙𐡚𐡛𐡜𐡝𐡞𐡟𐡠𐡡𐡢𐡣𐡤𐡥𐡦𐡧𐡨𐡩𐡪𐡫𐡬𐡭𐡮𐡯𐡰𐡱𐡲𐡳𐡴𐡵𐡶𐡷𐡸𐡹𐡺𐡻𐡼𐡽𐡾𐡿𐢀𐢁𐢂𐢃𐢄𐢅𐢆𐢇𐢈𐢉𐢊𐢋𐢌𐢍𐢎𐢏𐢐𐢑𐢒𐢓𐢔𐢕𐢖𐢗𐢘𐢙𐢚𐢛𐢜𐢝𐢞𐢟𐢠𐢡𐢢𐢣𐢤𐢥𐢦𐢧𐢨𐢩𐢪𐢫𐢬𐢭𐢮𐢯𐢰𐢱𐢲𐢳𐢴𐢵𐢶𐢷𐢸𐢹𐢺𐢻𐢼𐢽𐢾𐢿𐣀𐣁𐣂𐣃𐣄𐣅𐣆𐣇𐣈𐣉𐣊𐣋𐣌𐣍𐣎𐣏𐣐𐣑𐣒𐣓𐣔𐣕𐣖𐣗𐣘𐣙𐣚𐣛𐣜𐣝𐣞𐣟𐣠𐣡𐣢𐣣𐣤𐣥𐣦𐣧𐣨𐣩𐣪𐣫𐣬𐣭𐣮𐣯𐣰𐣱𐣲𐣳𐣴𐣵𐣶𐣷𐣸𐣹𐣺𐣻𐣼𐣽𐣾𐣿𐤀𐤁𐤂𐤃𐤄𐤅𐤆𐤇𐤈𐤉𐤊𐤋𐤌𐤍𐤎𐤏𐤐𐤑𐤒𐤓𐤔𐤕𐤖𐤗𐤘𐤙𐤚𐤛𐤜𐤝𐤞𐤟𐤠𐤡𐤢𐤣𐤤𐤥𐤦𐤧𐤨𐤩𐤪𐤫𐤬𐤭𐤮𐤯𐤰𐤱𐤲𐤳𐤴𐤵𐤶𐤷𐤸𐤹𐤺𐤻𐤼𐤽𐤾𐤿𐥀𐥁𐥂𐥃𐥄𐥅𐥆𐥇𐥈𐥉𐥊𐥋𐥌𐥍𐥎𐥏𐥐𐥑𐥒𐥓𐥔𐥕𐥖𐥗𐥘𐥙𐥚𐥛𐥜𐥝𐥞𐥟𐥠𐥡𐥢𐥣𐥤𐥥𐥦𐥧𐥨𐥩𐥪𐥫𐥬𐥭𐥮𐥯𐥰𐥱𐥲𐥳𐥴𐥵𐥶𐥷𐥸𐥹𐥺𐥻𐥼𐥽𐥾𐥿𐦀𐦁𐦂𐦃𐦄𐦅𐦆𐦇𐦈𐦉𐦊𐦋𐦌𐦍𐦎𐦏𐦐𐦑𐦒𐦓𐦔𐦕𐦖𐦗𐦘𐦙𐦚𐦛𐦜𐦝𐦞𐦟𐦠𐦡𐦢𐦣𐦤𐦥𐦦𐦧𐦨𐦩𐦪𐦫𐦬𐦭𐦮𐦯𐦰𐦱𐦲𐦳𐦴𐦵𐦶𐦷𐦸𐦹𐦺𐦻𐦼𐦽𐦾𐦿𐧀𐧁𐧂𐧃𐧄𐧅𐧆𐧇𐧈𐧉𐧊𐧋𐧌𐧍𐧎𐧏𐧐𐧑𐧒𐧓𐧔𐧕𐧖𐧗𐧘𐧙𐧚𐧛𐧜𐧝𐧞𐧟𐧠𐧡𐧢𐧣𐧤𐧥𐧦𐧧𐧨𐧩𐧪𐧫𐧬𐧭𐧮𐧯𐧰𐧱𐧲𐧳𐧴𐧵𐧶𐧷𐧸𐧹𐧺𐧻𐧼𐧽𐧾𐧿𐨀𐨁𐨂𐨃𐨄𐨅𐨆𐨇𐨈𐨉𐨊𐨋𐨌𐨍𐨎𐨏𐨐𐨑𐨒𐨓𐨔𐨕𐨖𐨗𐨘𐨙𐨚𐨛𐨜𐨝𐨞𐨟𐨠𐨡𐨢𐨣𐨤𐨥𐨦𐨧𐨨𐨩𐨪𐨫𐨬𐨭𐨮𐨯𐨰𐨱𐨲𐨳𐨴𐨵𐨶𐨷𐨹𐨺𐨸𐨻𐨼𐨽𐨾𐨿𐩀𐩁𐩂𐩃𐩄𐩅𐩆𐩇𐩈𐩉𐩊𐩋𐩌𐩍𐩎𐩏𐩐𐩑𐩒𐩓𐩔𐩕𐩖𐩗𐩘𐩙𐩚𐩛𐩜𐩝𐩞𐩟𐩠𐩡𐩢𐩣𐩤𐩥𐩦𐩧𐩨𐩩𐩪𐩫𐩬𐩭𐩮𐩯𐩰𐩱𐩲𐩳𐩴𐩵𐩶𐩷𐩸𐩹𐩺𐩻𐩼𐩽𐩾𐩿𐪀𐪁𐪂𐪃𐪄𐪅𐪆𐪇𐪈𐪉𐪊𐪋𐪌𐪍𐪎𐪏𐪐𐪑𐪒𐪓𐪔𐪕𐪖𐪗𐪘𐪙𐪚𐪛𐪜𐪝𐪞𐪟𐪠𐪡𐪢𐪣𐪤𐪥𐪦𐪧𐪨𐪩𐪪𐪫𐪬𐪭𐪮𐪯𐪰𐪱𐪲𐪳𐪴𐪵𐪶𐪷𐪸𐪹𐪺𐪻𐪼𐪽𐪾𐪿𐫀𐫁𐫂𐫃𐫄𐫅𐫆𐫇𐫈𐫉𐫊𐫋𐫌𐫍𐫎𐫏𐫐𐫑𐫒𐫓𐫔𐫕𐫖𐫗𐫘𐫙𐫚𐫛𐫜𐫝𐫞𐫟𐫠𐫡𐫢𐫣𐫤𐫦𐫥𐫧𐫨𐫩𐫪𐫫𐫬𐫭𐫮𐫯𐫰𐫱𐫲𐫳𐫴𐫵𐫶𐫷𐫸𐫹𐫺𐫻𐫼𐫽𐫾𐫿𐬀𐬁𐬂𐬃𐬄𐬅𐬆𐬇𐬈𐬉𐬊𐬋𐬌𐬍𐬎𐬏𐬐𐬑𐬒𐬓𐬔𐬕𐬖𐬗𐬘𐬙𐬚𐬛𐬜𐬝𐬞𐬟𐬠𐬡𐬢𐬣𐬤𐬥𐬦𐬧𐬨𐬩𐬪𐬫𐬬𐬭𐬮𐬯𐬰𐬱𐬲𐬳𐬴𐬵𐬶𐬷𐬸𐬹𐬺𐬻𐬼𐬽𐬾𐬿𐭀𐭁𐭂𐭃𐭄𐭅𐭆𐭇𐭈𐭉𐭊𐭋𐭌𐭍𐭎𐭏𐭐𐭑𐭒𐭓𐭔𐭕𐭖𐭗𐭘𐭙𐭚𐭛𐭜𐭝𐭞𐭟𐭠𐭡𐭢𐭣𐭤𐭥𐭦𐭧𐭨𐭩𐭪𐭫𐭬𐭭𐭮𐭯𐭰𐭱𐭲𐭳𐭴𐭵𐭶𐭷𐭸𐭹𐭺𐭻𐭼𐭽𐭾𐭿𐮀𐮁𐮂𐮃𐮄𐮅𐮆𐮇𐮈𐮉𐮊𐮋𐮌𐮍𐮎𐮏𐮐𐮑𐮒𐮓𐮔𐮕𐮖𐮗𐮘𐮙𐮚𐮛𐮜𐮝𐮞𐮟𐮠𐮡𐮢𐮣𐮤𐮥𐮦𐮧𐮨𐮩𐮪𐮫𐮬𐮭𐮮𐮯𐮰𐮱𐮲𐮳𐮴𐮵𐮶𐮷𐮸𐮹𐮺𐮻𐮼𐮽𐮾𐮿𐯀𐯁𐯂𐯃𐯄𐯅𐯆𐯇𐯈𐯉𐯊𐯋𐯌𐯍𐯎𐯏𐯐𐯑𐯒𐯓𐯔𐯕𐯖𐯗𐯘𐯙𐯚𐯛𐯜𐯝𐯞𐯟𐯠𐯡𐯢𐯣𐯤𐯥𐯦𐯧𐯨𐯩𐯪𐯫𐯬𐯭𐯮𐯯𐯰𐯱𐯲𐯳𐯴𐯵𐯶𐯷𐯸𐯹𐯺𐯻𐯼𐯽𐯾𐯿𐰀𐰁𐰂𐰃𐰄𐰅𐰆𐰇𐰈𐰉𐰊𐰋𐰌𐰍𐰎𐰏𐰐𐰑𐰒𐰓𐰔𐰕𐰖𐰗𐰘𐰙𐰚𐰛𐰜𐰝𐰞𐰟𐰠𐰡𐰢𐰣𐰤𐰥𐰦𐰧𐰨𐰩𐰪𐰫𐰬𐰭𐰮𐰯𐰰𐰱𐰲𐰳𐰴𐰵𐰶𐰷𐰸𐰹𐰺𐰻𐰼𐰽𐰾𐰿𐱀𐱁𐱂𐱃𐱄𐱅𐱆𐱇𐱈𐱉𐱊𐱋𐱌𐱍𐱎𐱏𐱐𐱑𐱒𐱓𐱔𐱕𐱖𐱗𐱘𐱙𐱚𐱛𐱜𐱝𐱞𐱟𐱠𐱡𐱢𐱣𐱤𐱥𐱦𐱧𐱨𐱩𐱪𐱫𐱬𐱭𐱮𐱯𐱰𐱱𐱲𐱳𐱴𐱵𐱶𐱷𐱸𐱹𐱺𐱻𐱼𐱽𐱾𐱿𐲀𐲁𐲂𐲃𐲄𐲅𐲆𐲇𐲈𐲉𐲊𐲋𐲌𐲍𐲎𐲏𐲐𐲑𐲒𐲓𐲔𐲕𐲖𐲗𐲘𐲙𐲚𐲛𐲜𐲝𐲞𐲟𐲠𐲡𐲢𐲣𐲤𐲥𐲦𐲧𐲨𐲩𐲪𐲫𐲬𐲭𐲮𐲯𐲰𐲱𐲲𐲳𐲴𐲵𐲶𐲷𐲸𐲹𐲺𐲻𐲼𐲽𐲾𐲿𐳀𐳁𐳂𐳃𐳄𐳅𐳆𐳇𐳈𐳉𐳊𐳋𐳌𐳍𐳎𐳏𐳐𐳑𐳒𐳓𐳔𐳕𐳖𐳗𐳘𐳙𐳚𐳛𐳜𐳝𐳞𐳟𐳠𐳡𐳢𐳣𐳤𐳥𐳦𐳧𐳨𐳩𐳪𐳫𐳬𐳭𐳮𐳯

ai¹ jataru] (今日は安良村の外海を回ったがカツオ鳥の鳥巻に一度も当たらないで、空船で帰ってきたよ。^バハライであった。まんく間。運>が悪かった)

^バハンダイ [「^ɸɸandai] (名)

はなだれ (洩垂)。「^バハンダイ」 スウイン [「^ɸɸandai θuin] (洩をかむ。洩を取る)。「^バハナ」 スィ「^ɸプイン [「^ɸɸana θi¹puin] (母親が乳児の洩を吸い取る)。

^バハン「^ɸダヤー [「^ɸɸan¹daja:] (名)

洩を垂らした子供。洩垂れ小僧。昔は洩を垂らした子供が多かった。

「^ɸハビン [「^ɸhabin] (動)

かぐ (嗅ぐ)。「ハラ ハビン [「hara habin] (匂いを嗅ぐ)。「^ɸビヒーヌ 「ハラツチ」 ^ɸビヒー 「^ɸビヒヤンタイヤ [「^ɸɸi:nu 「haratʃi¹ ɸɸi: 「^ɸɸijantaija] (屁の匂いがするが、屁をへく放>なかったか。放屁しなかったか)。「^ɸハバン [「^ɸhaban] (嗅がない)。「ヌーン ハバン スアン [「nu:n haban ran] (何の匂いもしない)。「ハラー ハバン [「hara: haban] (匂いを嗅がない)。「ハラー ハバン」キ「^ɸバ [「hara: haban¹ki¹ba] (匂いを嗅ぐなよ)。「ハラー」 ハ「^ɸラ「^ɸン [「hara: ɸ¹ ha¹ra¹n] (匂いを嗅いだ)。「ハラー ハ「^ɸリナー「^ɸン [「hara: ha¹rina: ɸ¹n] (匂いを嗅いでしまった)。「ハラー ハラ「^ɸン 「^ɸムンヌ [「hara: hara¹m ɸ¹munnu] (匂いを嗅いでしまった)。

ハ「^ɸミン [ha¹mi¹n] (動)

かむ (噛む)。「ハ「^ɸマン [ha¹man] (噛まない)。「ユー 「^ɸハンバ [ɸju: 「hama mba] (よく噛みなさい)。「ユー 「^ɸハン [ɸju: 「haran] (よく噛んだ)。「ハミ「^ɸブジャン [hami¹buʃan] (噛みたい)。「ユー ハ「^ɸミーヤ「^ɸウジニー 「^ɸナイン [ɸju: ha¹mi:ja¹ ɸ¹uʃini: 「nain] (よく噛むと滋養になる)。「ハミ「^ɸキーン [hami¹ki:n] (噛み切る)。「ハミ「^ɸキチャン [hami¹kifan] (噛み切った)

「^ɸハラ [「hara] (名)

匂い。「ハラヌ シュン [「haranu ʃun] (匂いがする)。「ヌー「^ɸガラヌ ハラヌ「^ɸシュン [nu: ɸ¹garanu haranu¹ ʃun] (何かの匂いがする)。「^ɸハバシャヌ ハラヌ「^ɸシュン [「habaʃanu haranu¹ ʃun] (香ばしい匂いがする)

「^ɸハラタニゲー [「haratanige:] (名)

健康祈願。「体願い」の義。「ハラタル」 デー「^ɸイチ ヤル [「harataru¹ de: ɸ¹ifijaru] (体が第一である)。正月元旦の日に、外間ノロと外間ニーツチュ (外間根人)が村民の健康祈願をする。各家庭では旧暦の一日 (朔日)、十五日に「スィーンユ「^ɸタ [「θi: nju¹ ta]が健康祈願をした。久高島の祈願は、健康祈願、豊作祈願、大漁祈願の三つが基本になっている。旧暦二月にウプヌシガナシのウガンダティがある。その時にイシキ浜での祈願もなされる。その祭、男子の十六歳から七十歳までの人

に、マーイシ（真石）を一人宛て三個ずつ拾って持ち帰り、各家の床の間に置く。シワーシ（十二月）のウブクイ（願解き）には、この石をイシキ浜に返す。この石を拾って崇めるのは、健康祈願のためである。久高島のカツオ漁船の船主は、イシキ浜の海水を三合瓶に入れて船霊に供えた。カツオの群れに寄り付けないときには、その海水を舐先に少量ずつ垂らしたり、船に付着した海苔を落として船を清潔にしたりして、お祓いをした。

「ハリトゥー」ン[^hharitu:^ŋ]（動）

腫れている。顔が腫れている。むくんでいる。

「ハリリ」[^hhariri]（名）

頭髮。女性の頭髮。「ハリリギー」[^hharirigi:]（髪の毛）。「ハリリ」^h「ユーイン」[^hhariri ^{ju:iŋ}]（髪を結う。女性が頭髮を結び上げる）。「ハリリ」^h「アレー」ン[^hhariri ^{ʔare:^ŋ}]（髪を洗う）。ミカ^h「シャー」^h「アガリ」^h「ワキノ」^h「ンチャ」^h「シャーマル」^h「ユナグン」^h「シャーヤ」^h「ハリ」^h「ラー」^h「アレータロ」[mika^hʔa:^ŋ ʔagari^hwakinu^hnʃa^hʃa:maru^h junaguŋ^hʃa:ja^h hari^hra:^ŋ ʔare:taro]（昔はアガリワキノ地名の粘土で女性達は髪を洗っていた）。「アレーガミ」[^hʔare:gami]（洗い髪）。「ティブル」^h「アレー」ン[^htiburu ^{ʔare:^ŋ}]（頭を洗う。男性が頭髮を洗う際にいうことば）。「ハリリ」^h「スアバキ」ン[^hhariri ^{rabaki^ŋ}]（髪を梳かす。梳る）

「ハンジュン」[^hhanʃuŋ]（動）

かぶる（被る）。「ハン」^h「ダン」[han^hdaŋ~ han^hraŋ]（被らない）。「ハンタン」[^hhantaŋ]（被った）。「ハンディバ」[^hhandiba]（被れ）。「ハンジ」^h「ブシャン」[hanʃi^hbuʃaŋ]（被りたい）。「ハン」^h「リバ」^h「スイミン」^h「ムン」^hヌ[han^hriba^h θimim^hmun^hnu]（被ればよいのに）。「フバガスタ」^h「ハンジュン」[^hʔubagara^h hanʃuŋ]（クバ笠をかぶる）

ハン「マ」キ[ham^hma^hki]（名）

しもやけ。あかぎれ（皸）。「寒負け」の義。「スイヌ」^hハン「マキ」^h「ツチャー」ン^h「バー」^h「イ」^h「アランパ」^h「プリー」^h「ガ」^h「イ」^h「キーヤ」^h「ヤリ」^h「キヤー」ン^h「ナラン」[^hθi:nu ham^hmaki tʃu:^ŋm ba:ⁱ ʔarampa puri:^ŋga ʔi^hki:ja^h jari^hkja:^ŋn^hnaraŋ]（手が皸<あかぎれ>しているときにアダン葉を採りに行くと、手が痛くてたまらない）

ハン「ルー」[han^hru:]（名）

寒露（太陽暦の10月9日頃）。

「ヒー」ン[^hçi:^ŋ]（動）

死ぬ。「ヒヤン」[^hçijaŋ]（死なない）。「ヒーブシャン」[^hçi:buʃaŋ]（死にたい）。「ナマ」^h「ヒヤネー」^h「ン」^h「ナマ」^h「çijane:」[^hnama^h çijane:]（まだ死なないか）。「ヒヤン」^h「キ」^h「バ」[^hçijaŋ^hki

「ba] (死ぬなよ)。「ヒジャン」[「çiɕaŋ] (死んだ)

ピ「ケーイン」[pi「ke:iŋ] (動)

かかえる (抱える)。「ワチャ「カイ」 ピ「ケーイン」[waɕa「kai」 pi「ke:iŋ] (腋に抱える)。「ピ「ケータン」[pi「ke:taŋ] (抱えた)。「ピ「ケーラン」キ「バ」[pi「ke:raŋ」ki「ba] (抱えるな)。「ピ「ケータン」[pi「ke:taŋ] (抱えた)。「ピ「ケーリバ」[pi「ke:ri:ba] (抱えなさい)

「ピジ」[「piɕi] (名)

ひげ (髭)。「ピジ」 スウイン」[「piɕi」 θuiŋ] (髭を剃る)。「ワーピジ」[「wa:piɕi] (上髭)。「ワー「ピ」ジ 「ミーラチュー」ン」[wa:「pi」ɕi 「mi:raɕu:」ŋ] (上髭をたくわえている<生やしている>)。「ワーピジャー」[「wa:piɕa:] (上髭をたくわえた人)

「ピジ」[「piɕi] (名)

ひじ (肘)。「ピジヌ」 ヤ「ミン」[「piɕinu」 ja「miŋ] (肘が痛い)。「ピジシャーマ ティキ」ン」[「piɕiɕa:ma tiki」ŋ] (肘で突く)。「ピジシャーマ クワーシュ」ン」[「piɕiɕa:ma kwa:ɕu」ŋ] (肘で喰らわす)

ピ「シャ」[pi「ɕa] (名)

足。足首より下の部分。「ピ「シャヌ」 ピャー「スアン」[pi「ɕanu」 pja:「raŋ] (足が速い)。「アッキビャー「スアン」[ʔakkibja:「raŋ] (歩き早い)。「ピ「シャヌ」 ンブスア ナ」ティ アッキ「ハンティ シュン」[pi「ɕanu ʔmbura na」ti ʔakki「hanti ɕuŋ] (足が重くなって歩きにくくなった)

ピ「シャガタ」[pi「ɕagata] (名)

足跡。「ピ「シャガタヌ」 ミー」ン」[pi「ɕagatanu」 mi:「ŋ] (足跡が見える)。「ピ「シャガタシャーマ スアー」 チュー「スアー」 スュー「ゲー」 ワカ「イスアー」[pi「ɕagataɕa:ma ra:」 ɕu:「ra:」 θe:「ge:」 waka「ira:] (足跡で、誰だということとは大概わかるよ)

ピ「シャクビ」[pi「ɕakubi] (名)

あしくび (足首)。「ピ「シャクビヌ」 グマ「スアン」[pi「ɕakubinu」 guma「raŋ] (足首が小さい)

ピ「シャヌワタ」[pi「ɕanuwata] (名)

足の裏。「足の腹」の義か。「ワラ「グター」 クマンヨーマ イユ クワーシーガ イキヤーマ」 ウイ 「クリ」 ピ「シャヌワタ」 スアスアツティ」 ヤリ 「キヤーン」 ナラン「タン」[wara「guta: kumaŋjo:ma ʔiju kwa:ɕi:ga ʔikja:ma」 ʔui 「kuri」 pi「ɕanuwata raɕatti」 jari 「kja:n」 naran「taŋ] (わらじ<草鞋>を履かないで魚釣りに行って、ウニ<海栗>を踏んで、足の裏に刺さって痛くてたまらなかつた<どうにもならなかつた>)。「ミカ「シャー」 ガッコーチン」

ハラ「ピシャル イキタル[mikaʔja: gakko:ʃiŋʔ haraʔpiʃaru ʔikitaru] (昔は学校にも裸足で行った)

ピ「シャブク[piʔʃabuku] (名)

くるぶし(踝)。漁師はサバニ(くり舟)のスアシカ[raʃika] (床板)に正座して漕ぐので踝が大きくなったという。

ピ「シャベール[piʔʃabe:] (名)

足の甲。ティー「ベールピシャベール[ti:ʔbe:piʃabe:] (手の甲、足の甲)。「フシ」ヌ「ヤミンチョー」ピ「シャベール」チ スア「ガティ プッキーン」[ʔuʃiʔnu ʔjaminʃo:ʔ piʔʃabe:ʔʃi raʔgati pukki:ŋ] (腰の痛い人は、足の甲に下がって足の甲が腫れる)

ピ「シャマンキ[piʔʃamaŋki] (名)

正座。ひざまずき<跪き>。「チュヌ メーカーヤ」ピ「シャマンキッチ ギーン」[ʔʃunu me:kaja:ʔ piʔʃamaŋkitʃi gi:ŋ] (人の前では正座する<跪いて座る>)。「キヌーヤ」ブリー「シャビタンツ」チ ピ「シャマン」キ「ハキティ」ワビシーガ「チュー」タサー「kinu:ja ʔburi: ʔʃabitantʔʃi piʔʃamaŋki ʔhakiti ʔwabi ʃi:ga ʃu:ʔtara:] (昨日はご無礼いたしましたといつて、正座して詫びをしに来ていたよ)。ピ「シャマンキ シュン」[piʔʃamaŋki ʃuŋ] (正座する)

ピ「ジル「アスイ」[piʃiruʔʔa θi] (名)

冷や汗。寝汗。ピ「ジル「アスイ」ハ「キン」[piʃiruʔʔa θi haʔkiŋ] (寝汗をかく)。「アンネー」ウルルカ「サリヤーマ」ピ「ジュル「アスイ」ハチャン」[ʔanne:ʔʔururukaʔsarija:maʔ piʃuruʔʔa θi haʃaŋ] (あれに驚かされて冷や汗をかいた)

ピ「スウ「ルシ」[piθuʔruʃi] (名)

ひよめき(しん門)。ピ「スウ「ルシヌ」ウイ「チューン」[piθuʔruʃinuʔʔuiʔʃu:ŋ] (ひよめきが動いている。生後六ヶ月ごろまでには、ひよめきの動きは止まる)。「タンカーマリーカヤ」ハタマイガ「シュラ」[ʔtaŋka:mari:kaja: hatamaigaʔʃura] (誕生日までには固まるかなあ)

ピ「チャイ[piʔʃai] (名)

ひたい(額)。ピ「チャイ」ヌ「マジ」スアン「piʔʃaiʔnu magiʔraŋ] (額が大きい)。「スウジ」ナヤ「グラン」[θuʃiʔnaja: guraŋ] (妻になる人はいない)

ピ「チャイン[piʔʃaiŋ] (動)

光る。ピ「チャティ」[piʔʃati] (光って。まぶしくて。光線が強くて目が開けられない)。「スイラヌ」ピ「チャ」イ「ジュースアヌ」ミーヌ「アキララ」ン「バー」イ

ン¹ アン[¹ θiranu pi¹ʃa¹i ʃu:ɾanu¹ mi:nu ʔa¹kirara¹m ba:¹iŋ¹ ʔaŋ] (太陽光線が強くて目が開けられないときもある)。ピ¹「チャ¹ティ¹」¹シューン[p i¹ʃa¹ti¹ ʃu:ŋ] (まぶしくなる<光ってくる>)。ピ¹「チャ¹タン」[pi¹ʃa¹taŋ] (まぶしかった<光った>)。ピ¹「チャ¹トウ¹タン」[pi¹ʃa¹tu:taŋ] (まぶしかった<光っていた>)。ピ¹「チャ¹ティ¹」¹「キヤー¹ン¹」¹ナラン[¹piʃati¹ ʃja:¹n¹ ʔnaraŋ] (まぶしくてたまらない<光ってどうにもならない>)

「ヒッ¹「チャ¹キ」」[¹çit¹ʃaki] (名)

つまずき (躓き)。「ヒッ¹「チャ¹キ」¹「チャン」」[¹çit¹ʃakiʃaŋ] (躓いた)。「ヒッ¹「チャ¹キヤー¹」¹「スアン」」[¹çit¹ʃakja:¹ ɾaŋ] (躓きはしない)。「ヒッ¹「チャ¹キ」¹「スアン」」[¹çit¹ʃaki ɾaŋ] (躓かない)。「ヒッ¹「チャ¹キ」¹「シャー¹マ」¹「ドウ¹ゲー¹ツ¹」¹「タン」」[¹çit¹ʃakiʃa:ma¹ duge:t¹ taŋ] (躓いて転んだ)。

「ヒッ¹「チャ¹キ」¹「ピッ¹「チャ¹キ」」」[¹çit¹ʃaki¹pit¹ʃaki] (名)

躓くこと。「ヒッ¹「チャ¹キ」」[¹çit¹ʃaki] (躓き)のABCDEBCD型重言。

「ビ¹「ヒー¹」」[¹pʰi:¹] (名)

へ (屁)。おなら。「ビ¹「ヒー¹」¹「ン」」[¹pʰi:¹ ʃpʰi:¹ŋ] (屁をへる<放る>。放屁する)。「ビ¹「ヒー¹」¹「ビヤ¹ン¹キバ¹」¹「ク¹ス¹ア¹ス¹ア¹」¹「ナイ¹」¹「ク¹ト¹ウ¹」」[¹pʰi:¹ ʃpʰija:¹ŋkiba¹ kurara¹nai¹kutu] (放屁するなよ。臭くなるから)。「ビ¹「ヒー¹」¹「ビ¹「チャン」」」[¹pʰi:¹ ʃpʰi:ʃaŋ] (屁をへった。放屁した)。「ビ¹「ヒー¹」¹「ン¹バー¹イ」」[¹pʰi:¹ ʃpʰi:¹m¹ ba:i] (放屁するとき)

「ビ¹「ヒング」」[¹pʰiŋgu] (名)

あか (垢)。体の汚れ。鍋墨。黒い煤煙。「竈黒<へぐろ>」の義か。「フィン¹グ」[ʃiŋgu] (垢)ともいう。「ビ¹「ヒング」¹「ウト¹ウ¹シュ¹ン」」[¹pʰiŋgu ʔutuʃu¹ŋ] (垢を落とす。体の汚れを落とす)。「ド¹ウ¹ヌ¹」¹「アカ」¹「ウト¹ウ¹シュ¹ン」」[¹du:nu ʔaka ʔutuʃu¹ŋ] (体の垢を落とす)ともいう。

「ピ¹「ミ¹「キ」」」[¹pimi¹ki] (名)

ぜんそく (喘息)。「ピ¹「ミ¹「キ」¹「シュン」」」[¹pimiki ʃuŋ] (喘息の発作が起きる<喘息する>)。「ピ¹「ミ¹「キヤー」」」[¹pimikja:] (喘息持ち)。

「ピ¹ム」[¹pimu] (名)

こめかみ。「ティ¹ブ¹ンヌ¹」¹「ヤリ」¹「ピ¹ム¹カイ¹」¹「ホー¹」¹「ヤク¹」¹「ハ¹タン」」[¹tibunnu¹ jari¹ pimukai¹ ho:¹jaku¹ pʰataŋ] (頭痛がして、こめかみに膏薬を貼った)

「ピ¹ル¹グ¹ミン」[¹pʰirugumiŋ] (動)

しびれる (痺れる)。「ピ¹ル¹グ¹マン」[¹pʰiruguman] (痺れない)。「ピ¹ル¹グ¹ラン」[¹pʰiru¹gu¹raŋ] (痺れた)。「ピ¹ル¹グ¹リ¹」¹「ナー¹ン」」[¹pʰiruguri¹ na:¹ŋ] (痺れてしまった)。「ピ¹「シャ¹ヌ」¹「ピ¹ル¹グ¹リ¹」¹「ス¹ア¹タ¹ラン」」[¹piʃanu¹ pʰiruguri¹ rata¹raŋ]

(足が痺れて立てない)。スィー「ピシヤヌ ピルグミン[θi:「piʃanu p̄rugumiŋ]
(手足が痺れる)。「ピルグルーン[「p̄ruguru:ŋ] (痺れている)

「ファイ[「Φui] (名)

こえ (声)。「ファイヌ」 マギ「スァン[「Φuinu magi「raŋ] (声が大きい)。「ファイ
チキタン[「Φui ʃikitaŋ] (安否を確認したく声を聞いた)。「ヤー ファイ チキ
タン[「ja: Φui ʃikitaŋ] (君の安否を尋ねていたよ)。「ファイ 「ンギャシュン[「Φui
「ʔŋgjaʃuŋ] (声を出す)。「ファイヌ 「ハリーン[「Φuinu 「hari:ŋ] (声がかかる)。
マギ「ファイ[magi「Φui] (大声)

フィー「フィーグワー[Φi:「Φi:gwa:] (名)

口笛。フィー「フィーグワー」 プキン[Φi:「Φi:gwa:「 p̄kiŋ] (口笛を吹く)

「フガ[「Φuga] (名)

睾丸。ヤツ「クァン[jak「kwaŋ] (睾丸) ともいう。ヤツ「クワナー[jak「kwana:]
(睾丸の大きな人) ともいう。

「フ」ギ[「Φu「gi] (名)

陰毛。「フギヌ」 ミー「タン[「Φuginu mi:「taŋ] (陰毛が生えた)

「プキン[「p̄kiŋ] (動)

吹く。吸う。「スァバク 「プキン[「raʔaku 「p̄kiŋ] (煙草を吸う)。「スァバ「ク
ル」 プチ ギ「チュール[raʔa「kuru puʃi gi「ʃu:ru] (煙草を吸って座ってい
る)

「プキン[「p̄kiŋ] (動)

吹く。「プカン[「p̄kaŋ] (吹かない)。「プチャン[「puʃaŋ] (吹いた)。「スァバク
「プキン[「raʔaku 「p̄kiŋ] (煙草を吸う<吹く>)。

「ブク[「buku] (名)

こぶ (瘤)。「膨れているもの」の義。kobu→bukuのように[k]と[b]が音位転倒し
たものである。「ブクヌ」 ンギーン[「bukunu ʔŋgi:ŋ] (瘤がでる)。^バハ「シラ」チ
「ティブン ウ「チャーマ」 ブクヌ ンギ「タン[「p̄ʃa「ʃira「ʃi 「tibuŋ ʔu「ʃa:
ma「 bukunu ʔŋgi「taŋ] (柱に頭を打って瘤をこしらえた<瘤が出た>)

フ「クミン[Φu「kumiŋ] (名)

芯のあるテンプラ。アンダー「ギー[ʔanda:「gi:] (油あげ。芯のないテンプラ) に
対していう。「ウヌ イユシャーマ」 フク「ミン アギリバ[「ʔunu ʔijuʃa:ma「
Φuku「miŋ ʔagiriba] (この魚でフクミン<芯のある、魚芯テンプラ>を揚げなさい)。
「ウヌ イユ スァバ」チ フク「ミンヌ シン スィバ[「ʔunu ʔiju raʔa
「ʃi Φuku「minnu ʃin θiba] (この魚をさばい<捌い>てフクミンの芯にしな
さい)

「フシ」[「Φuʃi」] (名)

こし (腰)。「フシヌ」 ヤミン 「ナマー」 ノー「トゥーヤビーン」[「Φuʃinu」 ja min 「nama:」 no:「tu:jabi:ŋ」] (腰の痛みも今は治っておりますよ)。フ「シヌ」 ヤリ アッキ「ハンティ シュン」[Φuʃinu」 jari ʔakki「hanti ʃuŋ」] (腰が痛くて歩きにくくなった<歩き兼ねする。歩くのが困難になる>)

フ「シナガリ」[Φuʃinagari] (名)

せなか (背中)。背筋。「スアキヌ スアカ」スアクトウ」 スア「キブントウ」 ウ「チャー」ティ フ「シナガリン」 シュラ「スアン」[「rakinu raka「rakutu」 ra「kibuntu」 ʔu「ʃa:」ti Φuʃinagariŋ」 ʃura「raŋ」] (背が高いので身長と似合って背筋が見事だ<美しい>)。「フシ」[「Φuʃi」] (腰) ともいう。

フ「シブン」[Φuʃibuŋ] (名)

腰骨。フ「シブンヌ」 ヤミン[Φuʃibunnu」 jamiŋ] (腰骨が痛い)。フ「シブンヌ」 グリ「タン」[Φuʃibunnu」 guri「taŋ」] (腰骨が折れた)。フ「シブン」 グ「タン」[Φuʃibuŋ」 gu「taŋ」] (腰骨を折った) ともいう。

プ「シングワーン」[puʃingwa:ŋ] (名)

健康祈願。昔は毎月の初め (朔日)、15日に、「スィーンユ」タが健康祈願をした。

「プッキーン」[「pʊkki:ŋ」] (動)

はれる (腫)。「プッキタン」[「pʊkkitaŋ」] (腫れた)。「プッキトゥーン」[「pʊkkitu:」ŋ] (腫れている)。ガジャー「ネー」 スアスアリ「ヤーマ プッキトゥーン」[gaʒa:「ne:」 rʌrari「ja:ma pʊkkitu:ŋ」] (蚊に刺されて腫れている)。「ティラヌ」 「プッキトゥーン」[「tiranu」 「pʊkkitu:ŋ」] (顔をふくらま<膨らま>せている。立腹している)。

プ「ッチャギ」[putʃagi「raŋ」] (形)

可愛い。「アラー」 デー「ジナ」 プ「ッチャギ」スアヌ」 ワラビ 「ヤル」[「ʔara:」 de:「ʒina」 pʊtʃagi「raŋu」 warabi 「jaru」] (あれはとても可愛い子だ)。「アヌ」 ックワー ヌーン「ン」 プ「ッチャギ」スアー」 ナーン[「ʔanu kkwa: nu:」 m putʃagi「ra:」 na:ŋ」] (あの子はちっとも<何も>可愛くない)。ミカ「シャー」 プ「ッチャギ」スアタン」ドー[mika「ʃa:」 putʃagi「ratan」 do:] (昔は可愛かったよ)。「ンナシャーマ」 プ「ッチャギ」スアンチ イチュータスアー[「nnaʃa:ma」 putʃagi「raŋʃi ʔiʃu:ta:ra:」] (みんなで可愛いと言っていたよ)

プ「フーフー」グワー」[pʊu:pʊu:「gwa:」] (名)

こうもん (肛門)。「ジー」ヌ 「ンギティ」 ヤリ 「ギチャー」 グララン[「ʒi:」nu ʔŋgiti ʔjari 「giʃa: guraraŋ」] (痔病が出て痛くて座っておれない)。「ティビ」ヌ 「ヤミン」[「tibi」nu ʔjamiŋ」] (尻が痛い) ともいう。

「プフスウ」[「pʊu θu」] (名)

へそ (臍)。「ティンブ」スウ[^ɾtimbu^ɾ θu] (出べそ)。「フソー」デー「ジナ ト
ウクマ」ドー[^ɾp̚θu θo:^ɾ de:^ɾʃina tukuma^ɾdo:] (お臍は大切なところだよ)
「フフン」[^ɾp̚θu^ɾŋ] (名)

骨。「フフンヌ」グリ「タン」[^ɾp̚θunnu^ɾ guri^ɾtaŋ] (骨が折れた)。「フフンヌ」ア
ラスアン[^ɾp̚θunnu^ɾ ʔaraŋaŋ] (骨が太い)。「アラブニー」[^ɾʔarabuni:] (骨太の
人)。

「ブン」[^ɾp̚uŋ] (船)

「フンダ」[^ɾθunda] (名)

ふくらはぎ (脛脛)。脛の後ろの筋肉。

フンダ「アガイ」[^ɾθunda^ɾʔagai] (名)

こむら返り。「コムラカヘリ『和名類聚抄』(3)」。「ニントゥーティ」ン フンダ「
アガイッチ」ヤリ 「ウクスアリー」ン 「バーン」アスアー[^ɾnintu:ti^ɾŋ θun
da^ɾʔagaitʃi^ɾ jari^ɾʔukurari:^ɾm^ɾba:^ɾʔara:] (寝ていても、こむら返り
をして、痛くて起こされることもあるよ)

へー「イン」[he:^ɾiŋ] (動)

ふとる (太る)。肥える。へー「トゥー」ン[he:^ɾtu:^ɾŋ] (肥えている)。へー「ラン」[h
e:^ɾraŋ] (肥えない)。「チャッピ」カティ」ン へー「ラン」[^ɾʃappi kati^ɾŋ he:^ɾ
raŋ] (いくら食べても肥えない)。へー「ター」グラン[he:^ɾta:^ɾguraŋ] (肥えて
はいない)。へー「トゥーンシャコー」ドゥー 「プリバ」[he:^ɾtu:ŋʃako:^ɾ du:
「puriba」 (肥えていたら体を動かしなさい)。「へーヤー」[^ɾhe:ja:] (肥えた人)。へ
ー「トゥーヌ」アカングワ[he:^ɾtu:nu^ɾʔakangwa] (肥えている赤ちゃん)。「へー
ヤーアカングワ」[^ɾhe:ja:^ɾʔakangwa] (肥えた赤子)

「へーナ」[^ɾhe:na] (名)

かいな (肩から肘までの間)。上腕部。「へーナヌ」ヤリ[^ɾhe:nanu^ɾ jari] (上腕
部が痛い)。「カラシグトゥ」シミラリヤーマ」へー「ナ」ヌ 「ヤリ」「キヤー」ン
ナ「ラ」ン[^ɾʃi^ɾkaraʃigutu^ɾʃimirarija:ma^ɾ he:^ɾna^ɾnu^ɾ jari^ɾkija:^ɾŋ n
a^ɾra^ɾŋ] (力仕事をさせられて腕が痛くてたまらないく仕方がない)

ホーガー「キー」[ho:ga:^ɾki:] (名)

頬被り。「頬掛け」の義か。寒い時にタオルで頬被りをする。ホーガー「キー」シュ
ン[ho:ga:^ɾki:^ɾʃu^ɾŋ] (頬被りをする)。

「ホー」ウカイン[^ɾp̚θo:^ɾʔukaiŋ] (連)

性交する。「ウカイン」[^ɾʔukaiŋ] (性交する)。「ウカ」タン[^ɾʔuka^ɾtaŋ] (性交した)。
ウカ「ランタン」[^ɾʔuka^ɾrantaŋ] (性交しなかった)。「ウカ」ラン[^ɾʔuka^ɾraŋ] (性交し
ない)。動物の交尾は、ティル「ビン」[^ɾtiru^ɾbiŋ] (交尾する)という。「インヌ」ティ

ル「ルー」ン[¹ʔinnu tiru¹ru:¹ŋ] (犬が交尾している)

「ホー」[¹pʰo:] (名)

いんもん (陰門)

ホー「イン」[¹pʰo:¹iŋ] (動)

はう (這う)。ホー「ラン」[¹pʰo:¹raŋ] (這わない)。ホー「タン」[¹pʰo:¹taŋ] (這った)。

ホー「トゥーン」[¹pʰo:¹tu:¹ŋ] (這っている)。「アカングワン」¹ホー「インネー」チ
「ナタン」[¹ʔakangwanu¹ pʰo:¹inne:¹ʔi¹ natan] (赤ん坊が這うようになった)

「マーチャン」[¹ma:¹ʃaŋ] (動)

亡くなられた。「死ぬ」の敬語。ウフ「シューヤ マーツチャン」[¹ʊpʰu¹ʃu:ja ma
a:¹tʃaŋ] (お祖父さんは亡くなられた)。「マーツ」チ ナー「ン」[¹ma:¹tʃi¹ na:¹ŋ]
(亡くなられてしまった)。「ナマ マースァン」[¹nama ma:¹raŋ] (まだ亡くなられ
ない)。「マースァン」キ「バ」[¹ma:¹raŋ¹ki¹ba] (亡くなられるな)

「マガイン」[¹magaiŋ] (動)

かがむ (屈む)。「フシ マガ」ティ 「ムン」¹「スウイン」[¹ʰuʃi maga¹ti¹ mun
ʰuiŋ] (腰が曲って、<かがんで>物を取る)。「スウシ」¹「スウヤーマ フシヌ
マガトゥー」ン[¹ʰuʃi¹ ʰuja:ma ʰuʃinu magatu:¹ŋ] (年をとって腰が曲が
っている)。「スウシ」¹「スウヤーマ ホーグ マガ」ティ ナー「ン」[¹ʰuʃi¹ ʰuja:
ma ho:gu maga¹ti na:¹ŋ] (年をとって腰が曲がってしまった)。「マガ」ティ
「ギチューン」[¹maga¹ti¹ giʃu:¹ŋ] (うずくまっている)

マジ「ヤマシ」[magi¹jamaʃi] (名)

大怪我。マジ「ヤマシ チャ」ン[¹magi¹jamaʃi ʃa¹ŋ] (大怪我をした)

「マ」ク[¹ma¹ku] (名)

陰茎。「マクヌ」¹ナガ「スァン」[¹makunu¹ naga¹raŋ] (陰茎が長い)

「マグイ」[¹magui] (名)

しわ (皺)。マグ「トゥー」ン[¹magu¹tu:¹ŋ] (皺になっている)。「マグリティ」[¹ma
guriti] (皺になっている)。「アリガ ティラー」¹アン「チ マグリトゥー」ン
「ムノー」[¹ʔariga tira:¹ ʔan¹ʃi maguritu:¹m¹ muno:] (あの人の顔は、あ
んなに皺だらけになっていることよ)。「マ」グティ「 ナー」ン[¹ma¹guti¹ na:¹ŋ] (皺
がよってきた)。「マグイ」¹「ナ」ティ 「チャン」[¹magui¹ na¹ti¹ ʃaŋ] (皺がよ
ってきた)

マタ「バスィ」[mata¹ba ʰi] (名)

また (股)。「マタ」[¹mata] (股)ともいう。「マタ」¹「スイーン」[¹mata¹ ʰi:¹ŋ] (股
ずれする)。「アツ」¹「キーヤ」¹マタ「バスィヌ スィティ」¹ヤミン[¹ʔak¹ki:ja¹

mata「ba θinu θiti」jamiŋ] (歩くと股ずれして痛む)。「スィーロン」[「θi:」ŋ] (擦る)。スィリ「ラン」[θiri「raŋ] (擦れない)。「スィリーン」[「θiri:」ŋ] (擦れる)
 マタ「バスィゴージャ」ク[mata「ba θigo:ja」ku] (名)

あっち付き、こっち付きする者。信用できない人。

「マユ」[「maju」] (名)

まゆ(眉)。アカ「マユー」[?aka「maju:」] (眉の赤い人)。「マユヌ」 マギ「スァン」[「majunu」 magi「raŋ] (眉が大きい)。「マギマユ」[「magimaju」] (眉の大きな人)。
 ピスィ「マ」ユ[pi θi「ma」ju] (眉の薄い人)。「マユヌ」 「ピッサスィ」ン グ「ヤー
 スァネー」[「majunu 「pirra θi」ŋ gu「ja:raŋe:」] (眉の薄い人もいるのではないか)

「マンタ」[「manta」] (名)

まぶた(瞼)。チュカー「ミー」[ʃuka:「mi:」] (ひとえまぶたく単瞼)。「タカー」「ミー」
 [taka:「mi:」] (二重瞼)。「マンタ」カ「イ」 ミーン「デーヌ」 ンギ「トゥー」ン[man「takai」 mi:n「de:nu」 ?ŋgi「tu:」ŋ] (瞼にもものもらいが出ている)。「アラー」
 チュカー「ミー」 ヤロ[「?ara:」 ʃuka:「mi:」 jaro] (あれはひとえまぶたく単瞼だ)

「マンタギー」[「mantagi」:] (名)

まつげ(睫)。「マンタ」ギー「ヌ」 ナガ「スァン」[manta「gi:」nu naga「raŋ] (睫が長い)。「ヒラマー」 ミー「スィガ」 マンタ「ギーヤ」 ミー「ラン」[「çirama:」 mi:「θiga」 manta「gi:ja」 mi:「raŋ] (慶良間島は見えるが睫は見えない。灯台下くもと暗し)

「ミー」[「mi:」] (名)

目。「スウシ」 「スウ」ティ 「ミー」ン ミー「ラン」 ナ「ティ」 「チャン」 「ムン」ヌ
 [「θu:ʃi」 「θu」ti 「mi:m mi:」ran na「ti ʃam「mun」nu] (年をとって目も見えなくなってきたよ)。「アラー」 ミーヌ マギ「スァヌ」[「?ara:」 mi:nu magi「raŋu」] (あれは目が大きい)。「ミンタ」マー[minta「ma:」] (目の大きい人)。「ウブ
 フ」ミー[?uβu「mi:」] (大きな目。大きな目の人)。「ミーヌ」 「ヨースァ」 「ナタン」
 [「mi:nu」 「jo:ra」 「nataŋ] (視力が弱くなったく目が弱くなった)。「アラー」
 ミー「マギー」 ヤロ[「?ara:」 mi:「magi:」 jaro] (あの人は目が大きい)

「ミーウチ」[「mi:ʔuʃi」] (名)

まばたき(瞬き)。「ミーウチ」 シュ「ン」[「mi:ʔuʃi ʃu」ŋ] (瞬きする)。「アラー」
 チャー ミーウチ シュ「ン」[「?ara: ʃa: mi:ʔuʃi ʃu」ŋ] (あの人はいつも瞬きする)。「ミーウチ」 チュー「ン」[「mi:ʔuʃi ʃu:」ŋ] (瞬きしている)

ミークラ「ガン」[mi:kura「gaŋ] (名)

めまい (眩暈)。「アラー」 ユー ミークラ「ガン シュ」ン[ʔara: ʔ ju: mi:kura ʔgan ʔu ʔŋ] (あの人はくあれは>よく眩暈をする)。ミークラ「ガン チャ」ン[mi:kura ʔgan ʔa ʔŋ] (眩暈をした)

ミー「ティキーン」[mi: ʔtiki:ŋ] (動)

見つめる。睨む。ミーティ「キラン」キ「バ」[mi:ti ʔkiran ʔki ʔba] (見つめるなよ。睨むなよ)。ミーティキ「タン」[mi:tiki ʔtan] (見つめた。睨んだ)。ミーティキ「トゥーン」[mi:tiki ʔtu:ŋ] (見つめている)。「アヌ ッチョー」 ワン「ビカーン」 ミーティキ「トゥースィガヤー」[ʔanu tʃo: ʔ wam ʔbika:m ʔ mi:tiki ʔtu: θigaja:] (あの人は私だけを見つめているよ)。ミーティ「キリバ」[mi:ti ʔkiriba] (見つめなさい。睨みなさい)

「ミース」ク「チ」[ʔmi:nu ku ʔʃi] (連)

めがしら (目頭)。「目の口」の義か。「ミース」ク「チカイ」 ナダヌ 「スアマトゥーン」[ʔmi:nu ku ʔʃikai ʔ nadanu ʔ ʔramatu:ŋ] (目頭に涙がたまっている)。「ミース」ク「チカイ」 ミーク「スウヌ」 スアマトゥーン[ʔmi:nu ku ʔʃikai ʔ mi:ku ʔ θunu ʔ ʔramatu:ŋ] (目頭に目やにく目くそ>がたまっている)

ミース「シン」[mi:nu ʔʃiŋ] (名)

ひとみ (瞳)。「目の芯」の義か。ミース「シンヌ」 ヤリ[mi:nu ʔʃinnu ʔ jari] (瞳が痛む)。ドゥゲー「リヤー」マ ミース「シン」 ダキグシネー スアスアツ「ティ」ムノー ミー「ラン」ナ「タン」[duge: ʔrija: ʔ ma mi:nu ʔʃin dakiguʃine: ʔ ʔarat ʔti ʔ muno: ʔ mi: ʔran na ʔtan] (転んで、竹<竹串>で瞳を刺されて、ものが見えなくなった)

ミーピ「チャイン」[mi:pi ʔʃaiŋ] (動)

怒る。目を剥く。「目を光らせる」の義。ミーピ「チャラン」キ「バ」[mi:pi ʔʃaran ʔki ʔba] (怒るなよ)。ミーピ「チャタン」[mi:pi ʔʃatan] (怒った)。ミーピ「チャトゥーン」[mi:pi ʔʃatu:ŋ] (怒っている)。ミーピ「チャ」ティ「グン」[mi:pi ʔʃa ʔti ʔ g uŋ] (目を光らせている。怒っている)

「ミーフパヤー」[ʔmi: ʔʃupaja:] (名)

おめざ。目覚ましに与える菓子や食物。「スウィヌ」ナキグイシャーマ「ミーフ」バハ「タン」[ʔθuinu nakiguiʃa:ma ʔ mi:ja ʔʃuʔʃa ʔtan] (鶏の鳴き声で目が覚めた)。「シワ」シャーマ「ユナ」ガ「トゥ」ミーフ「バハ」ティ「ニンダランタン」[ʔʃiwa ʃa:ma ʔ juna ʔga ʔtu ʔ mi:ʔʃuʔʃati ʔ ʔnindarantan] (心配して夜通し目が覚めて<目が冴えて>眠れなかった)

「ミーミンコー[「mi:miŋko:] (名)

びく (魚籠)。女性が用いる魚籠

「ミーン[「mi:ŋ] (動)

①見る。読む。「シンブン」 ミーン[「ʃimbum」 mi:ŋ] (新聞を見る<読む>)。
「シバ」イ 「ミーン[「ʃiba」i 「mi:ŋ] (芝居を見る)。「ミヤン[「mijaŋ] (見ない)。
「ミーチャー ナラン」ムン ミチャー「ン[「mi:ʃa: naram」mum miʃa」ŋ] (見
てはならないものを見た)。「ミチャー」ンバーイ[「miʃa」mba:i] (見たとき)。ミー「
バ[mi:「ba] (見なさい)。「マー」ン ミヤン「ヨー」マ 「フマ 「ミーパー[「ma:」m
mijaŋ「jo:」ma 「Φuma 「mi:ba] (何処も見ないでここを見なさい)。「ミーパー
スイミ」タン」 ムンヌ ミー「ハン」チ 「ナーン[「mi:ba θimi」tam」
munnu mi:「Φan」ʃi 「na:ŋ] (見ればよかったのに、見損なって<見はずして>
しまった)。「ミー」ブ」シャン[mi:「bu」ʃaŋ] (見たい)。「ミー」ブ」シャタスイガ」 ミ
ヤ「ランタン[mi:「buʃata θiga」 mija「rantaŋ] (見たかったが見れなかった)。「
シバイ ミー」ガ 「イキン[「ʃibai mi:」ga 「?ikiŋ] (芝居を見に行く)。「シン
ブドゥ」 ミチュール[「ʃimbundu」 miʃu:ru] (新聞を<ぞ>見ている<読んで
いる>)。②世話する。「ワナー 「アンネ」ー ミ「ヤットウーン[「wana:
「?anne」: mi「jattu:ŋ] (私はあれの<あの人の>世話になっている)

ミーン「デー[mi:n「de:] (名)

ものもらい (麦粒腫)。「ミーン」デー」ヌ 「ンギ」タン[mi:n「de:」nu 「ŋgi」taŋ] (も
のもらい<麦粒腫>が出来た)。「ミーン」デー」ヤ 「キヤー」チ ノー「チャガヤー[mi
:n「de:ja kja:」ʃi no:「ʃagaja:] (ものもらい<麦粒腫>はどうやって治したか
なあ)

ミツ「カー[mik「ka:] (名)

盲人。「ビョー」キ 「ハカヤーマ」 ミツカ 「ナ」ティナーン「ムン」ヌ[bjo:「ki hak
aja:ma」 mikka 「na」tina:m「mun」nu] (病気に罹って盲人になってしまった
よ)。「ティブンチ」 ニティヌ 「アガイックワシャーマ」 ミーヤ ミー「ラン
ナ」ティナーン[「tibunʃi」 nitinu 「?agaikkwaf:a:ma」 mi:ja mi:「ran na」
tina:ŋ] (頭に熱が上がりすぎて、目が見えなくなってしまった)

「ミミ[「mimi] (名)

みみ (耳)。「ミミ」マギー[mimi「magi:] (耳の大きい人)。「ミミン」ヌ 「スウースァ
ン[「miminu 「θu:raŋ] (難聴である<耳が遠い>)。「ミミ」クジラー[mimi「kuʃi
ra:] (難聴の人。「耳崩れ」の義か)。「ツチュグトゥヌ」 ミ「ミチ」 イーン[「tʃu
gutunu」 mi「miʃi」 ?i:ŋ] (うわさ<ひとごと>。「人言」の義か>が耳に入る)

「ミリ」ハンダイ[「miri」Φandai] (名)

みずばな (水っ漬)。「^バハナシキ ハカ^ティ ミリ^バハン[「]ダイヌ[」] ンギーン[「]Φa
naʃiki haka[」]ti miri^Φan[」] dainu[」] ʔngi:ŋ] (風邪をひいて水っ漬が出る)

ミン[「]カー[」][miŋ[」]ka:] (名)

聾者。ミミクジ[「]ラー[」][mimikuʃi[」]ra:] (聾者。「耳崩れ」の義)ともいう。[」]ミミヌ
クジ[「]リティ ッチュヌ イーヌ[」] パナ[「]シーヤ チカラン[」][[」]miminu kuʃi[」]r
iti tʃunu ʔi:nu[」] pana[」]ʃi:ja ʃikaraŋ] (耳が潰れて他人のいうことが聞けな
い)

[「]ムキーン[」][[」]muki:ŋ] (動)

剥ける。「^バハギーン[「]Φagi:ŋ] (剥げる)ともいう。

[「]ムクルー[」]ン[「]「mukuru:ŋ] (動)

むく (浮腫) んでいる。[」]ティラヌ [「]ムクルー[」]ン[「]「tiranu [」]mukuru:ŋ] (顔
が浮腫んでいる)。

[「]ムシバー[」][[」]muʃiba:] (名)

虫歯。「^アマムン[」]ビカーン [」]ケーヤー [「]ムシバー ナイン[」]ドー[「]「ʔamamum[」]b
ika:ŋ [」]ke:ja: [「]muʃiba: nain[」]do:] (甘いものばかり食べたら虫歯になるよ)。
[「]ムシバーヌ[」] ウプ[「]スアン[」][[」]muʃiba:nu[」] ʔupu[」]raŋ] (虫歯が多い)。「[」]ムシバー
ヌ[」] マン[「]ドゥー[」]ン[「]「muʃiba:nu[」] man[」]du:ŋ] (虫歯が沢山ある)ともいう。

[「]ム[」]ム[「]「mu[」]mu] (名)

もも (腿)。[」]ムムヌ マギ[「]スアン[」][[」]mumunu magi[」]raŋ] (腿が大きい)。「[」]アン
マリ[」] ヘーイジュー[「]スアヌ[」] マタヌ [「]スイティ[」] アッキ[「]ハンティ シュン
[[」]ʔammari[」] he:iʃu: [」]raŋu[」] matanu [」]θiti[」] ʔakki[」]hanti ʃuŋ] (あまり
にも肥え過ぎて股が擦れて歩きにくい)

[」]ムン [「]イー[」]ン[「]「muŋ [」]ʔi:ŋ] (連)

ものをいう。[」]ムノー [「]イヤン[」][[」]muno: [」]ʔijaŋ] (ものは言わない)。[」]ムン [「]イ
チャン[」][[」]muŋ [」]ʔiʃaŋ] (ものを言った)。「[」]イチ[」] スウラ[「]スイバ[」][[」]ʔiʃi[」] θura
[」]θiba] (言ってくれよ)。「[」]イヤン[」]キ[「]バ[」][[」]ʔijaŋ[」]ki[」]ba] (言うな)。「[」]イーブシャ
ン[「]「ʔi:buʃaŋ] (言いたい)。「[」]イースイ[」] チ[「]キバ[」][[」]ʔi:θi[」] ʃi[」]kiba] (言う事を
聞きなさいよ)。「[」]イーサー[」] チ[「]カンバ[」][[」]ʔi:ra: [」]ʃi[」]kamba] (言う事は聞き
なさい)

ムンユ[「]ミヤー[」][muŋju[」]mja:] (名)

おしゃべり。「ものよみ」の義か。「[」]アラ[」] ムン[「]ユミヤー ヤクトウ アンネー
ヤ ヌー[」]ン チ[「]カスアラン[」][[」]ʔara: [」]muŋ[」]jumja: jakutu ʔanne:ja nu:[」]
n ʃi[」]kaʃaraŋ] (あれはお喋りだから、あれには何も話せない<聞かされない>。
話して聞かされない)。「[」]アラ[」] ムン[「]ユミヤー[」] ヤル[「]「ʔara: [」]muŋ[」]jumja: [」]

jaru] (あれはお喋りだ)

「ヤキバイ」[「jakibai】(名)

「焼き針」の義。針を焼いて腫物に刺し、膿を出す民間医療器具。針を四、五本焼いて、それを使って悪性の腫れ物を治療した。「クビカイ」 ブクヌ ンギ「ヤーマ ヤキバイ スアッタン チュン ヲグスアー」[「kúbikai」 bukunu ʔngi「ja:ma jakibai rattan ʃuʔŋ ʔgura:](首に瘤ができて、焼き針をされた人もいるよ)。「ヤキバイ スアシャーマ」 ンミヤー ンギヤ「シュル」[「jakibai raʃa:ma」 ʔmmja: ʔngja「ʃuru】(焼き針を刺して膿は出すのだ)

「ヤチュー」[「jaʃu:](名)

やいと(お灸)。「ヤチュー」 「シュン」[「jaʃu:」 ʃuŋ】(お灸をすえる)。「ヤチュー」 「スアリー」[「jaʃu:」 ʔrari:ŋ】(お灸される)。「ティブ」ヌ ヲヤリ 「ヤチュー」 「ツチャクトウ」 ノータ「スアー」[「tibun」nu ʔjari ʔjaʃu: 「tʃakutu」 no:ta「ra:](頭痛がしてお灸をしたら治ったよ)

「ヤナハラ」[「janahara】(名)

臭い匂い。「ヤナハラ」 ツチ「janahara tʃi】(いやな匂いがして)。「ヤナハラ」 ツチ 「フシ」ガラン「janahara tʃi」 ʔuʃi「garan】(臭い匂いがしてたまらない)

「ヤミン」[「jamin】(動)

痛む。痛い。「ヤマン」[「jamaŋ】(痛まない。痛くない)。「マー」ン 「ヤマ」ン[「ma:」ŋ ʔjamaʔŋ】(何処も痛くない)。「マー」ヌ 「ヤミガ」[「ma:nu」 ʔjamiga】(何処が痛いか)。「ヤミ」タン「jami」tan】(痛かった)。「ヤリン」 ニリ「リバ」[「jarin niri」ri ba】(痛くても我慢く念じ>しなさい)。「ハ」ヌ ヲヤミン「ʔpa:」nu ʔjamin】(歯が痛い。痛む)。「ティブ」ヌ ヲヤミン「tibunnu」 jamin】(頭が痛い)。「ヤダ」ン[「jada」ŋ】(痛んだ)。「シレー」 「シレー」 ヤリ 「シュー」ン[「fire:」 ʃire:」 ʔjari ʃu:」ŋ】(次第に痛くなってくる)。「キジ」ヌ ヲヤミン「kiʃinu」 jamin】(傷が痛む)。「ヤミ」ン バー「イ」ー[「jami」 m ba:」i:](痛いとき、痛むとき)。「ヤリ」 プシ「ガラン」[「jari」 ʔʔuʃi「garan】(痛くてたまらない)。「プシ」ガラン アタイ「ヤミン」[ʔʔuʃi「garan」 ʔata」i ʔjamin】(我慢できないほど痛い。痛む)。「ティブ」ヌ ワリ」ンネー「チ」 ヲヤリ プシ「ガラン」[「tibunnu wari:nne:」 ʔʃi ʔjari ʔʔuʃi「garan】(頭が割れるように痛くてたまらない<我慢できない>)

ヤン「メー」[jam「me:](名)

病気。「やまい(病)」の義。「ヤン」メー ハカ「ティ」[jam「me:」 haka」ti】(病気に罹って)。「ヤン」メームン ナ「ティ」[jam「me:mun」 na」ti】(病人になって)。「ヤン」メー「ヌ」 ノー「タン」[jam「me:」nu no:」tan】(病気が治った)。「ティブ」ルヤン「メー」[tiburujam「me:](頭痛。「頭の病」の義)。

ユキ「ガムン」[juki ɾgamuŋ] (名)

男もの (男用の衣類)。ユキガ「ムンヌ ディキンヌ」 イキラ「スアン」[jukiga ɾmu nnu dikinnu ɾ ʔikira ɾraŋ] (男用の衣類が少ない)

ユク「イン」[juku ɾiŋ] (動)

寝る。休む。ユク「リバ」[juku ɾriba] (寝なさい。休みなさい)。ユクイン「ショーリバ」[jukuin ɾʃoriba] (お休みなさいまし)。「ユク」チ 「ナイン」[ɾjuku ɾʃi ɾnain] (横になる。休む) ユク「チャン」[juku ɾʃaŋ] (横になった)。ユク「チャンニン」ジ[juku ɾʃannin ɾʃi] (横になって寝ること)

ユク「チャン」[juku ɾʃa ɾŋ] (動)

横になった。休んだ。ユク「チャン ナ」ティ 「ニンジュン」[juku ɾʃan na ɾti ɾ ninʃuŋ] (横になって寝る)

ユ「ゲーティ」[ju ɾge:ti] (名)

熱湯で火傷すること。ユゲー「タン」[juge: ɾtaŋ] (熱湯で火傷した)。ユ「ゲーランネー」チ 「ユーヤ」 「イリランバ」[ju ɾge:ranne: ɾʃi ɾju:ja ɾʔiriramba] (火傷しないようにお湯は入れなさいよ)。「ユー」 「ハキラリヤーマ」 スィー ユ「ゲーラ スアッタン」[ɾju: ɾhakirarija:ma ɾθi: ju ɾge:raʃattan] (お湯をかけられて、手を火傷した)。ユゲー「リーヤ チャーキ」 ンシュ 「ダカスアンバ (「ヌランバ」) [juge: ɾri:ja ʃa:ki ɾŋʃu ɾdakaramba (ɾnuramba)] (火傷したらすぐ味噌を抱かせなさい<塗りなさい>)

「ユダ」イ「[juda ɾi] (名)

よだれ (涎)。「ユダイ スアラシュン」[ɾjudai ɾaraʃuŋ] (涎を垂らす)。グイ「チャーヤ」 ユー 「ユダイ スアラシュン」ミヤー「[gui ɾʃa:ja ɾju: ɾjudai ɾara ʃuŋ ɾmja:] (酔っ払いは、よく涎をたらすよ)。ワラビ「チューイヌ ユダヤーヤ」 ウフツチュ 「ナティン ユダヤーツチ イヤリーン」ミヤー「[warabi ɾʃu:inu ju daja:ja ɾʔuʃutʃu ɾnatiŋ judaja:tʃi ʔijari:m ɾmja:] (子供のときの涎垂らしは大人になっても涎垂らしと言われるよ)

ユン「タク」[jun ɾtaku] (名)

お喋り。無駄口。ユン「タク シュン」[jun ɾtaku ʃuŋ] (お喋りする)。「アラー」 ユン「タクツチ ギチュータン」[ɾʔara: ɾ jun ɾtakutʃi gifu:taŋ] (あれはお喋りして座っていた)。「アラー」 ユンタク「シャー」 ヤル「[ʔara: ɾ juntaku ɾʃa: ɾ jaru] (あれはお喋りだ)。

「ヨーガラー」[ɾjo:gara:] (名)

痩せている人。

「ヨーガリトウー」ン「[ɾjo:garitu: ɾŋ] (動)

痩せている。「ヨーガラン」キ「バ」[jo:garaŋ ki'ba] (痩せるな)。「ヨーガリティ」
ナーン[jo:gariti na:ŋ] (痩せてしまった)。「シレー」シレー ヨーガリ「ティ」
イキン[fire: fire: jo:gari ti 'iŋ] (次第次第に痩せていく)。「アン」ツチ
ヨー「ビョー」キガ「ム」チュウ「ラ」ダン「ダ」ŋ 「ヨーガリトウ」ŋ[ʔan
tʃo: bjo: kiga mut'ʃu:ra dan'da'ŋ jo:garitu:ŋ] (あの人は病気を
持っているのか、だんだん痩せてくる)

ヨー「ラー」[jo: ra:] (名)

わきばら (脇腹)。「ヨー」ラーヌ「ヤリ」キヤー「ン」ナラン[jo: ra:nu jari
'kja: n 'naraŋ] (脇腹が痛くてたまらない<どうにもならない>)。「アリ」トウ
オー「ヤー」マ ヨー「ラー」ティカ「ッ」ティ「ナマ」ŋ ヤミ「スア」[ʔari tu
ʔo: ja: ma jo: ra: tika'ti 'nama'ŋ jami'ra:] (あれと喧嘩して脇腹
を突かれて、今でも痛むよ)

ワーバ「グ」トウ[wa:ba'gu tu] (名)

余計なこと。必要以上の無用なこと。無益なこと。「ワーバ」グトウ「ツ」チ[wa:ba'
gutu t'ʃi] (余計なことをして)。「ワーバ」グト「イヤ」ンカンバ[wa:ba'guto:
ʔija'ŋkamba] (余計なことは言うなよ)。「ワーバ」グト「ユマ」ンカン「バ」[wa:
ba'guto: jumaŋ'kam'ba] (余計なことは喋るな)。「ユリ」アッカ「ン」カン
バ[juri'ʔakka'ŋ 'kamba] (触れ回るな。言いふらすな)

ワー「ブン」[wa: puŋ] (名)

豚舎。豚小屋。戦前は各家庭で豚を飼育していた。伝統的な豚舎は屋敷の北西の隅
に設置されていた。砂岩で囲い、屋根をかけ、床面は平石を敷きつめ、糞尿が流れ
出す溝にかけて緩やかな勾配をかけ、その前に人糞を落とすための便器を供えた構
造であった。便器の前には目隠しとなる石垣が約1メートルの高さに積み囲われて
いた。

「ワタ」[wata] (名)

はら (腹)。「内臓」全体。「はら」わた。「内臓」。「ワタ」ヤマ「チャン」ツ「クワ」[wata '
jamaʃaŋ k'kwa] (腹を痛めて生んだ子)。「ワタ」ヤマ「チ」ナ「チャヌ」ツ「クワ」
ヤスイガ「フルイタ」クトウ「ゲー」ツチ「キヤー」ŋ「ナラン」[wata 'jamaʃi'
naʃanu k'kwa ja θiga ʔʉruitakutu ge:tʃi kja: n 'naraŋ] (腹を痛めて
生んだ子だが、成長したら反抗してどうにもならない)。「ワタヌ」ヤミ「ン」
[watan u 'jamiŋ] (腹が痛む。腹痛がする)。「ワタ」ム「ゲー」ティ「キヤー」ŋ「ナラン」
[wata mu'ge:ti kja: n 'naraŋ] (腹が立って<腸が煮えたぎって>仕方が
ない)

「ワチャ」[waʃa] (名)

わき (腋)。「ワチャグイン」[「wafʃaguin」] (腋の下をこそぐる。くすぐる)。ワチャ「グラン」キ「バ」[「wafʃa ʃguran ki ba」] (くすぐるな)。ワチャ「グトーン」[「wafʃa ʃguto:ŋ」] (くすぐっている)。「ワナー」ワチャ「グラン」[「wana: wafʃa ʃguran」] (私はくすぐらない)。「ワチャヌ」ツ「シャー」バハゴ「スアン」[「wafʃanu ʃʃa: ʃpʰag o: ʃraŋ」] (腋の下は痒いくこそばゆい)。「ワチャヌ」ゴ「シャーヌ」ハキ「ブシャ」ン[「wafʃanu go: ʃʃanu haki buʃaŋ」] (腋が痒くて搔きたくなった)

ワラ「グ」ティ「[wara ʃgu ti」] (名)

わらじ (草鞋)。「アラン」[「ʔaran」] (あだん) の気根の繊維を裂いて草鞋を編んだ。ミカ「シャー」ハ「チラ イユ クワーシガ」ンジャイ ユナグン「シャーガ イライ シーガ イキーヤ」ワラ「グティ クリル」ウミ「チャー」イキタル[mi ka ʃa: ha ʃfira ʔiju kwa:ʃiga ʔnɕai junaguŋ ʃa:ga ʔirai ʃi:ga ʔiki:ja wara ʃguti kuriru ʔumi ʃfa: ʔikitaru」] (昔は徒で魚釣りに行ったり、女達がいさり<漁り>しに行くときは、草鞋を履いて<ぞ>、海へは行ったものである)

「ワレー」ブク「[ware: ʃbuku」] (名)

えくぼ (笑窪)。「ワレーブク」ヌ フツチャギ「スアン」[「ware:buku nu ʃutʃagi ʃraŋ」] (えくぼ<笑窪>が可愛らしい)

「ンギャナー」[「ʔŋjana:」] (名)

どもり (吃音)。「アラ」ンギャナー「ヤル」[「ʔara: ʔŋjana: ʃjaru」] (あれはどもり<吃音者>だ)。「アラ」ンギャナー「ヤスイガ」スアンシン「ピチウテーヤ」ンギャナー「ハカラスアン」[「ʔara: ʔŋjana: ʃja θiga ʃraŋʃim piʃi ʔute:ja ʔŋjana: hakararaŋ」] (あれはどもり<吃音者>だが三味線を弾いて歌う時にはどもらない)。「ユー」ンギャニ「シュン」[「ju: ʃŋjani ʃuŋ」] (良くどもる)。「ナマ」ンギャナー「ノーティ」スアン[「nama ʔŋjana: no:ti ʃraŋ」] (今はどもり<吃音>は治って、どもらない<しない>)。ミカ「シャー」ユー「ンギャニ」シュ「タ」ン[mi ka ʃa: ju: ʃŋjani ʃu ta ŋ」] (昔はよくどもった<吃音した>)

「ンニ」[「nni」] (名)

胸。「ンニ」ヌ マギ「スアン」[「nni nu magi ʃraŋ」] (胸が大きい)。「ンニ」ヌ グマ「スアン」[「nni nu guma ʃraŋ」] (胸が小さい)

「ンブキーン」[「ʔmbuki:ŋ」] (動)

おぼれる (溺)。「ンブキタン」[「ʔmbukitan」] (溺れた)。「ンブキラン」[「ʔmbukiran」] (溺れない)。「ンブキーヤ」スアタキ「ムトゥミリバ」[「ʔmbuki:ja ʃrataki ʃmutumiriba」] (溺れたら助けをもとめなさい)。「ンブキトゥ」ン「ワラビ」スア

タキタン[ʔmbukitu:ŋ ʔwarabi ʔratakitaŋ] (溺れている子供を助けた)。「
ンブキギスアー ナイヤー」 スアタキ 「ムトゥミリバ[ʔmbukigira: naija:ʔ
ratakiki ʔmutumiriba] (溺れそうになったら助けを求めなさい)

ンブスアŋ[ʔmburaŋ] (形)

重い。「ンブスアー」ナーン[ʔmbura:na:ŋ] (重くない)。「ンブスアイヤ[ʔmbur
aija] (重いか)。「ンブスアタン[ʔmburataŋ] (重かった)。「ンブスアナ」ティ
「シューŋ[ʔmburanaʔti ʔʃu:ŋ] (重くなってくる)。「ウヌ バキヤー」ヌー
ヌ 「イチチューラ ンブスア」ヌ 「ムチ 「アギララン[ʔunu bakja:ʔ nu:nu
ʔitʃu:ra ʔmburaʔnu ʔmuʃi ʔagiraraŋ] (このざる<箒>には何が入って
いるのか、重くて持ち上げられない)。「ンブスアナイン[ʔmburanaiŋ] (重くなる)

ンブ」トゥ[mbuʔtu] (名)

できもの(出来物)。「ねぶと(根太)」の義か。背部、大腿部、臀部などに生ずる腫
れ物。ンブ」トゥ」ヌ ンギ」タン[mbuʔtuʔnu ʔŋgiʔtaŋ] (出来物<根太>が出来
た)

ン」マリーン[ʔm」mari:ŋ] (動)

生まれる。ン」マリタン[ʔm」maritaŋ] (生まれた)。「ン」マッタン[ʔm」mattaŋ] (生
まれた)ともいう。「ナマ」 ン」マリラン[naʔmaʔ ʔm」mariraŋ] (まだ生まれな
い)。「ナマ」 ン」マリラネー[naʔmaʔ ʔm」marirane:] (まだ生まれないか)。「ン
」マリタイヤ[ʔm」maritaija] (生まれたか)

ンミ[ʔmmi] (名)

うみ(膿)。「ンミヌ」 ンギーン[ʔmminuʔ ʔŋgi:ŋ] (膿が出る)。「ンミ ンギ
ヤ」シューŋ[ʔmmi ʔŋgiaʔʃuŋ] (膿を出す)。「ニブ」トゥ ンミ ンギヤシューŋ[ni
buʔtu ʔmmi ʔŋgiaʃuŋ] (出来物<根太>の膿を出す)